

平成24年度
富山市モビリティ・マネジメント
教育推進事業支援業務
報告書
(資料編)

平成25年3月
富山市

目 次

1. 学習プログラムの教材等	1
2. アンケート調査票	9
3. 小教研部長ヒアリング	11
(1) 社会科部会 部長ヒアリング結果	11
(2) 総合的な学習の時間部会 部長ヒアリング結果	16
4. 有識者ヒアリング	21
5. 小教研での PR	24
(1) 社会科部会 説明資料	24
(2) 総合的な学習の時間部会 説明資料	35
6. 富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会	48
(1) 第 2 回協議会	48
(2) 第 3 回協議会	81
7. 検討部会	117
(1) 第 1 回検討部会	117
(2) 第 2 回検討部会	123
(3) 第 3 回検討部会	133
(4) 第 4 回検討部会	141

1. 学習プログラムの教材

社会科 4 年生、社会科 6 年生、総合的な学習の時間 4 年生において、児童用パンフレットの製作を行った。平成 25 年度に内容の再検討を行って完成させる予定となっている。

- ・ 社会科 4 年生

児童用パンフレット：富山県の交通の様子

- ・ 社会科 6 年生

児童用パンフレット：富山の新しいまちづくり

~まちを元気にするライトレール~

：富山市の「くしとだんごのまちづくり」

- ・ 総合的な学習の時間 4 年生

児童用パンフレット：おでかけ定期券って何だろう？

と やま けん こ う つ う よ う ず 富山県の交通の様子



● 交通とは?

「人」や「もの」を運ぶための大切な働きです。

● 公共交通とは?

交通のうち、「電車」や「バス」など、だれでも利用できる乗り物のことをいいます。

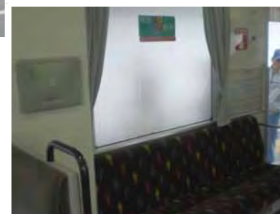


駐輪場(速星駅)



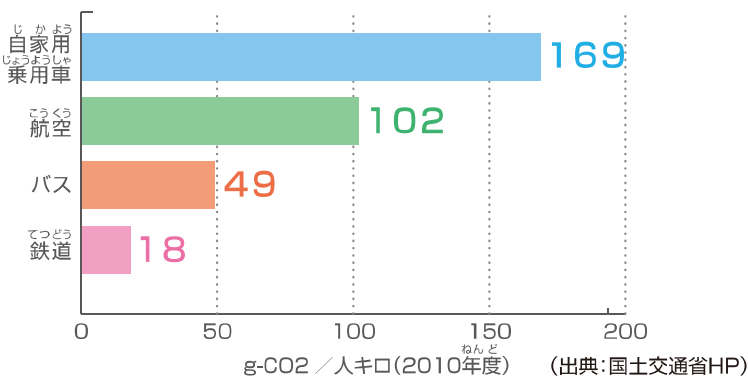
優先座席

パークアンドライド駐車場(越中八尾駅周辺)



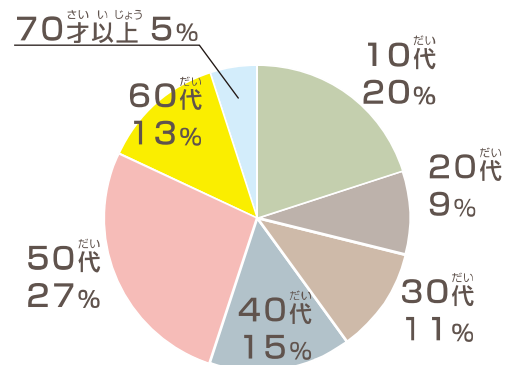
↓ 環境に優しい公共交通(バスや電車)

1人を1km運ぶのに排出される二酸化炭素の量

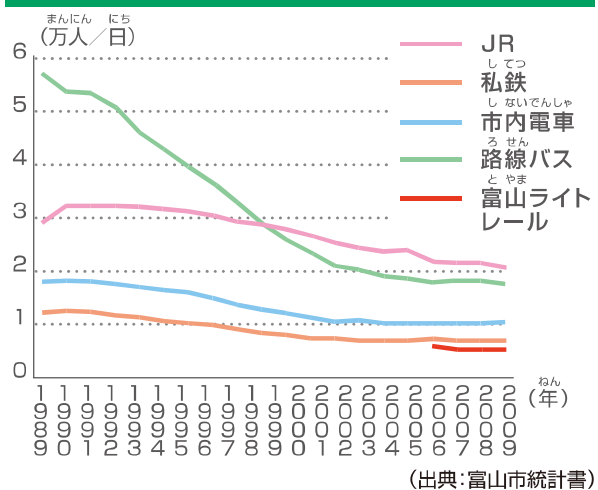


↓ 公共交通(電車)を利用する人

JR高山本線を利用する人(平日)



↓ 公共交通の利用者数



↓ JR高山本線(電車)と市街地(住宅の多いところ)



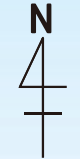
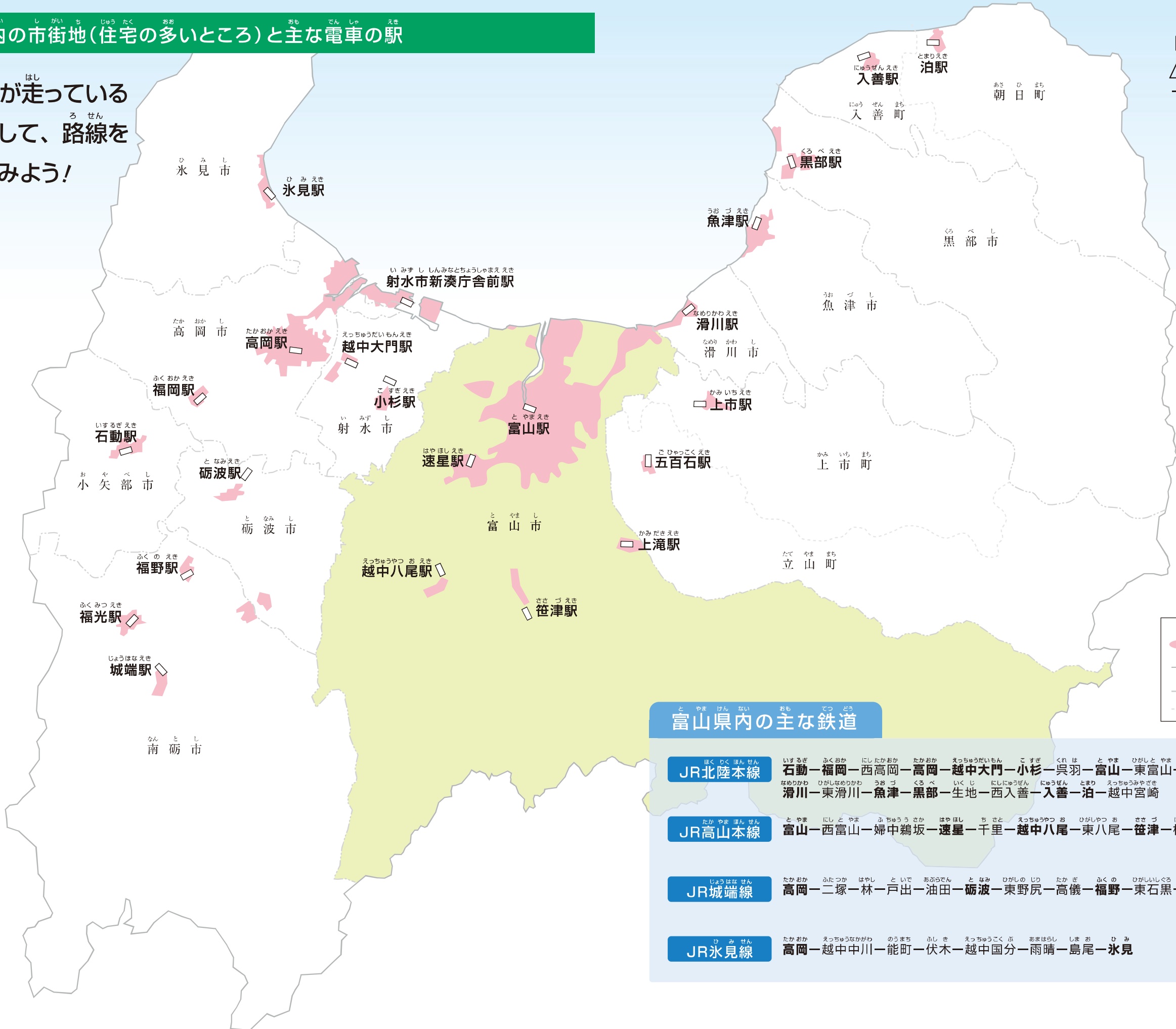
富山駅周辺



越中八尾駅

富山県内の市街地(住宅の多いところ)と主な電車の駅

電車の線路が走っている
場所を予想して、路線を
書き入れてみよう!



- 凡例
- 市街地(住宅の多いところ)
 - 県のさかい
 - 市や郡のさかい
 - 町や村のさかい

富山県内の主な鉄道

- JR北陸本線** 石動—福岡—西高岡—高岡—越中大門—小杉—呉羽—富山—東富山—水橋—滑川—東滑川—魚津—黒部—生地—西入善—入善—泊—越中宮崎
- JR高山本線** 富山—西富山—婦中鵜坂—速星—千里—越中八尾—東八尾—笹津—楡原—猪谷
- JR城端線** 高岡—二塚—林—戸出—油田—砺波—東野尻—高儀—福野—東石黒—福光—越中山田—城端
- JR氷見線** 高岡—越中中川—能町—伏木—越中国分—雨晴—島尾—氷見

なぜ、ライトレールがつくられたのだろうか？

世帯あたりの自家用車保有台数

1.72(台)
1世帯あたり



(自動車検査登録情報協会[平成23年3月末現在])

自家用車保有台数の増加

普通車 は1.4倍に増加(全国平均1.2倍)

軽自動車 は7.6倍に増加(全国平均6.4倍)

富山市の自動車保有台数の推移

	1990年	2010年
普通車	127,276台	174,954台
軽自動車	10,826台	82,570台

(出典:富山市統計書H23,国土交通白書H22)

自由に車を使えない人

(出典:平成18年富山市の公共交通に関する意識調査)

自由に使える車がない



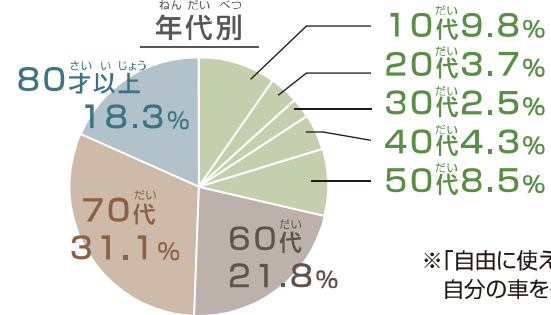
29.5%

自由に使える車がある



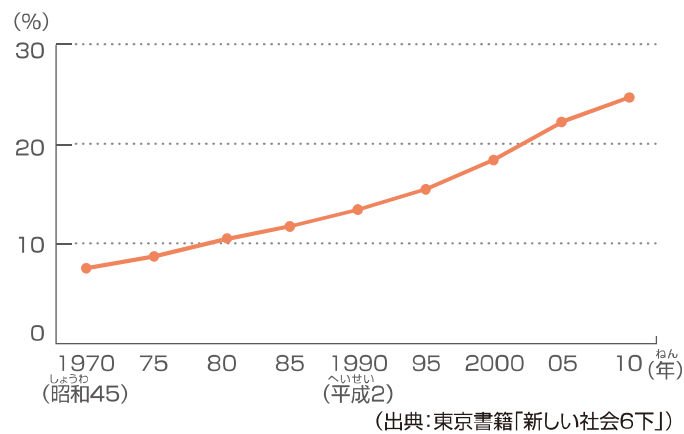
70.5%

自由に車が使えないのは、どんな人？

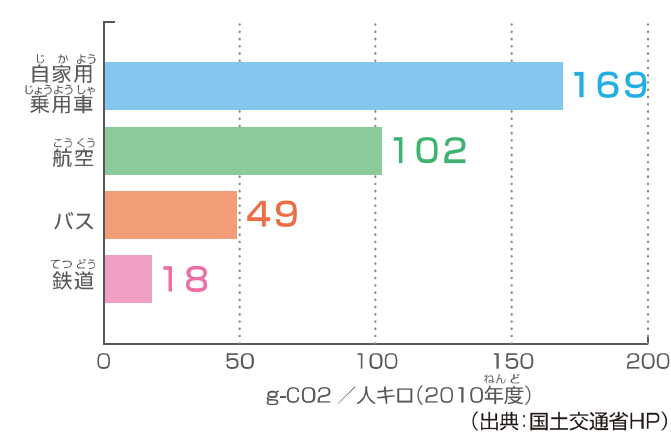


※「自由に使える車がない人」とは、運転免許証がない人や、自分の車をもっていない人を指します。

富山市の65才以上の人口の割合



1人を1km運ぶのに排出される二酸化炭素の量



富山市交通政策課

富山の新しいまちづくり

～まちを元気にするライトレール～



ライトレールは、地域に密着した安全・安心・快適で、環境にやさしい公共交通を目指して、平成18年4月29日に開業しました。



ライトレールが運行している場所

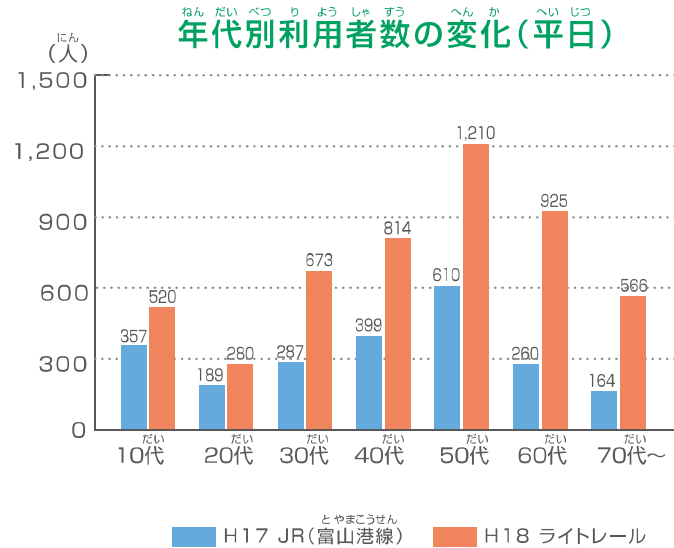
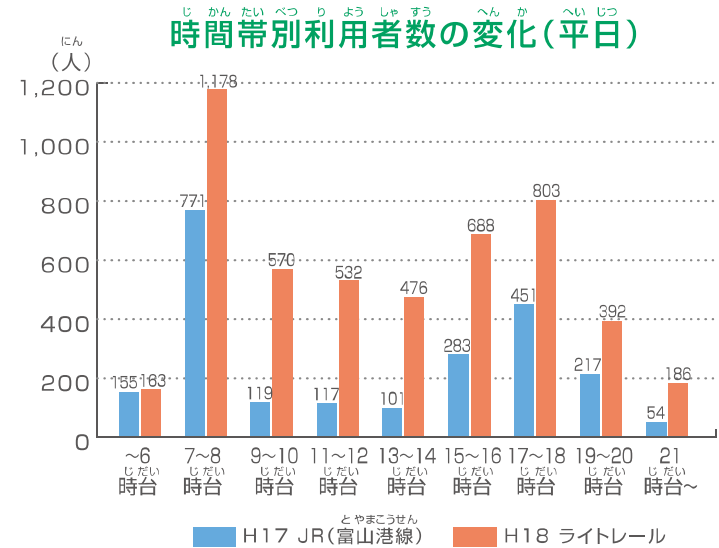


なぜ、ライトレールを利用する人が増えたのだろう？

↓ ライトレールの利用者数(平成24年3月末)

平日 **4,815人/日**
(開業前2,266人/日)

休日 **3,717人/日**
(開業前1,045人/日)



富山港線とライトレールを比較してみよう

JR(富山港線)

電停

車両

ライトレール

JR(富山港線)

運賃支払

運賃箱

切符券売機

ライトレール

カードリーダー

バスカ販売・積み増し機



時刻表

とやまこせん	とやまこせん	とやまこせん	とやまこせん
富山駅発	平日	富山駅北発	平日
6時	00 19	52	
7時		30	
8時	01	34	
9時		58	
10時			
11時	11		
12時		57	
13時			
14時	04		
15時	08		
16時		14 38	
17時		16 54	
18時		26	
19時		11	
20時	08		
21時		23	

時刻表

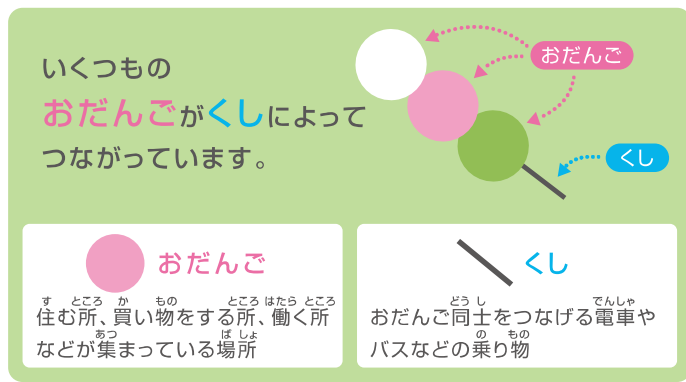
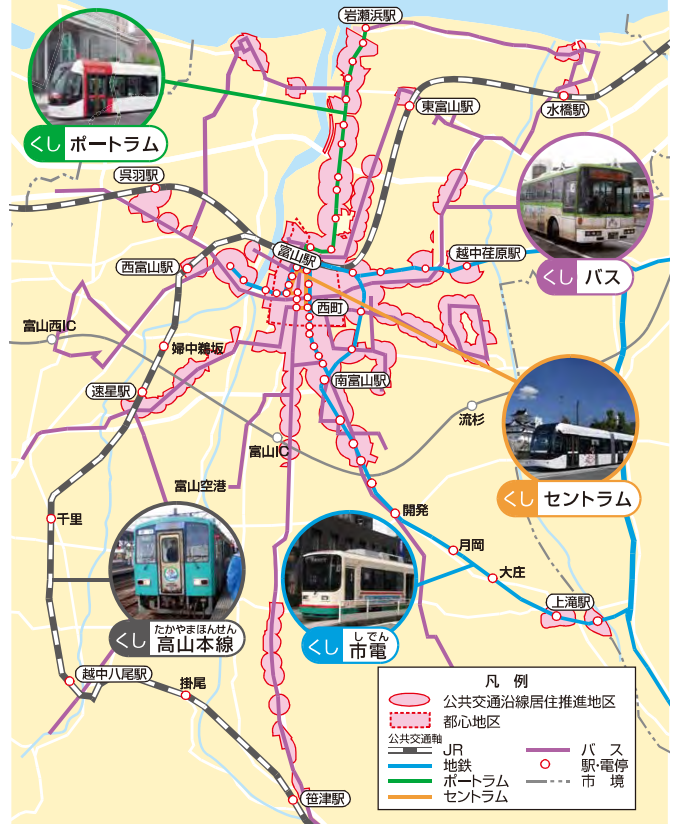
とやまこせん	とやまこせん	とやまこせん	とやまこせん	とやまこせん	とやまこせん
富山駅北発	平日	富山駅北発	平日	富山駅北発	平日
5時	57				
6時	35 53				
7時	14	24 35	45 55		
8時	05 15	25 35	45 57		
9時	06 14	30 45			
10時	00 15 30 45				
11時	00 15 30 45				
12時	00 15 30 45				
13時	00 15 30 45				
14時	00 15 30 45				
15時	00 15 30 45				
16時	00 15 30 45				
17時	00 15 30 45				
18時	00 15 30 45				
19時	00 15 30 45				
20時	00 15 45				
21時	15 45				
22時	15 45				
23時	15				

(出典:「富山ライトレールの誕生」)

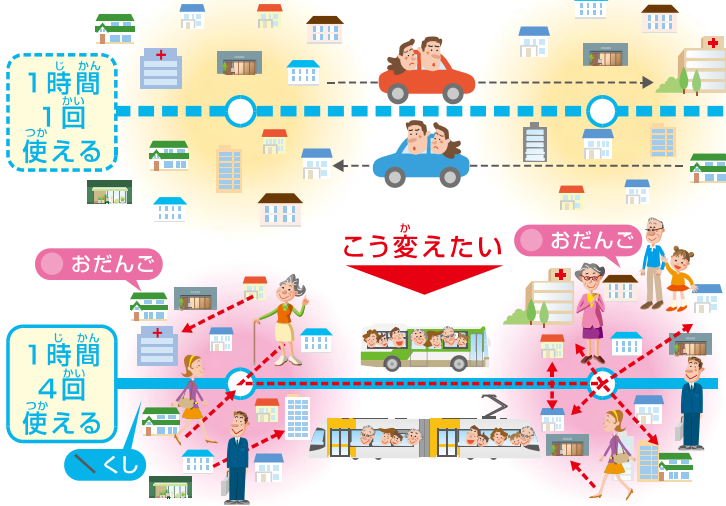
※×の列車は、越中島止まりです。
※■は2番線発車です。(出典:富山ライトレールHP)

とやまし 富山市の「くしとだんごのまちづくり」

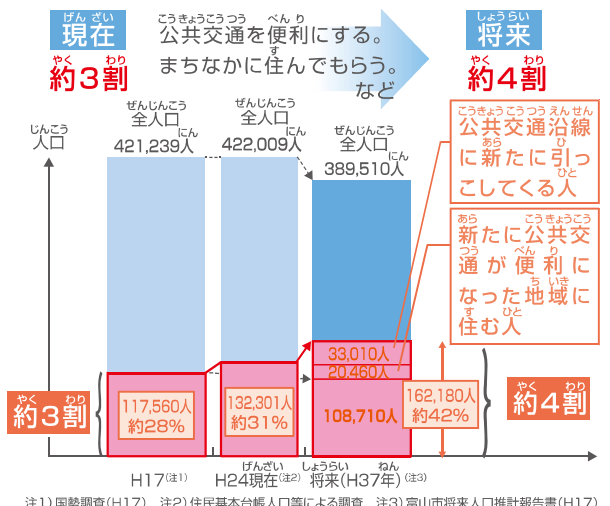
富山市は住む所や買い物をする所がいろいろな場所にちらばっているため、車がないと移動するのが不便です。そこで富山市では、家や店などが集中する場所（おだんご）を公共交通（くし）でつなぐ「くしとだんごのまちづくり」に取り組んでいます。ちらばったまちを集中した場所（おだんご）に変えて、公共交通を使う人を増やし、公共交通（くし）を使いやすくすることで、車を使わなくても移動できるようにしたいと考えています。



富山市が目指しているまち



公共交通の便利な地域に住む人を増加



富山市交通政策課

東福光晴さんのお話



公共交通を便利にすると、高齢者や体の不自由な人など車が使えない人でも、気軽に移動ができるようになります。また、車の代わりに公共交通を利用すると二酸化炭素の排出量が削減されます。富山市は、「くしとだんごのまちづくり」に取り組むことで、人と環境に優しいまちを目指しています。



おでかけ定期券 は、
こんなところでも使えます。



富山ライトレール

富山ライトレール(ポートルムとフィーダーバス)は、どの駅、バス停で乗りおりしても、1回それぞれ100円で利用できます。

路面電車

市内電車は、どの電停で乗りおりしても、1回100円で利用できます。



地鉄電車

富山地方鉄道本線、立山線、不二越・上滝線の市内にある駅と、電鉄富山駅、南富山駅の各区間を1回100円で利用できます。



おでかけ定期券 って
何だろう?



「おでかけ定期券」は、富山市に住んでいる65歳以上の人たちが、市内のいろいろな場所から中心市街地に行くときに、100円でバスや電車に乗れる定期券です。

- 利用できる人**
富山市内に住む65歳以上の人
- 利用できる交通機関**
地鉄路線バス・地鉄電車・市内電車・富山ライトレール(ポートルム、フィーダーバス)・まいどはやバス

- 割引になる時間帯**
9時～17時(おりの時間)

富山市交通政策課

東福光晴さんのお話

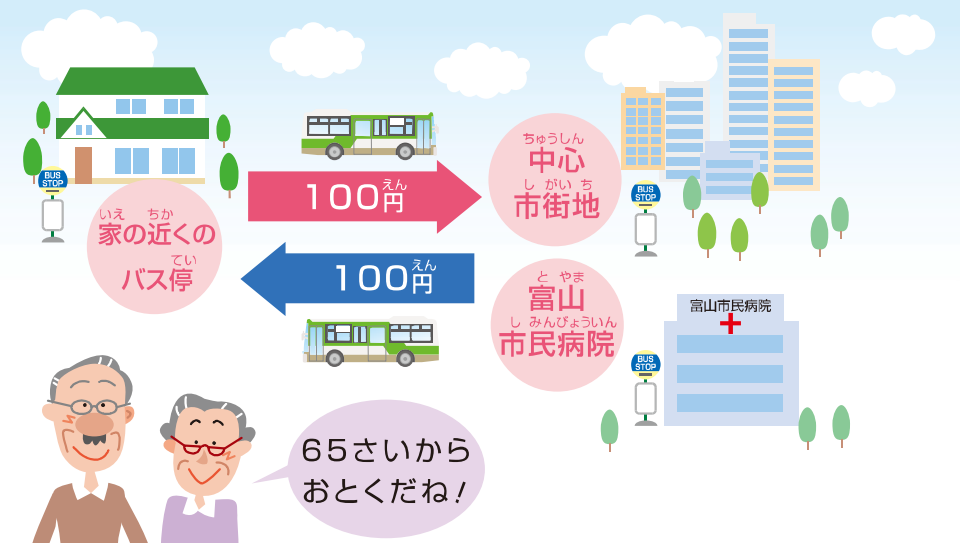


おでかけ定期券は、高れい者の方が自分で気軽に、行きたい所に出かけられることを助け、いつまでも元気でいてほしいと願って作られた券です。また、バスや電車に乗って、中心市街地に多くの人に来てもらうことで、交通機関や中心市街地がにぎわい、元気になります。

富山市交通政策課

路線バス

富山市内の全ての路線バスで、中心市街地と市民病院へのお出かけが富山市内のどのバス停からでも1回100円で利用できます。



65さいからおとくだね!

何のために、「おでかけ定期券」があるの？

自由じゆうに車くるまを使つかえない人は、どれひとくらいいるの？ (出典:平成18年富山市の公共交通に関する意識調査)

自由じゆうに使つかえる車くるまがない



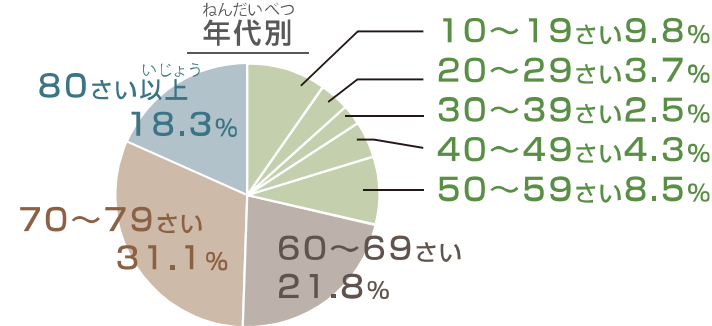
29.5%

自由じゆうに使つかえる車くるまがある



70.5%

自由じゆうに車くるまが使つかえないのは、どんな人？



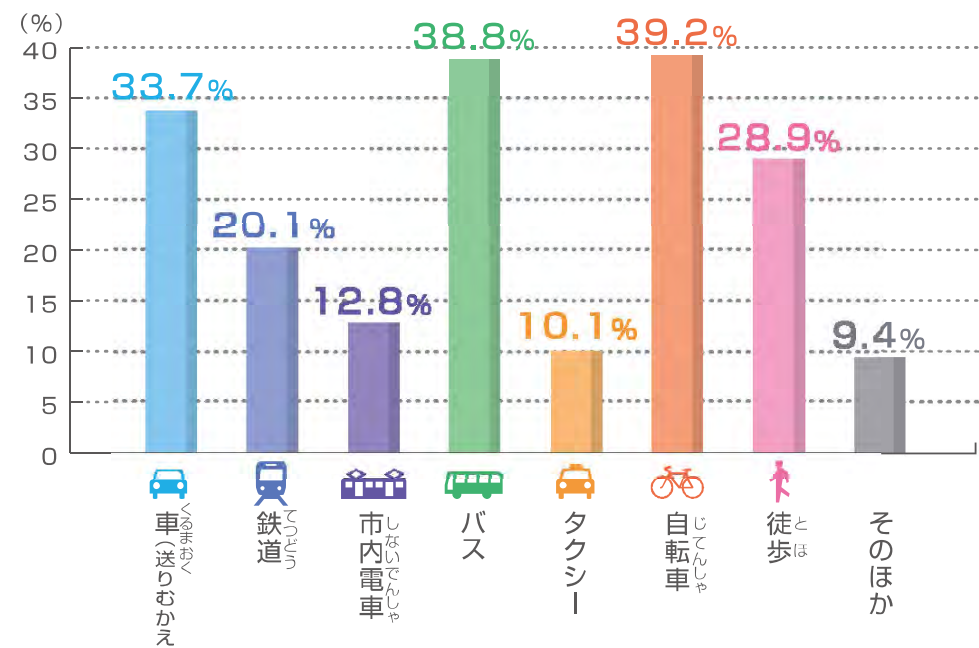
60さい以上の人がおおいんだ



※「自由じゆうに使つかえる車くるまがない人」とは、運転免許証がない人や、自分の車をもっていない人を指します。
※1% (ばーせん)とは、1を100に分けたうちの1つ分。人が100人いたら、そのうちの1人が1%になります。

自由じゆうに車くるまを使つかえない人は、どうでやって出でかけるの？ (出典:平成18年富山市の公共交通に関する意識調査)

月げつ～金きん曜よう日び



バスや自転車じてんしゃを使つかう人ひとがおお
いんだね



「おでかけ定期券」を使つかって、どこどこまで出でかけできるの？

富山市内のバス路線
中心市街地ちゆうしんしがいち ●おもなバス停たい



どのバス停たいで乗のっても、中心市街地ちゆうしんしがいちや富山市民病院とやましみんびやういんまで100円えんなんだよ

ひろいはいで、つか使えるんだね



「おでかけ定期券」を使つかっている人は、どうおもっているの？



わしわしの家いえは、中心市街地ちゆうしんしがいちから遠とほいんだけど、中心市街地ちゆうしんしがいちまで100円えんで行いけて大助おほかりや。



バスや電車でんしゃなどいろいろな交通機関こうつうきかんでつかえるから、出でかけたいと思おもったときに、気軽きがるに行いけて便利べんりだわ。

「おでかけ定期券」を持もつようになってから、出でかける回数かいすうがふえて、楽たのしみがふえたわ。そしたら、元げん気が出てきて、家族かぞくに「わかわかった」って言いわれるのよ。



2. アンケート調査票

○児童への事前事後意識変化アンケート

とやまけん こうつう ようす まな かん 「富山県の交通の様子」を学んで感じたこと

あなたの^{きもち}気持ちにいちばん^{ちか}近い^{こた}答えの^{ばんごう}番号を、かっこに^か書いてください。

しつもん1：じゅぎょうをうけて、バス、電車、ポートルムやセントラムを
好き^すになりましたか？

1. とても好き^すになった 2. 好き^すになった 3. かわら^かない
4. きらい^すになった 5. すごくきらい^すになった 6. わから^かない

あなたの^{こた}答え

()

しつもん2：じゅぎょうをうけて、バス、電車、ポートルムやセントラムに
乗^のりたいと思^おいましたか？

1. とても思^{おも}う 2. 思^{おも}う 3. どちらともい^いえない
4. あまり思^{おも}わない 5. 思^{おも}わない 6. わから^かない

あなたの^{こた}答え

()

しつもん3：じゅぎょうをうけて、あなたの^す住むまちのバス、電車、ポートルムや
セントラムは、大切^{たいせつ}だと思^おいましたか？

1. とても思^{おも}う 2. 思^{おも}う 3. どちらともい^いえない
4. あまり思^{おも}わない 5. 思^{おも}わない 6. わから^かない

あなたの^{こた}答え

()

「^{とやま あたら}富山の新しいまちづくり～^{げんき}まちを元気にする^{まな かん}ライトレール～」を学んで感じたこと

あなたの^{きも}気持ちにいちばん^{ちか}近い^{こた}答えの^{ばんごう}番号を、かっこに^か書いてください。

しつもん1：^{じゅぎょう}授業をうけて、バス、電車、ライトレールやセントラムを
好きになりましたか？

1. とても好きになった 2. 好きになった 3. 変わらない
4. きれいになった 5. すごくきれいになった 6. わからない

あなたの^{こた}答え

()

しつもん2：^{じゅぎょう}授業をうけて、バス、電車、ライトレールやセントラムに
の^の乗りたいと思いましたか？

1. とても^{おも}思う 2. ^{おも}思う 3. どちらともいえない
4. あまり^{おも}思わない 5. ^{おも}思わない 6. わからない

あなたの^{こた}答え

()

しつもん3：^{じゅぎょう}授業をうけて、あなたの^す住むまちのバス、電車、ライトレールや
セントラムは、^{たいせつ}大切だと思いましたか？

1. とても^{おも}思う 2. ^{おも}思う 3. どちらともいえない
4. あまり^{おも}思わない 5. ^{おも}思わない 6. わからない

あなたの^{こた}答え

()

「^{ていきけん なん}おでかけ定期券って何だろう？」を学んで感じたこと

あなたの^{きも}気持ちにいちばん^{ちか}近い^{こた}答えの^{ばんごう}番号を、かっこに^か書いてください。

しつもん1：^{じゅぎょう}授業をうけて、バス、電車、ポートラムやセントラムを
好きになりましたか？

1. とても好きになった 2. 好きになった 3. 変わらない
4. きれいになった 5. すごくきれいになった 6. わからない

あなたの^{こた}答え

()

しつもん2：^{じゅぎょう}授業をうけて、バス、電車、ポートラムやセントラムに
の^の乗りたいと思いましたか？

1. とても^{おも}思う 2. ^{おも}思う 3. どちらともいえない
4. あまり^{おも}思わない 5. ^{おも}思わない 6. わからない

あなたの^{こた}答え

()

しつもん3：^{じゅぎょう}授業をうけて、あなたの^す住むまちのバス、電車、ポートラムや
セントラムは、^{たいせつ}大切だと思いましたか？

1. とても^{おも}思う 2. ^{おも}思う 3. どちらともいえない
4. あまり^{おも}思わない 5. ^{おも}思わない 6. わからない

あなたの^{こた}答え

()

3. 小教研部長ヒアリング

(1) 社会科部会 部長ヒアリング結果

富山市小学校教育研究会社会科部会 部長ヒアリング

議事要旨

日 時：平成 25 年 2 月 21 日（木）10：00～11：30

場 所：富山市立大久保小学校

出席者：

所属	氏名
富山市小学校教育研究会 社会科部会 部長	戸田 哲彦

事務局：

所属	氏名
富山市 都市整備部 交通政策課 係長	東福 光晴
富山市 都市整備部 交通政策課 主任	中田 真優
富山市 都市整備部 交通政策課 技師	上埜 一樹
株式会社 計画情報研究所 研究員	大西 友世

お聞きしたいこと

1. 本事業の実施方法に関するご意見はありますか。

戸田部長回答

- ・組織体制を明確にする必要がある。現在の公開授業実施校や検討部会メンバーの選定は、各個人に依存した方法であると感じる。人と人との繋がりで取り組みを進めていくと、その人がいなくなった場合に立ち行かなくなってしまう。富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会や検討部会の目的や位置付けを明確にして教員への周知を図り、組織として公開授業実施校等の選定をしていくことが重要である。
- ・岡田部長や私（戸田部長）は、富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会の委員となっているが、事業の実施内容や進捗状況を把握できていない。平成 25 年度は、公開授業の開催日時の連絡など、進捗状況の報告を密に行ってほしい。

【事務局による今後の対応】

- ・平成 25 年度から、公開授業開催日等を含めた進捗状況について総合的な学習の時間と社会科部会の各部長に連絡を行うようにする。

2. 平成 25 年度以降、現場の教員の方々に富山市モビリティ・マネジメント教育に取り組んでいただくためにはどうすれば良いでしょうか。

戸田部長回答

- ・富山市モビリティ・マネジメント教育が取り組む価値のある教育であることは理解できる。しかし、新たに富山市モビリティ・マネジメント教育に取り組むことで、本来の社会科の学習をないがしろにすることはできない。実践事例が積み重なっていけば、教員は富山市モビリティ・マネジメント教育に取り組みやすくなる。

- 3 .平成 25 年度に開催予定の市内全小学校教員を対象としたワークショップの開催について、どのように思われますか。

戸田部長回答

- ・参加型でなければ、ワークショップは成り立たない。多くの教員を集めて講演を聞くだけではワークショップにはならない。
- ・教員にとって、ワークショップに参加することで自分に利点があることが重要である。自分にとって利点がなければ、教員は次回から参加しなくなる。
- ・富山市モビリティ・マネジメントが富山市の施策のなかでどのような位置付けなのかを明確に示し、ステップを踏んで開催内容を変えていくことが必要である。

【事務局による今後の対応】

- ・教員が利点に感じるワークショップの内容について検討する。

- 4 . 公開授業実施後のワークショップ開催時の社会科部会の教員への出席依頼方法について、現在の方法のままでよろしいですか。

戸田部長回答

- ・現在の方法としては、私（戸田部長）が教員を選定して各小学校の校長先生に依頼電話をかけている。本来であれば、まずは事前に富山市から校長会に説明を行っておく必要がある。そのうえで、私（戸田部長）が教員の選定を行い、検討部会の座長である柳内校長先生か富山市から各小学校の校長先生に依頼を行ってほしい。

【事務局による今後の対応】

- ・平成 25 年度からは、社会科部会の部会長の先生に教員を選定していただき、富山市から各小学校の校長先生に依頼を行う。

5. 今後の富山市モビリティ・マネジメント教育の実施・検討を継続させるため、実施・検討を行う組織立ち上げが考えられます。社会科や総合的な学習の時間のように、複数人の教員が所属するMM部会を設立することについて、どのように思われますか。

戸田部長回答

- ・平成 26 年度からのスケジュール目安を示してほしい。
- ・現在製作している指導案や児童用パンフレット等について、将来的なデータ更新を行うことは重要である。富山市の職員は部署移動があるため、目的の共有等の引き継ぎを行うことが難しいというイメージがある。財団法人等の外部団体と連携して組織を立ち上げる方法や NPO を設立することが考えられる。
- ・現在の富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会と検討部会を残し、検討部会をもとに新組織を立ち上げるという事務局案は実現可能性がある。メンバーとなる教員は現在の検討部会のメンバーを中心に構成し、座長と副座長は社会科と総合的な学習の時間の部会長とし、富山市から各教員に委嘱状を出すと良い。社会科部会でも公開授業を実施しているが、複数人の教員がチームを組んで 1 つの学習プログラムの検討を行っている。1 人の教員が検討を行うと個人の主観が入りすぎるため、複数人での検討体制としている。その際、児童に何を学習させるかという目的を明確にし、そのための道筋を検討している。公開授業実施後の意見交換では、参加者で目的を共有したうえで道筋部分についての意見交換が行われる。平成 26 年度からの新組織においても、このような検討体制や意見交換が行われるようにする必要がある。

【事務局による今後の対応】

- ・平成 26 年度からの新組織体制づくりの検討を行う。そのうえで、新組織となる富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会と検討部会の委員となる方々への謝金等を用意するための予算確保についても実現に向けて調整を行う。
- ・平成 26 年度からのスケジュールを検討する。

お願いしたいこと

○富山市モビリティ・マネジメント教育のPRを行うため、部会1回分の時間をいただくことは可能ですか。可能な場合、何月なら都合が良いでしょうか。

戸田部長回答

- ・部会員全員が集まるのは、4月と11月の部会だけである。残りの部会は学年毎に分かれて開催されている。4月の部会は、顔合わせや役割の検討等を行うため富山市モビリティ・マネジメント教育のために時間を割くことは難しい。11月の部会であれば、20～30分程度の時間をとれる可能性がある。社会科部会では、部会の実施内容を検討する主な教員が3名いる（神通碧小学校のヒライワ氏、山室中部小学校のタジマ氏、呉羽小学校のヤマモト氏。ヒライワ氏は社会科副読本の編集委員。）。平成24年度中に、この3名の教員に現在考えている内容を伝えておくが良い。事前に私（戸田部長）から3名へは連絡を入れておく。そのうえで、4月に入って部会長が決定後すぐに、部会長に連絡をとって依頼を行うと良い。
- ・4月と11月以外の部会で、検討部会の先生方が主体となって学年毎の会議で富山市モビリティ・マネジメント教育のPRを行うという事務局案の場合、検討部会の先生方の立場を明確にしておく必要がある。
- ・実施内容としては、具体的な実践例を示すと良い。例えば、寺本先生の授業DVD5分版は教員が興味をそそられる内容である。

【事務局による今後の対応】

- ・平成24年度中に、ご紹介いただいた3名の教員に説明に伺う。戸田先生から連絡していただいた後、富山市から日程調整の連絡を行う。
- ・平成25年4月に入ってすぐに、富山市から社会科部会の部会長の先生に連絡をして4月上旬に説明に伺う。

以上

(2) 総合的な学習の時間部会 部長ヒアリング結果

富山市小学校教育研究会 総合的な学習の時間部会 部長ヒアリング
議事要旨

日 時 : 平成 25 年 2 月 14 日 (木) 14 : 00 ~ 15 : 25

場 所 : 富山市立船嶽小学校

出席者 :

所属	氏名
富山市小学校教育研究会 総合的な学習の時間部会 部長	岡田 浩子

事務局 :

所属	氏名
富山市 都市整備部 交通政策課 係長	東福 光晴
富山市 都市整備部 交通政策課 主査	室田 知美
株式会社 計画情報研究所 研究員	大西 友世

お聞きしたいこと

1. 平成 25 年度以降、現場の教員の方々に富山市モビリティ・マネジメント教育に取り組んでいただくためにはどうすれば良いでしょうか。

岡田部長回答

- ・ 校長や現場教員、教務主任、教育委員会等、さまざまな方向から継続的な PR を実施する方法は効果が期待できる。そのなかでも、現場教員への PR を重視すると良い。
- ・ 現場教員への PR 方法としては、直接会っての説明や内容の検討等、教員が富山版モビリティ・マネジメント教育に触れる機会をつくと良い。PR ツールだけを配布しても、印象には残らない。現場教員が集まり、説明を行うことができる場としては、各部会しかない。
- ・ 公開授業実施時に、実施校の校長先生の了解が得られるのであれば、富山市内全小学校へ案内文を送ってほしい。広く周知を図ることで、教員が富山版モビリティ・マネジメント教育に触れる機会の創出に繋がる。
- ・ 現場教員へ PR を行う時期は、年度末の年間カリキュラム作成時か 4 月の担当教員決定後のどちらかが望ましい。年度末の場合は担当教員が決定していないという点、4 月の場合は年度初めで忙しいという点が欠点である。どちらが良いかは判断しかねる。
- ・ 教務主任に対して、年度初めに取り組み依頼を行い、年度末に成果報告を求めることは実現が難しい。取り組み依頼については可能だと思われるが、成果報告までを求めるのは対応として強すぎると感じる。

【事務局による今後の対応】

- ・ 次回の公開授業実施時から、実施校の校長先生に了解を得て富山市内全小学校へ案内文を送る。
- ・ PR 対象と場所（校長・校長会、現場教員・部会、教務主任・？、教育委員会・？）を確認し、平成 25 年度以降の PR スケジュールを検討する。

2. 今年の7～8月に、市内全小学校の教員を対象とした研修開催を目指しています。市内全小学校の教員に参加していただくための良い方法はありますか。

岡田部長回答

- ・教育委員会以外が実施する研修に市内全小学校の教員に参加していただける方法はわからない。
- ・研修参加に対して、強制力や付加価値をつけることは難しい。

【事務局による今後の対応】

- ・多くの教員に参加していただくための研修の実施方法について検討する。

3. 今後、ESDカレンダーのMM版の作成を予定しています。掲載内容としては、富山版モビリティ・マネジメント教育の各学習プログラムと、社会科及び総合的な学習の時間との関連性を示す予定です。具体的に、どのような情報が掲載されていると良いと思われますか。

岡田部長回答

- ・私自身はESDカレンダーの製作に携わったことがないため、詳しいことまでは把握していない。シンプルに学年と単元を示して、富山版モビリティ・マネジメント教育がどこに関連付けて実施できるのかだけを示す程度で良いのではないか。
- ・ESDカレンダーの作成方法については、ESD認定校の現場教員が把握している。

【事務局による今後の対応】

- ・カレンダーの作成について、平成25年度の早い時期の検討部会で議題にあげ、検討部会で協議を行うことを共通認識とする。具体的内容の作成については、学習プログラム確定後に学習プログラムを作成した教員が主体になって行っていただくことが考えられる。

- 4 . 今後の富山市モビリティ・マネジメント教育の実施・検討を継続させるため、実施・検討を行う組織立ち上げが考えられます。社会科や総合的な学習の時間のように、MM部会を設立することについて、どのように思われますか。

岡田部長回答

- ・小教研のひとつとして、MM部会を設立することは難しい。
- ・現在の検討部会をもとに、富山版モビリティ・マネジメント教育について検討する組織を立ち上げて継続的に活動させることも難しい。

【事務局による今後の対応】

- ・組織の立ち上げ以外の方法として、年1回公開授業及び検討会を開催し、総合的な学習の時間や社会科部会に教員出席の依頼を行うことが考えられる。これ以外の方法も含め、平成26年度以降の継続的な実施・検討体制づくりに向けて検討を行う。

お願いしたいこと

○富山市モビリティ・マネジメント教育のPRを行うため、部会1回分の時間をいただくことは可能ですか。可能な場合、何月なら都合が良いでしょうか。

実施案：社会科と総合の部会を合同開催し、寺本先生もしくは斉藤先生の講演会を開催。

岡田部長回答

- ・総合的な学習の時間と社会科の2つの部会を合同開催することは難しい。
- ・総合的な学習の時間の部会であれば、5月部会（5月13日（月）開催予定）のなかで30分程度の時間を確保できる可能性はある。時間を確保できるかどうかは確定するのは、4月部会（4月15日（月）開催予定）後の4月20日前後となる。
- ・部会の時間は限られているため、参加教員にとっては貴重な時間である。限られた時間のなかで参加教員の要望に沿って各種内容について取り扱っているため、似たような内容を何度も取り上げることは避けたい。富山版モビリティ・マネジメント教育については、平成24年度に部会で説明を行っているため、平成25年度に再び説明を行う場合は、平成24年度の実施内容からレベルアップさせる必要がある。

【事務局による今後の対応】

- ・4月20日前後に、富山市から岡田部長に5月部会での時間を確保していただけるか確認する。
- ・実施内容については、「4年間の学習ステップの説明」、「児童用パンフレット等の具体的な教材の提示」、「具体的に1学習プログラムを取り上げて内容について議論」の流れとすることを1案とする。については、総合的な学習の時間における5年生の学習プログラムを題材とすることが考えられる。富山市から堀先生と渡辺先生に実現可能性について確認する。

以上

4. 有識者ヒアリング

富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会 委員 寺本教授 ヒアリング
議事要旨

日 時：平成 25 年 2 月 19 日（火）14：50～15：20、17：00～17：40

場 所：富山市役所

出席者：

所属	氏名
玉川大学 教育学部 教育学科 教授	寺本 潔

事務局：

所属	氏名
富山市 都市整備部 交通政策課 係長	東福 光晴
株式会社 計画情報研究所 主任研究員	米田 亮
株式会社 計画情報研究所 研究員	大西 友世

1. 教員に富山市モビリティ・マネジメント教育に取り組んでいただく方法

寺本教授回答

- ・教員は、校長先生や教育委員会が強要すれば取り組む可能性はあるが、教員の自主的な行動へは結びつかず、本当の意味での普及には繋がらない。
- ・教員は多忙であり、現在抱えている仕事だけでも精一杯の状況である。そのなかに、無理やりモビリティ・マネジメント教育をねじ込もうとすれば無理が生まれる。教員に興味を持っていただき、富山市モビリティ・マネジメント教育を実施することに対する意義を感じていただくことで、教員の自主的な取り組みに繋がる。
- ・富山市モビリティ・マネジメント教育が児童の学力向上に繋がるという内容を教員に伝えることが必要である。学力として、「思考力」「判断力」「表現力」の3点が重視されている。富山市モビリティ・マネジメント教育がこの3点に繋がっているという点を教員に示すと良い。交通手段の選択において、思考力や表現力として考えることはできても、実際の行動に移す判断力までは至っていない。富山市モビリティ・マネジメント教育を通して、児童は学習課題を自分に引き付けて考えることができるようになる。
- ・現状のままでは将来の危機的な都市の状況を招くことを示し、それを回避するための富山市の将来ビジョンを説明する。そのビジョンに向かって進むことで、明るい未来が来ることを示す必要がある。20年後には、高齢人口の増加と若年人口の減少が起こる。地方都市において、多くの高齢者は若年者に頼らなければ移動の足を確保することが難しくなる。また、都市が広がりすぎていることから、下水道等、都市の維持管理費が財政を圧迫することになる。富山市モビリティ・マネジメント教育を通じて、20年後の良識ある富山市民を育てるという点を強調すべきである。

2. 具体的な学習内容

寺本教授回答

- ・「統計資料の読み取り」+「実際に起こっている事象」を児童に示すことが必要である。たとえば、統計資料の読み取りとして、車からライトレールへの転換者数を示す。実際に起こっている事象として、車からライトレールへ転換した人の転換までのストーリー（近くにできたライトレールは安全で綺麗そうだ+車を買替える時期が来ていた ライトレールへの転換）を示す。

3 . ワークショップの開催

寺本教授回答

- ・堀川小学校は、一部の熱心な教育者にとって先進的な教育に取り組んでいることで有名な小学校である。堀川小学校な ESD 教育にも取り組んでおり、平成 25 年 11 月に公開授業の開催を予定している。その公開授業に合わせてワークショップを開催することが考えられる。堀川小学校でのワークショップであれば、興味を持つ教員が増える可能性がある。しかし、教員が参加しやすい実施日時としなければ参加者を確保することは難しい。
- ・堀川小学校が本格的に富山市モビリティ・マネジメント教育に取り組むことになれば、他小学校の教員から富山市モビリティ・マネジメント教育に対して一定の評価を得ることができる。

4 . 平成 25 年度以降の組織体制

寺本教授回答

- ・関係団体が継続的に協議できる場を設置し、年 1 回程度の会議を開催できると良い。そのためには、関係団体に共通の危機意識を持たせることが必要である。共通の危機意識としては、現在のまま進んだ場合の 20 年後の富山市の姿を示すことが考えられる。(例：防災教育の場合、PTA や教員、警察等の関係団体は児童を犯罪から守るという共通の危機意識を持って組織を設置している)

以上

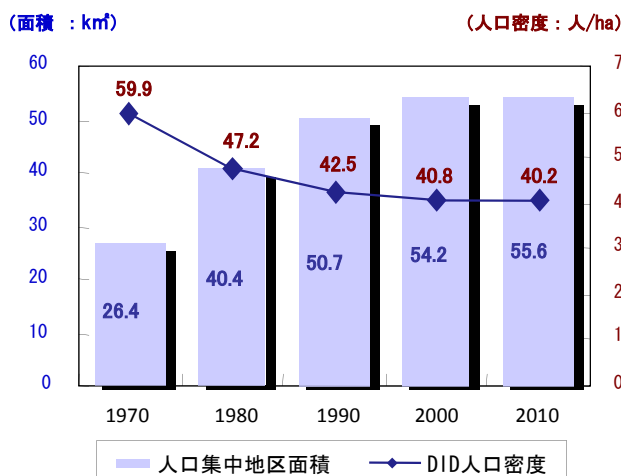
富山市モビリティ・マネジメント教育推進事業について
 ～“くしとだんごのまちづくり”を核とした
 富山版MM教育学習プログラム～

富山市都市整備部交通政策課 係長 東福光晴

都市の特性 ～低密度な市街地～

■ 市街地の面積の拡大と人口密度の推移

過去35年間で DID面積は、2倍に増え、DID人口密度は、2/3に低下



現在のトレンドで人口の減少が進むと、市街地の低密度化はさらに進展



出典

※DID：一定以上の人口密度地区（4000人/km²）

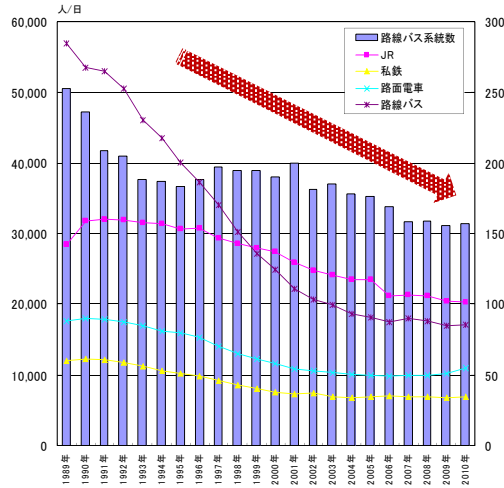
※1総務省統計で見る市町村のすがた2011(大都市を除く県庁所在都市中)、※2道路統計年報2010、※3総務省住宅・土地統計調査H20、※4家計調査報告書H22

都市の特性 ～交通特性～

■ 世帯あたりの自家用車保有台数

1.72(台)／1世帯当たり **全国第2位(富山県)**
 (自動車検査登録情報協会[平成23年3月末現在])

■ 公共交通利用状況



<利用者の減少率>

1989年→2010年(22年間)

JR **29%減**
 (2006年JR富山港線廃止)

私鉄 **43%減**

路面電車 **38%減**

路線バス **70%減**

路線バスの系統数は過去
 20年で**約4割**減少

-2-

車が自由に使えない人の実態

■富山市の公共交通(電車やバスなど)に関する市民意識調査結果より

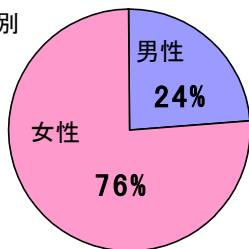
①車が自由に使えない人の割合 **約3割** 注)車が自由に使えない人=運転免許証がない人、
 自分専用の車がない人

○調査の概要

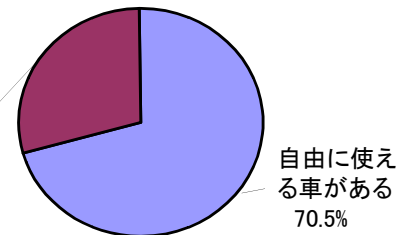
- (1)調査時期 平成18年6月実施
- (2)配布数 8,887人(市全域の15歳以上の市民を無作為抽出)
- (3)回答数 3,514人(回収率39.5%)
- (4)結果分析

◆車が自由に使えない人の属性

○男女別



◆自由に使える車の割合



自由に使える
 車がない
 29.5%

-3-

<課題認識>

- ① 車を自由に使えない市民にとって、極めて生活しづらい街
- ② 割高な都市管理の行政コスト
- ③ 中心市街地の空洞化による都市全体の活力低下と魅力の喪失

今後の人口減少と超高齢化により、問題はさらに深刻化する恐れ

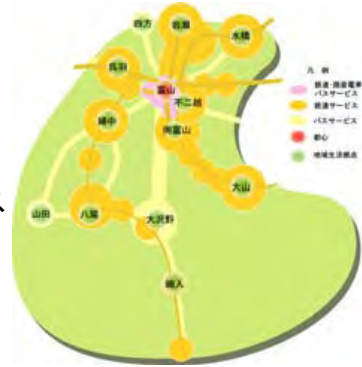
富山市のまちづくりの基本方針

<概念図>

富山市が目指すお団子と串の都市構造

串 : 一定水準以上のサービスレベルの公共交通

お団子: 串で結ばれた徒歩圏



-4-

◆モビリティ・マネジメントとは

モビリティ・マネジメント(Mobility Management, 略称MM)とは、渋滞や環境、あるいは個人の健康等の問題に配慮して、過度に自動車に頼る状態から公共交通や自転車などを『かしく』使う方向へと自発的に転換することを促す、一般の人々や様々な組織・地域を対象としたコミュニケーションを中心とした持続的な一連の取り組みのこと。具体的には、コミュニケーション施策を中心として、様々な運用施策、システムの導入や改善、それらの実施主体の組織の改編や新たな組織の創出などを実施しつつ、持続的に展開していく一連の取り組みを意味する。

日本モビリティ・マネジメント会議より

企業に対する
モビリティ・
マネジメント

住民に対する
モビリティ・
マネジメント

子どもたちに
対する
モビリティ・
マネジメント

-5-

◆新たな交通環境の創出～モビリティ・マネジメント～

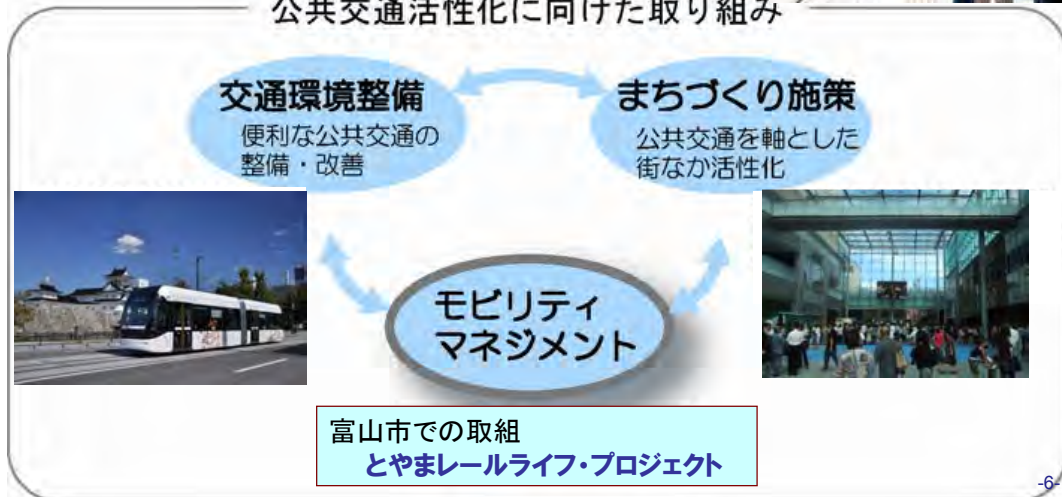
一人ひとりが交通手段をかしこく選択できるようなコミュニケーション施策（モビリティ・マネジメント）を展開し、公共交通のさらなる利用促進を図る



未来に向けた交通環境の創出

市民が守り・育てていく公共交通へ

公共交通活性化に向けた取り組み



-6-

◆モビリティ・マネジメント教育とは

私たち一人ひとりの移動手段や社会全体の交通を『人や社会、環境にやさしい』という観点から見直し、改善していくために自発的な行動を取れるような人間を育てることを目指した教育活動のこと。

モビリティ・マネジメント教育 教育宣言検討委員会より



金沢市、京都府、大阪府、札幌市、仙台市、御嵩町... など、全国で取り組まれています。

-7-

◆富山市モビリティ・マネジメント教育推進事業

【目的】

小学生3～6年生を対象に、交通と環境に関する意識を高めるため、富山市版交通環境学習プログラムを確立する。

保護者を含めた市民に対し、啓発活動を展開する。
(交通エコロジー・モビリティ財団の支援を活用)

【内容】

- ①交通環境学習プログラムの企画・実施
- ②教科書・副読本への掲載
- ③教員向けMM教育公開授業の開催
- ④富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会の開催



マイカーを利用する以前の子どもたちに問題点を認識させ、自動車とかしこくつきあう方法を身につけさせる

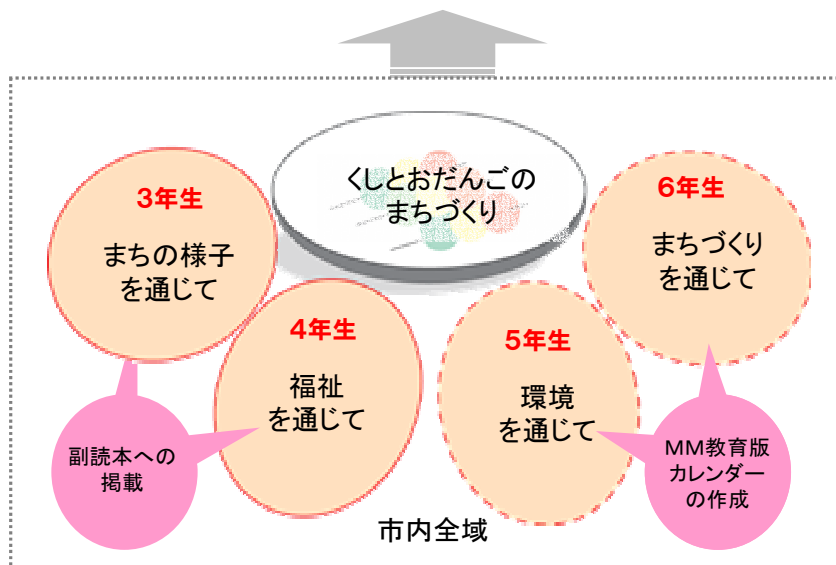
「モビリティ・マネジメント力」の育成



-8-

◆富山市モビリティ・マネジメント教育推進事業の考え方

くしとおだんごのまちづくりの理解を通して、公共交通利用促進を目指す



-9-

平成23年度 実施学習プログラムの内容

実施小学校	学習プログラム名	学年	クラス数	連携教科	実施日
富山市立 五福小学校	「くしとおだんごのまちづくり」 ※富山市職員による実施	3年生	2クラス	社会、総合的学習	平成23年12月1日 (木)
	「富山の交通とくらし」 ※玉川大学教授による実施	4年生	1クラス	社会	平成24年2月17日 (金)

平成24年度 実施学習プログラムの内容

実施小学校	学習プログラム名	学年	クラス数	連携教科	実施日
富山市立 五福小学校	「くしとおだんごのまちづくり」	3年生	2クラス	社会	平成24年5月29日 (火)、30日(水)
富山市立 東部小学校	「おでかけ定期券って何だろ う？」(案)	4年生	1クラス	総合的学習	平成24年10月実施 予定
富山市立 速星小学校	「富山の交通とくらし」(案)	4年生	4クラス	社会	平成25年1月実施 予定
富山市立 五福小学校	「くしとおだんごのまちづくり」	6年生	2クラス	社会	平成24年12月実施 予定

-10-

「くしとおだんごのまちづくり」学習プログラム(平成24年5月29日(火)、30日(水)実施)

○1日目 5月29日(火) 3年生・2クラス

学習の流れ	時間配分	実施内容
座学	3分	児童集合・開会あいさつ
	20分	くしとおだんごのまちづくり—ポータルを知ろう— パワーポイント説明
	12分	意見交換
	10分	調べたいこと・確認したいこと・聞きたいことをまとめる

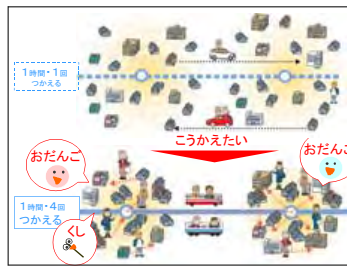
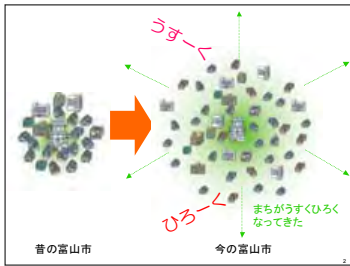
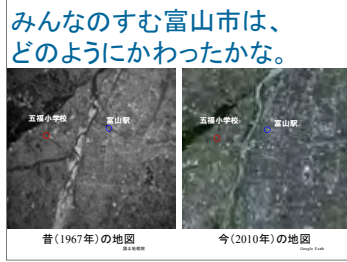
○2日目 5月30日(水)

学習の流れ	時間配分	実施内容
城川原駅へ移動	30分	城川原駅へ貸し切りバスで移動
ポータル乗車体験 車両基地見学	42分	車両基地見学→電停説明→トイレ休憩
	15分	城川原駅から富山駅北までポータルで移動
富山駅北へ移動	20分	富山駅北へ貸し切りバスで移動
ポータル乗車体験 車両基地見学	20分	富山駅北から城川原駅までポータルで移動
	35分	車両基地見学→電停説明→トイレ休憩
ポータル乗車体験 車両基地見学	15分	電停説明
	15分	富山駅北から城川原駅までポータルで移動
	30分	トイレ休憩→車両基地見学

-11-

「くしとおだんごのまちづくり」の学習プログラム

くしとおだんごのまちづくり -ポートラムを知ろう- 平成24年5月29日(火)



- 【ポートラムにのるときにまもってほしいこと】
- ①おりの人がみんなおりてから、じゅんばんを守ってのりましょう。
 - ②ポートラムにはいろいろな人がのっています。しずかにのりましょう。
 - ③たくさんの方がすわれるように、にもつはひざの上のせましよう。
 - ④立ってのるときは、ポールにしっかりつかまりましょう。
 - ⑤からだのふじゆうな人、おじいさん、おばあさん、おなかの大きなお母さんに、せきをゆずりましょう。
 - ⑥おりのときは、運転手さんに「ありがとう」とおれいを言いましょう。

(パワーポイント説明資料 抜粋)

「くしとおだんごのまちづくり」の学習プログラム

学習プログラム実施の風景 (座学) 平成24年5月29日(火)



学習プログラム実施の風景 (乗車体験) 平成24年5月30日(水)



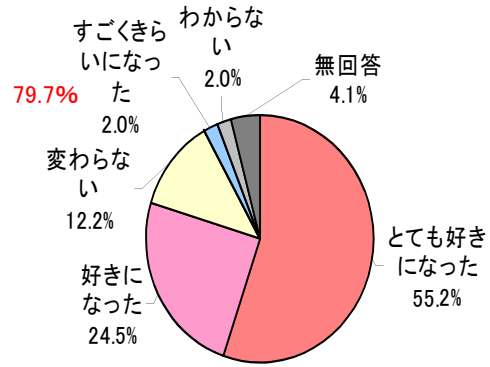
児童への事前事後意識変化アンケート実施結果

学習ステップ1: 公共交通を好きになる

問1. 授業を受けて、バス、電車、ポータルムを好きになりましたか？

N= 49

項目	件数	割合
とても好きになった	27	55.2%
好きになった	12	24.5%
変わらない	6	12.2%
きれいになった	0	0.0%
すごくきれいになった	1	2.0%
わからない	1	2.0%
無回答	2	4.1%
合計	49	100.0%



(平成23年12月1日 実施)

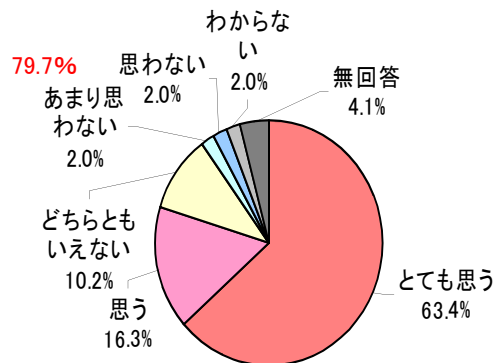
児童への事前事後意識変化アンケート実施結果

学習ステップ2: 公共交通を利用したいと思う

問2. 授業を受けて、バス、電車、ポータルムに乗りたいと思いましたか？

N= 49

項目	件数	割合
とても思う	31	63.4%
思う	8	16.3%
どちらともいえない	5	10.2%
あまり思わない	1	2.0%
思わない	1	2.0%
わからない	1	2.0%
無回答	2	4.1%
合計	49	100.0%



(平成23年12月1日 実施)

「くしとおだんごのまちづくり」の学習プログラム

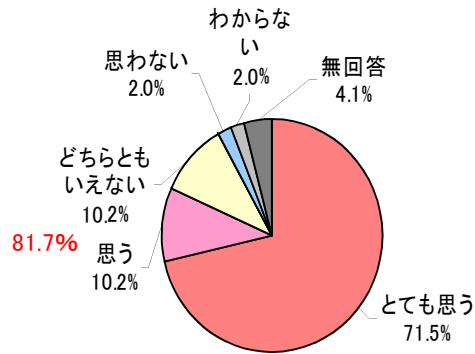
児童への事前事後意識変化アンケート実施結果

学習ステップ3: 環境や社会のことを考え、公共交通の大切さを理解する

問3. 授業を受けて、あなたの住むまちのバス、電車、ポートラムやセントラムは、
大切だと思いましたか？

N= 49

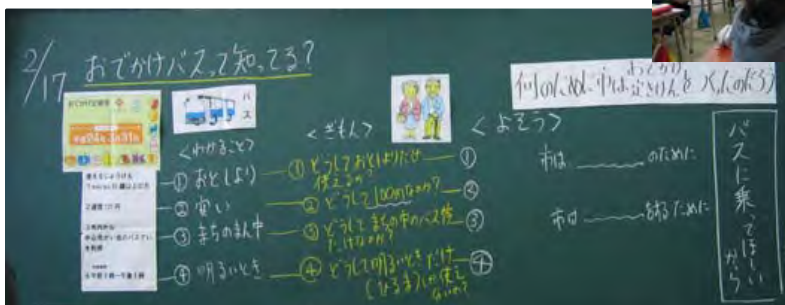
項目	件数	割合
とても思う	35	71.5%
思う	5	10.2%
どちらともいえない	5	10.2%
あまり思わない	0	0.0%
思わない	1	2.0%
わからない	1	2.0%
無回答	2	4.1%
合計	49	100.0%



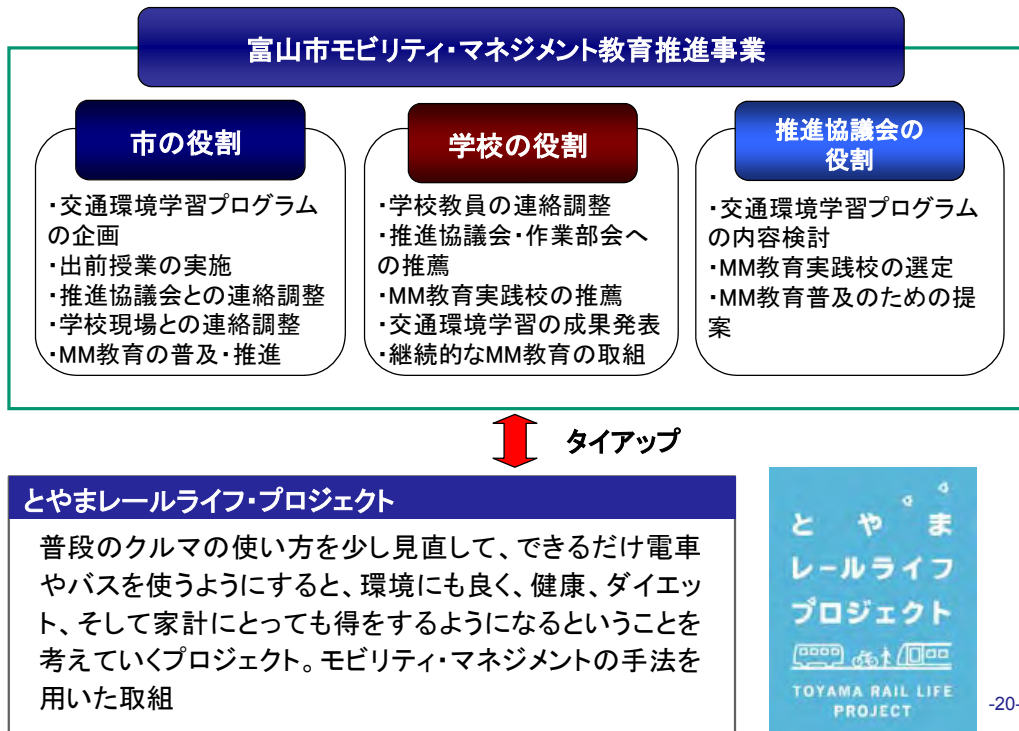
(平成23年12月1日 実施)

「富山の交通とくらし」学習プログラムの概要

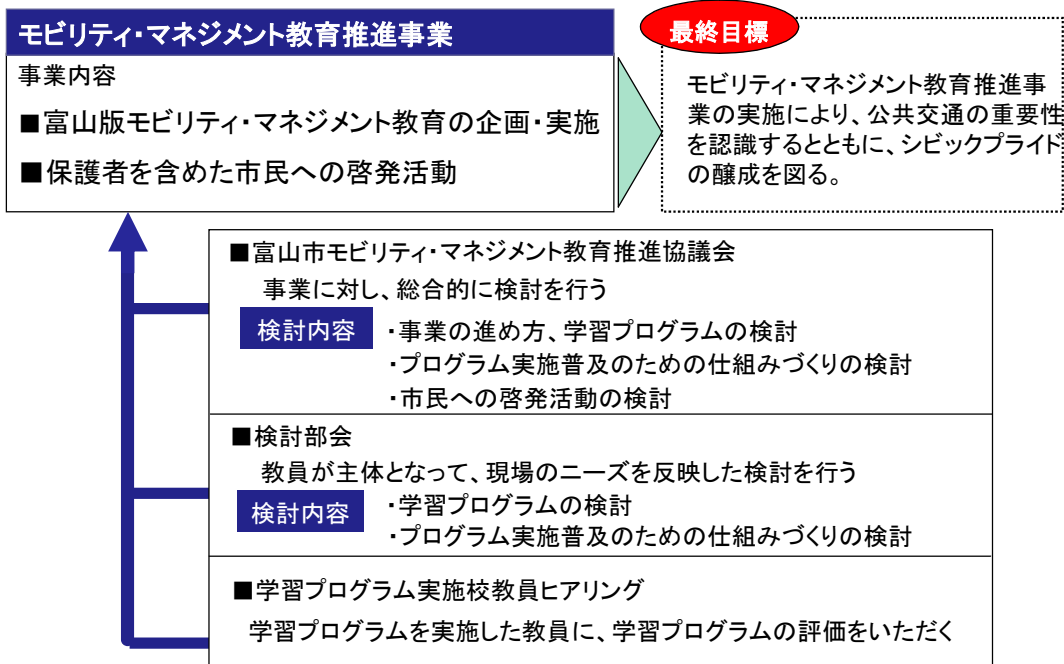
実施日	平成24年2月17日(金)
実施小学校	富山市立五福小学校
実施者	玉川大学 教授 寺本 潔 氏
学年	4年生
校時	1時限
連携教科	社会科
学習場所	富山市立五福小学校
本時のねらい	社会科単元「わたしたちの富山県」の学習の一部として、富山県が置かれている交通の現状とその解決策について仲間と話し合い、バスを中心にした公共交通のよさに気付くことができる。



◆「富山市モビリティ・マネジメント教育推進事業」実施スキーム



◆富山市モビリティ・マネジメント教育推進事業の目指すところ



富山市の小学校における モビリティ・マネジメント教育の推進

平成24年5月7日
株式会社 計画情報研究所

1. 富山市のめざすところ

1. 富山市のめざすところ

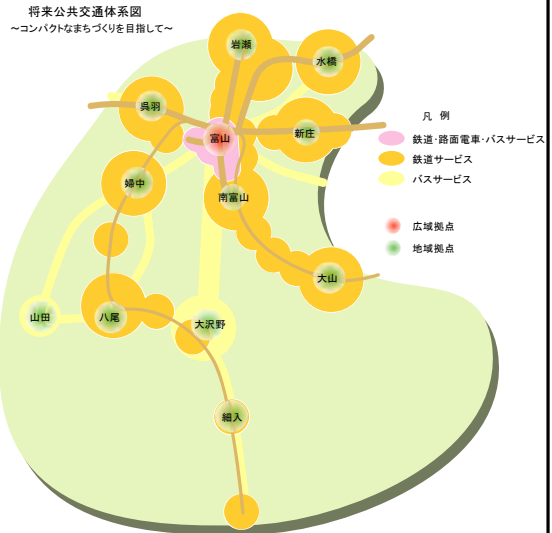
富山市のまちづくりの基本方針

鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積させることにより、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを実現

<概念図>

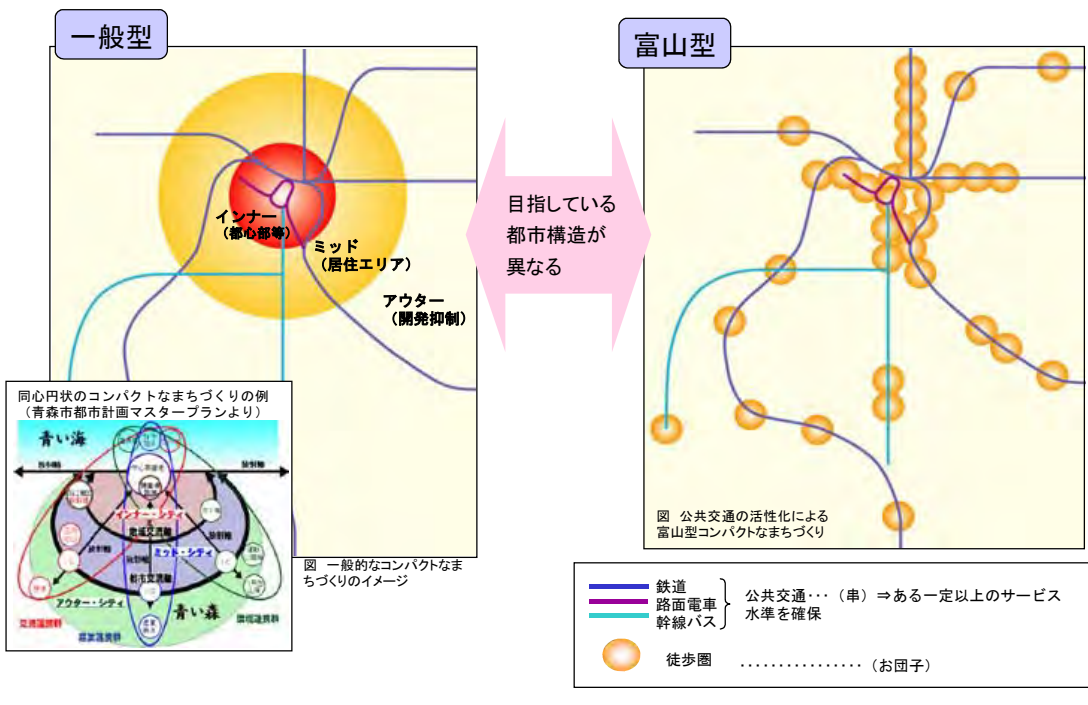
富山市が目指すお団子と串の都市構造

- 串：一定水準以上のサービスレベルの公共交通
- お団子：串で結ばれた徒歩圏



1. 富山市のめざすところ

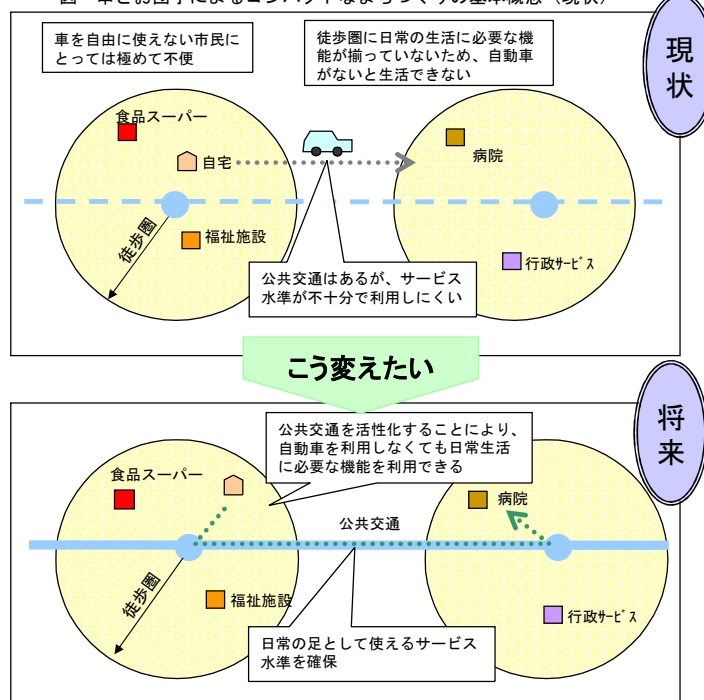
お団子と串の都市構造



1. 富山市のめざすところ

徒歩と公共交通による生活の実現

図 車とお団子によるコンパクトなまちづくりの基本概念（現状）



1. 富山市のめざすところ

コンパクトなまちづくりの進め方

①規制強化ではなく、誘導的手法が基本

- ・線引き都市計画区域を拡大するような規制を強化手法はとらない（中心商店街と住み分けできない超大型SCや、郊外住宅のバラ建ちなどは規制）
- ・規制による都市計画は、都市が拡大成長する右肩上がりの時代に有効
- ・人口が減少し、都市が縮退する局面では、誘導的手法が基本
- ・これからは、都心部の魅力を高めるという誘導的手法により、まちなか居住などを誘導していくという手法が基本

②市民がまちなか居住か郊外居住かを選択できるようにする

- ・郊外居住も、優良なものは否定はしない（問題なのは、郊外のバラ建ち）
- ・現状は、都心部に魅力的な商業施設、質の高い集合住宅、快適な生活等が不在で、まちなか居住は、郊外居住と競える状況にない
- ・長期的には、都心部を選択する市民が増え、都市がコンパクト化していく方向へ誘導していく

③公共交通の活性化によるコンパクトなまちづくりを推進

- ・鉄軌道網、バス等の公共交通を活性化させ、駅や停留所の徒歩圏（500m程度の範囲）にまちなか居住と市民生活に必要な機能を集積させていく
- ・恵まれた鉄軌道網の活性化をコンパクトなまちづくりの実現手法の大きな柱としたことが 富山市の取り組みの最大の特徴

④地域拠点の整備により全市的にコンパクトなまちづくりを推進

- ・コンパクトなまちづくりは、旧富山市都心部だけのまちづくりではない
- ・鉄軌道を中心とした公共交通幹線の沿線に地域拠点を整備し、旧町村を含めて、全市的にコンパクトなまちづくりを展開

2. モビリティ・マネジメントとは

2. モビリティ・マネジメントとは

モビリティ・マネジメント(Mobility Management, 略称MM)とは、渋滞や環境、あるいは個人の健康等の問題に配慮して、過度に自動車に頼る状態から公共交通や自転車などを『かしく』使う方向へと自発的に転換することを促す、一般の人々や様々な組織・地域を対象としたコミュニケーションを中心とした持続的な一連の取り組みのことを意味します。具体的には、コミュニケーション施策を中心として、様々な運用施策、システムの導入や改善、それらの実施主体の組織の改編や新たな組織の創出などを実施しつつ、持続的に展開していく一連の取り組みを意味する。

日本モビリティ・マネジメント会議より

企業に対する
モビリティ・
マネジメント

住民に対する
モビリティ・
マネジメント

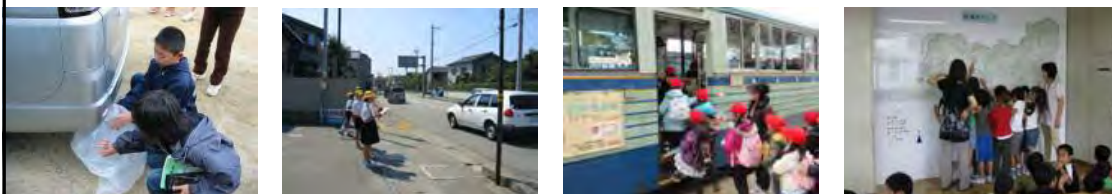
子どもたちに
対する
モビリティ・
マネジメント

3. モビリティ・マネジメント教育とは

3. モビリティ・マネジメント教育とは

私たち一人ひとりの移動手段や社会全体の交通を『人や社会、環境にやさしい』という観点から見直し、改善していくために自発的な行動を取れるような人間を育てることを目指した教育活動のこと。

モビリティ・マネジメント教育 教育宣言検討委員会より



金沢市、京都府、大阪府、札幌市、仙台市、御嵩町... など、全国で取り組まれています。

4. 富山市のモビリティ・マネジメント教育推進事業

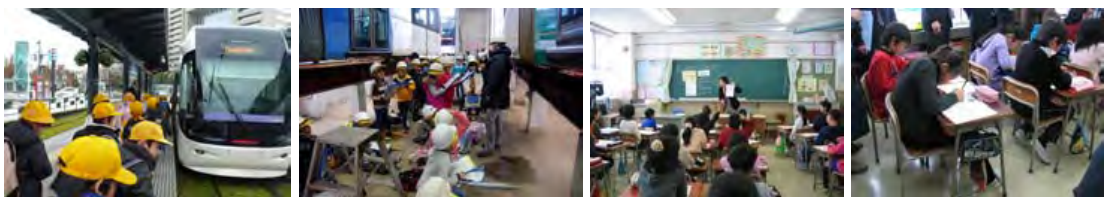
4. 富山市のモビリティ・マネジメント教育推進事業

平成23年度から検討を始め、平成26年度からの事業本格実施を目指しています。

平成23年度の実施実績

3年生 くしとおだんごのまちづくり 五福小学校 2クラス 平成23年12月1日

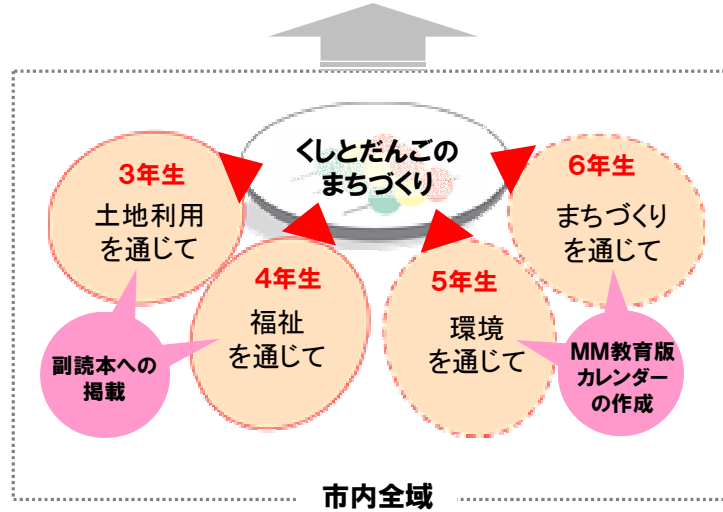
4年生 富山の交通とくらし 五福小学校 1クラス 平成24年2月17日



4. 富山市のモビリティ・マネジメント教育推進事業

富山市モビリティ・マネジメント教育推進事業の考え方

くしとおだんごのまちづくりの理解を通して、
公共交通利用促進を目指す



5. 「くしとおだんごのまちづくり」の 学習プログラム

5. 「くしとおだんごのまちづくり」の学習プログラム

学習プログラムの概要

学年	3年生
校時	1時限座学、3時限乗車体験
連携教科	社会科、総合的な学習の時間
学習場所	教室、屋外

5. 「くしとおだんごのまちづくり」の学習プログラム

学習プログラムの流れ

学習の流れ	時間配分	実施内容
座学	11:35 (3分)	児童集合・開会あいさつ
	(20分)	くしとおだんごのまちづくり ーポートラムを知らうー パワーポイント説明
	(12分)	意見交換
	(10分)	調べたいこと・確認したいこと・聞きたいことをまとめる
昼休み		
富山駅北へ移動	13:30 (30分)	富山駅北へ貸し切りバスで移動
ポートラム乗車体験 車両基地見学 (くし体験) A班	(15分)	富山駅北から城川原までポートラムで移動
	(35分)	車両基地見学→城川原駅で電停説明、トイレ休憩
ポートラム乗車体験 車両基地見学 (くし体験) B班	(15分)	富山駅北で電停説明
	(15分)	富山駅北から城川原までポートラムで移動
	(20分)	車両基地見学、トイレ休憩
小学校へ移動	(30分)	五福小学校へ貸し切りバスで移動
	15:20	終了

くしとおだんごのまちづくり -ポータルを知ろう-(パワーポイント説明)

別紙をご覧ください。

学習プログラム実施の風景

○座学



○ポータル乗車体験



○車両基地見学



6. 「富山の交通と暮らし」の学習プログラム

6. 「富山の交通と暮らし」の学習プログラム

学習プログラムの概要

学年	4年生
校時	1時限
連携教科	社会科
学習場所	教室
本時のねらい	社会科単元「わたしたちの富山県」の学習の一部として、富山県が置かれている交通の現状とその解決策について仲間と話し合い、バスを中心にした公共交通のよさに気付くことができる。

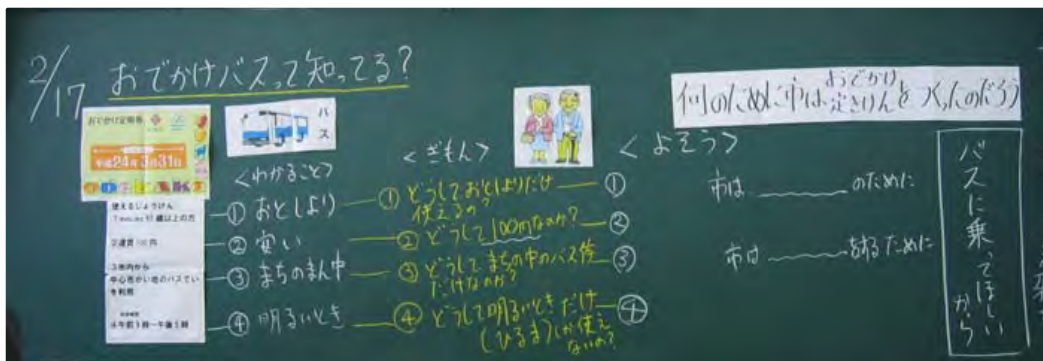
6. 「富山の交通と暮らし」の学習プログラム

学習プログラムの流れ

	学習内容	指導上の留意点
導入	<ol style="list-style-type: none"> 「おでかけバス定期券」を見て知っていることを出し合う <ul style="list-style-type: none"> 富山市内どこからでも中心市街地や市民 病院にてかける場合、バス料金が100円に割引。 市内在住の65歳以上の高齢者に限定。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期券と利用区間の地図の拡大を黒板に貼り、丁寧に定期券のメリットを確認させながら読みとらせる。 中心市街地の中で移動する場合でも100円であること、中心市街地から少し離れた市民病院へも利用できることを確認。
展開	<ol style="list-style-type: none"> 定期券利用者の推移を示したグラフを読み取り、順調に伸びている事実を確認する。 どうして富山市は「おでかけバス事業」を事業化したのか、その理由を考え合う。 <ul style="list-style-type: none"> 交通弱者である高齢者のため中心市街地に人を呼び込むため バスに乗る人を増やすため 通勤通学でバスを利用する人の割合の変化を読み取り、考えたことを班で話し合う。 「バスや鉄道が減り、車がこんなに多くを占めていくことは本当に(県民一人一人にとって)良いことなのか?」について話し合い、問題点を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> 交通渋滞や事故が増える。 自動車が運転できない人は困る。 排気ガスで空気が汚れる。 車は維持するのにお金がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の数が多く、その内で女性が多い割合を占めていることを強調し、その理由についても挙げさせる。 中心市街地に何の用事で出かけるのか、わざわざバスを利用しなくてはいけない高齢者の置かれている背景に気付かせたい。 「100円ではバス会社はもうからないのではないか」とゆさぶり、市の補助があることを予想させる。 割合の意味を教師が解説した後、予想以上にバス利用者が減ってきている事実に触れながら、自家用車中心の交通に傾いている富山県(市)の交通問題の傾向をつかませる。
まとめ		<ul style="list-style-type: none"> 「このままですと、みんなが65歳になったときに果たして富山ではバスは動いているのだろうか?」と投げかけて自分の問題に引き寄せるように促す。

6. 「富山の交通と暮らし」の学習プログラム

学習プログラム実施の風景



6. 「富山の交通とくらし」の学習プログラム

DVDをご覧ください。

おわり

ぜひ、みなさんも取り組んでいただけたらと思います。

富山市モビリティ・マネジメント教育 問い合わせ先 案内

本日の講演及びワークショップをお聞きいただき、モビリティ・マネジメント教育について興味・関心がございましたら、お気軽に以下の問い合わせ先までご連絡ください。

たとえば、こんなご質問にお答えします

- 他の学習プログラムの例も見てみたい
- こんなデータがほしい
- 富山市の政策をもっと詳しく知りたい
- モビリティ・マネジメントの学習プログラムをつくれたけれど、
アドバイスがほしい



お問い合わせ先
富山市 都市整備部 交通政策課
担当: 東福
tel: 076-443-2195 fax: 076-443-2190

6. 富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会

(1) 第 2 回協議会

協議会資料

平成 2 4 年度

第 2 回富山市モビリティ・マネジメント 教育推進協議会 資 料

平成 2 4 年 1 1 月 5 日

富山市都市整備部交通政策課

目 次

1	モビリティ・マネジメント教育推進事業の目的	1
2	事業内容と検討スケジュール	1
3	事業の収支	5
4	学習プログラム確立に向けた考え方【協議事項】	8
5	学習プログラムの企画・実施【協議事項】	10
6	教員への普及啓発【協議事項】	19
7	保護者を含めた市民への啓発活動	22

1. モビリティ・マネジメント教育推進事業の目的

公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを推進するうえで、市民ひとりひとりが、環境や社会について意識を向け、自発的にクルマと公共交通のかしこい利用を考えた交通行動をとることができるよう、小学生という早い段階から公共交通利用について意識醸成を図ることを目的に、小学校で実施可能な富山版モビリティ・マネジメント教育学習プログラム（以下、学習プログラム）を確立・実施を目指す。あわせて保護者を含めた市民に対して啓発活動を展開する一連のモビリティ・マネジメントにも取り組むことで、公共交通の利用促進につなげる。

平成 23 年度から 3 ヶ年は、交通エコロジー・モビリティ財団の支援を受け検討を行い、平成 26 年度からの事業の本格実施を目指す。

2. 事業内容と検討スケジュール

(1) 検討部会の設置

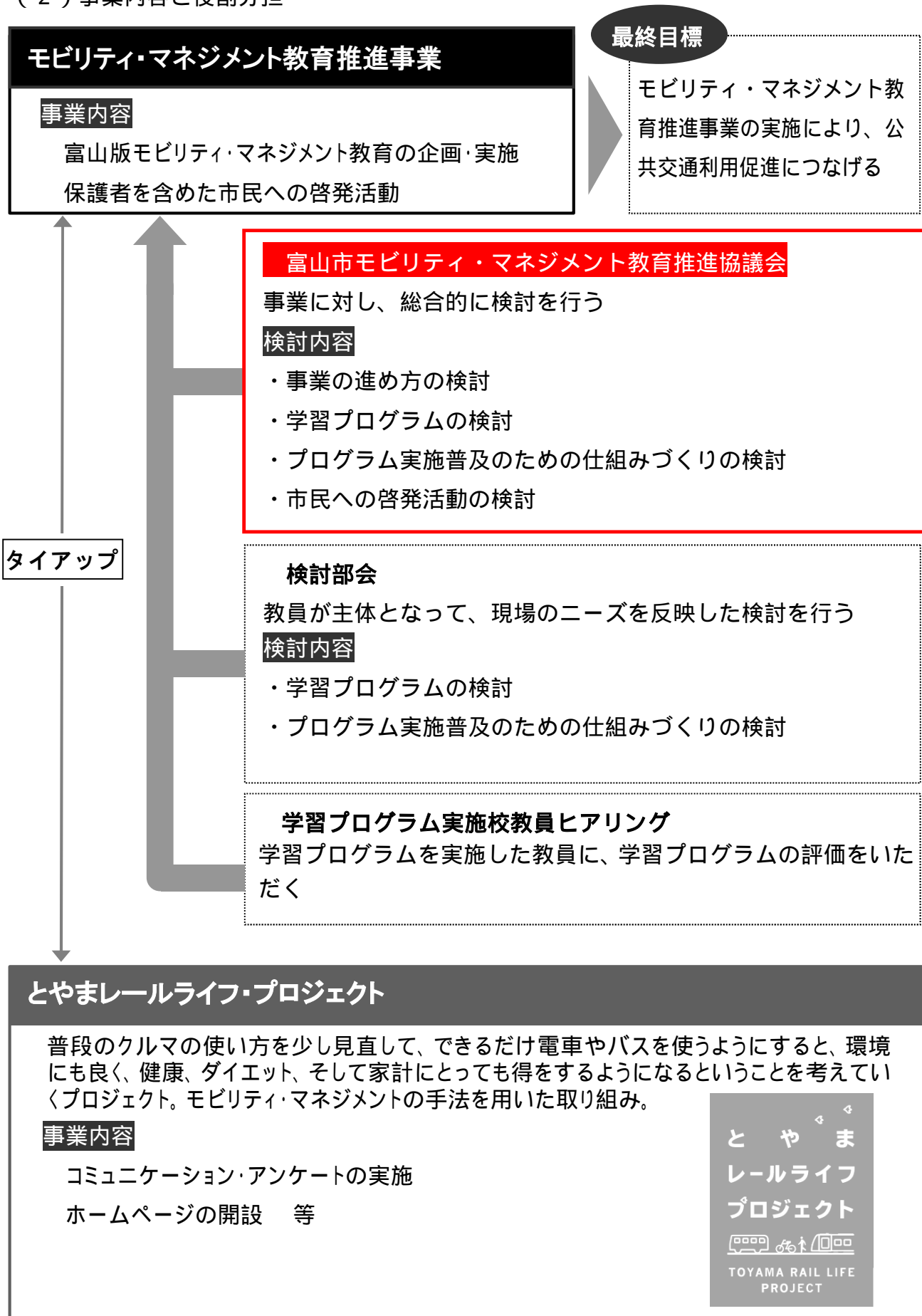
現場のニーズに合った学習プログラムの内容等の検討を目的に、日頃から熱心に小教研活動（社会科部会、総合部会）に取り組んでいる教員の方々から構成される検討部会を平成 23 年度に設置した。

表 検討部会メンバー

小教研	小学校	氏名	担当学年
座長	五福小学校	柳内 誠治	校長
社会科部会	保内小学校	劔田 秀則	3 年
	速星小学校	津幡 和英	4 年
	五福小学校	藤嶋 広樹	6 年
総合部会	呉羽小学校	堀 泰洋	5 年
	東部小学校	渡辺 純恵	-



(2) 事業内容と役割分担



(3) 3カ年の検討内容とステップのイメージ

富山版モビリティ・マネジメント教育を確立し、教員や保護者を含めた市民への普及を目指すため、本事業の検討項目を大きく3つに設定する。

検討項目1：富山版モビリティ・マネジメント教育学習プログラムの企画・実施

検討項目2：富山版モビリティ・マネジメント教育学習プログラムの教員への普及啓発

検討項目3：富山版モビリティ・マネジメントの保護者を含めた市民への啓発活動

それぞれの検討項目について、以下のように3カ年進める。

	平成23年度 導入年	平成24年度 ブラッシュアップ年	平成25年度 確立年
検討項目1 学習プログラムの 企画・実施	<ul style="list-style-type: none"> ■ 検討 ■ 実施(2プログラム) <ul style="list-style-type: none"> ・3年生社会科 ・4年生社会科 ■ 実施成果とりまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 検討 ■ 実施(4プログラム) <ul style="list-style-type: none"> ・4年生総合 ・3年生社会科 ・4年生社会科 ・6年生社会科 ■ 実施成果とりまとめ ■ 副読本掲載に向けた検討 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 検討 ■ 実施(3プログラム) <ul style="list-style-type: none"> ・3年生社会科 ・5年生社会科(案) ・5.6年生総合 ■ 実施成果とりまとめ ■ 教材完成 ■ 副読本掲載に向けた検討 ■ MM教育版カレンダーの作成
検討項目2 学習プログラムの 教員への普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ■ 普及のための仕組みづくりの検討 ■ 公開授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・4年生社会科(五福小学校) ■ 教員の先進地視察 <ul style="list-style-type: none"> ・札幌市 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 普及のための仕組みづくりの検討 ■ 普及啓発活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間部会でのPR ・社会科部会でのPR ■ 教員の先進地視察 <ul style="list-style-type: none"> ・金沢市 ・京都府 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 普及のための仕組みづくりの検討 ■ 普及啓発活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間部会でのPR ・社会科部会でのPR ・ワークショップの開催 ■ 教員の先進地視察
検討項目3 保護者を含めた 市民への啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> ■ とやまレールライフ・プロジェクトフォーラムとの連携 	<ul style="list-style-type: none"> ■ JCOMMとの連携 	<ul style="list-style-type: none"> ■ とやまレールライフ・プロジェクトフォーラムとの連携
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■ 関係機関との調整 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 関係機関との調整 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 関係機関との調整 ■ 支援制度終了後の実施計画の策定

(4) 平成24年度の取り組み

学習プログラムの教員への普及啓発(5月7日)

総合的な学習の時間の部会にて事業の説明とワークショップの開催

学習プログラムの企画・実施(5月29・30日)

「くしとだんごのまちづくり」(3年生社会科)を五福小学校で実施

第1回検討部会(5月29日)

学習プログラム「くしとだんごのまちづくり」の評価

4年生総合的な学習の時間の学習プログラムの検討

社会科副読本掲載に向けての検討

保護者を含めた市民への普及啓発(8月3~5日)

第7回日本モビリティ・マネジメント会議での発表

学習プログラムの教員への普及啓発(8月6日)

社会科副読本編集委員会にて事業の説明と連携依頼

学習プログラムの企画・実施(10月10・11日)

「『おでかけ定期券』って何だろう?」(4年生総合)を東部小学校で実施

第2回検討部会(10月11日)

学習プログラム「『おでかけ定期券』って何だろう?」の評価

3・6年生社会科の学習プログラムの検討

社会科副読本掲載に向けての検討

第2回協議会(本日)

学習プログラム確立に向けた考え方について検討

学習プログラムの内容について検討

教員への普及啓発について検討

学習プログラムの教員への普及啓発(11月12日)

社会科部会にて事業の説明

学習プログラムの企画・実施(12月3日)

「富山の新しい町づくり~町を元気にするライトレール~」(6年生社会科)を五福小学校で実施

第3回検討部会(12月3日)

学習プログラム「富山の新しい町づくり~町を元気にするライトレール~」の評価

4年生社会科の学習プログラムの検討

社会科副読本掲載に向けての検討

学習プログラムの企画・実施(1月)

4年生社会科の学習プログラムを速星小学校で実施

第4回検討部会(1月)

4年生社会科の学習プログラムの評価

社会科副読本掲載に向けての検討

来年度の進め方について検討

第3回協議会(2月予定)

学習プログラムの内容について検討

教員への普及啓発について検討

市民への啓発活動について検討

来年度以降のスケジュールについて検討

3 . 事業の収支

(1) 平成 23 年度の収支決算

【収入】

【単位:円】

科目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減額 (B-A)	内訳
委託料	980,000	980,000	0	富山市委託料
その他の収入	0	0	0	
合計	980,000	980,000	0	

【支出】

科目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減額 (B-A)	備考
委員会運営費	350,000	429,850	79,850	
諸謝金	110,000	80,415	-29,585	委員謝礼、講師謝礼等
旅費交通費	203,000	330,600	127,600	委員旅費、講師旅費等
会議費	37,000	18,835	-18,165	会場借上料等
交通環境学習実施費用	630,000	282,425	-347,575	
会議費	100,000	0	-100,000	
広告宣伝費	230,000	126,000	-104,000	公開授業DVD製作
印刷製本費	100,000	0	-100,000	
雑費	200,000	156,425	-43,575	交通環境学習用交通用ICカード等購入費等
合計	980,000	712,275	-267,725	


市への返還金 : 収入-支出 = 267,725円

監 査 報 告 書

富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会規約第5条第3項の規定により、平成23年10月17日から平成24年3月31日までの事業報告、決算書等を監査した結果、いずれも適正に処理、記載されていることを確認しましたので、ここに報告いたします。


平成24年4月17日

監査委員
富山市小学校教育研究会
総合的な学習の時間部会 部長
(富山市立船峯小学校長)

岡田 浩子 

平成24年4月20日

監査委員
富山市PTA連絡協議会 会長

水野 雅人 

(2) 平成 2 4 年度収支予算 (案)

[収 入]

(単 位 : 円)

区分	予算額	内訳
委託料	2,500,000	富山市委託料
その他収入	0	
合計	2,500,000	

[支 出]

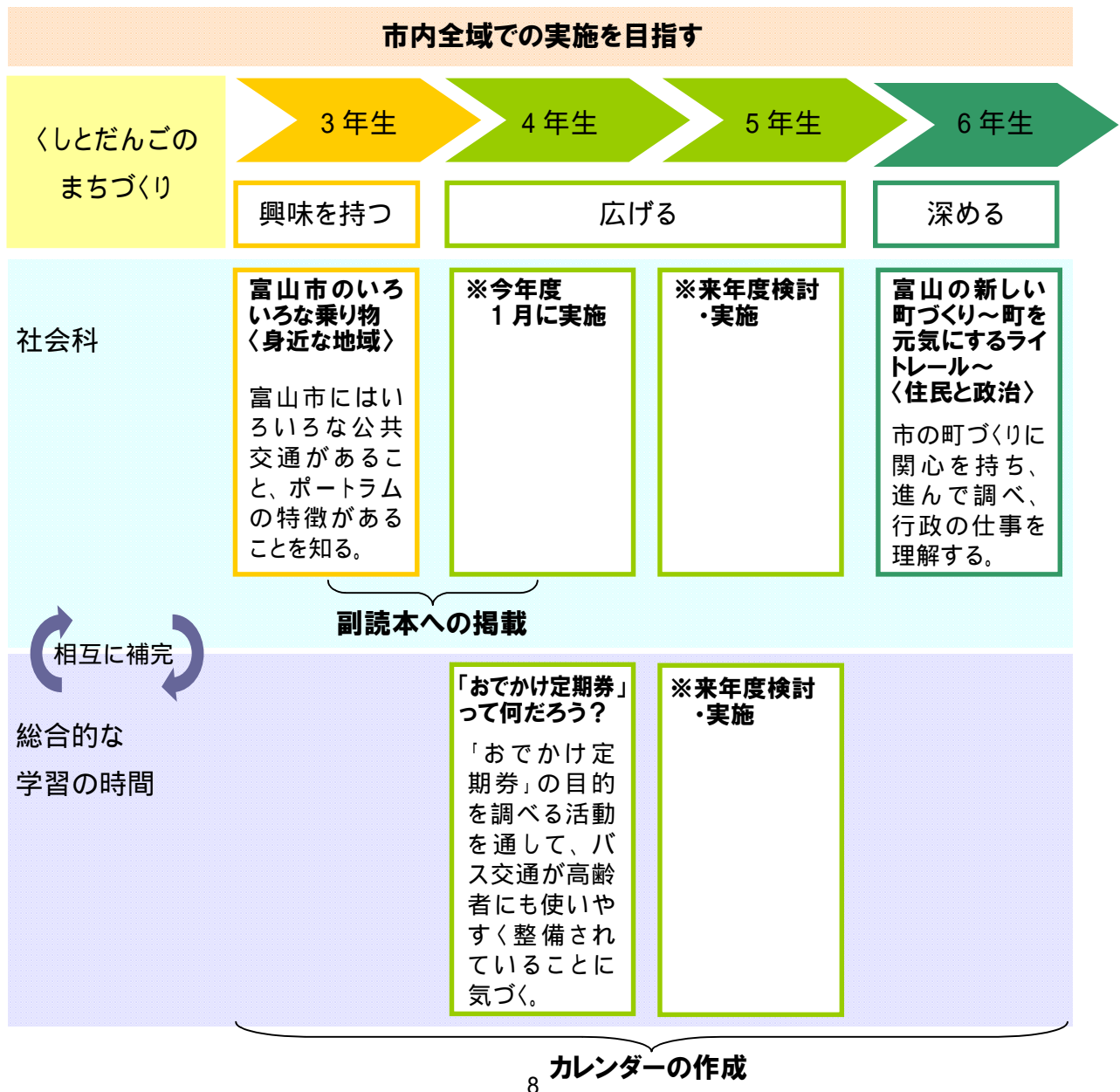
(単 位 : 円)

区分	予算額	内訳
委員会運営費	482,300	
諸謝金	89,400	委員謝礼、講師謝金
旅費交通費	392,900	委員旅費、講師旅費、職員旅費
交通環境学習実施費用	2,017,700	
会議費	22,000	公開授業会場費
業務委託費	1,585,700	授業プログラム実施委託費
広告宣伝費	250,000	公開授業DVD作成費用
雑費(消耗品費)	160,000	交通環境学習用交通ICカード等購入費等
合計	2,500,000	

4 . 学習プログラム確立に向けた考え方【協議事項】

(1) 4年間の学習ステップ

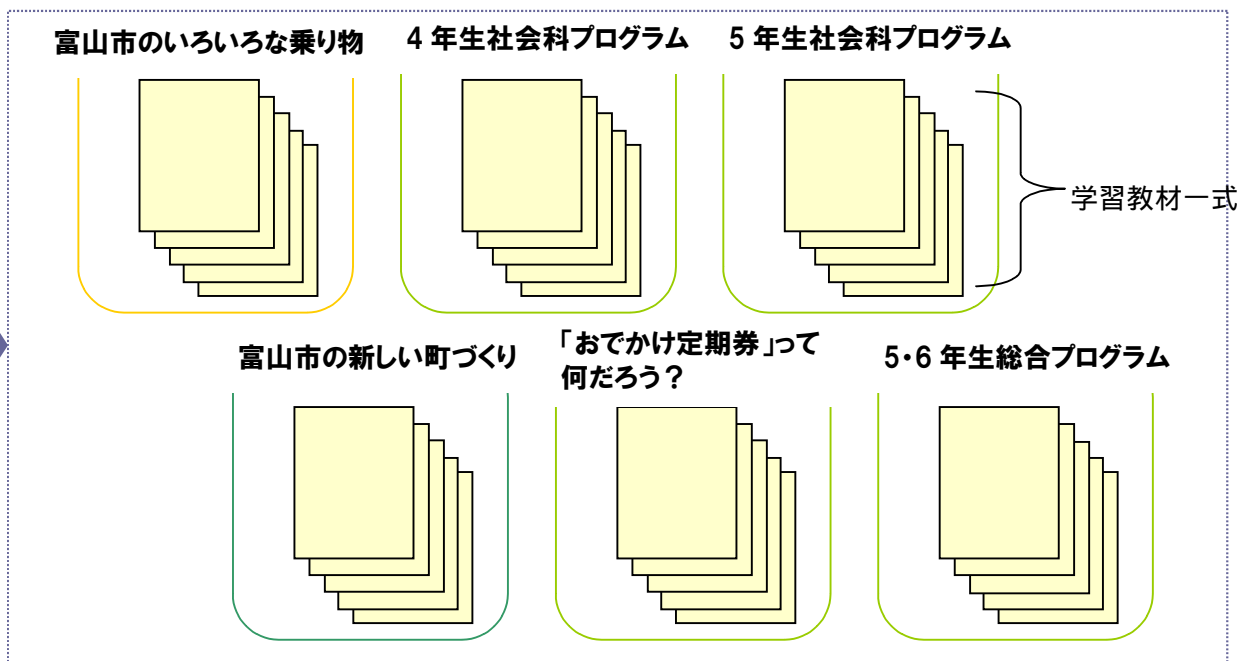
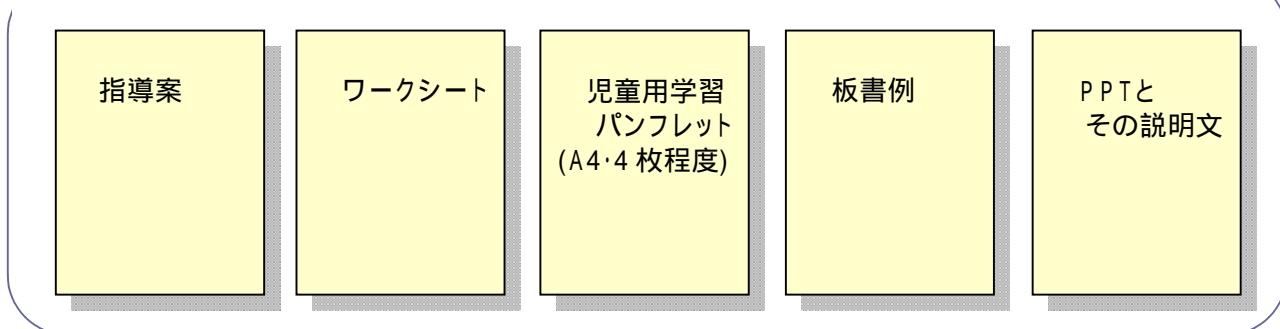
- ・モビリティ・マネジメント教育推進事業は、「くしとだんごのまちづくり」の理解を通して公共交通利用の促進を最終目標としている。1年間だけの実施ではモビリティ・マネジメント教育は児童に定着しないため、3~6年生の4学年においてステップを踏みながら市内全域での学習プログラムの実施を目指す。
- ・社会科では4つ、総合的な学習の時間では2つの学習プログラムを作成し、相互に補完しながらモビリティ・マネジメント教育を推進する。
- ・社会科において、3・4年生では、教員が取り組みやすいよう3・4年生社会科の副読本『わたしたちの富山市』への掲載を目指す。また、社会科や総合的な学習の時間など、幅広い関連づけを行って実施していただくことを目指し、ESDカレンダーのモビリティ・マネジメント教育版カレンダーの作成を目指す。



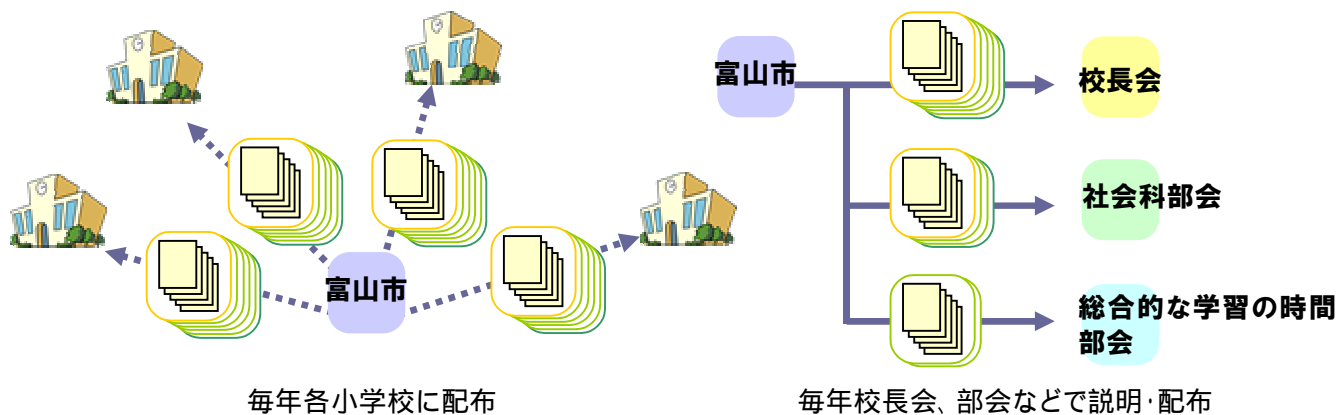
(2) 学習プログラムのアウトプットイメージ

- ・各学習プログラムにつき、指導案、ワークシート、児童用学習パンフレット、板書例、パワーポイントとパワーポイントの説明文、の一式を用意することを目指す。

学習プログラムの教材一式



学習教材をモビリティ・マネジメント教育の普及のために使用する将来的なイメージ



5 . 学習プログラムの企画・実施

(1) 3 年生社会科の学習プログラム

実施結果

) 実施概要

実 施 日：平成 24 年 5 月 29 日（火）、30 日（水）3 時間程度

実 施 場 所：五福小学校

実 施 者：教員

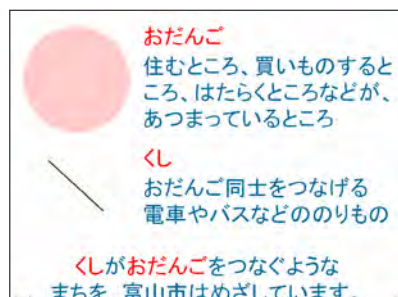
対象校・学年：五福小学校 3 年生 2 クラス

学習プログラム：くしとおだんごのまちづくり

) 学習プログラム内容（昨年度実施プログラム）

2 クラス合同で富山市の「くしとおだんごのまちづくり」について座学を 1 時限行い、貸切バスで富山駅北や城川原の車両基地へ移動の後、「くし」の 1 つであるポートラムの乗車体験と車両基地見学を 2 時間程度実施した。

学習の流れ	時間配分	実施内容
座学	3 分	児童集合・開会あいさつ
	20 分	くしとおだんごのまちづくり - ポートラムを知ろう - パワーポイント説明
	12 分	意見交換
	10 分	調べたいこと・確認したいこと・聞きたいことをまとめる
富山駅北へ移動し	30 分	富山駅北へ貸し切りバスで移動
ポートラム乗車体験	15 分	富山駅北から城川原までポートラムで移動
車両基地見学 (くし体験) A 班	35 分	車両基地見学 城川原駅で電停説明、トイレ休憩
小学校へ移動	30 分	五福小学校へ貸し切りバスで移動



パワーポイントの一部

) 授業風景



) 新聞掲載記事

5月30日(水) 北日本新聞

富山市が2011年度から進めるモビリティ・マネジメント教育推進事業の一環。同事業は12年度に児童向け学習プログラムの完成を目指している。五福小は同事業のモデル校に指定されている。

児童たちは、住まいや商店などが集まる場所を「おだんご」おだんごをつなぐ役割をする公共交通を「くし」に見立て、公共交通の大切さを学習。スライドで、市中心部では「くし」のセントラムの周りに大きな「おだんご」ができていく様子を確認した。

30日は、富山ライトレールに乗車体験する予定。

公共交通の役割学が、富山市交通環境学習が29日、同市五福の五福小学校で行われ、3年生72人がまちづくりにおける公共交通の役割について理解を深めた。写真。

車と公共交通を適切に選択できる大人になってもらうと、



5月30日(水) 富山新聞

富山市の交通環境学習Ⅱ写真Ⅱは29日、同市五福小で行われ、3年生75人がライトレールなど公共交通の役割に知識を深めた。

児童は2クラスで担任から「くしとおだんごのまちづくり」と題した講義を聞き、市電やJR高山線、ポートラムなどの交通機関の整備に伴い、周辺にビルや住居、公共施設が建てられていることを学んだ。30日は、ポートラムの乗車体験や同市城川原の車両基地の見学などを行う。

公共交通の役割学が、富山・五福小



検討部会でのご意見と改善案【協議事項】

検討部会でのご意見

- ・ 富山のまちには、いろいろな公共交通があり便利だということが落としどころとして考えられる。
- ・ 6年生の学習プログラムでも、くしとだんごのまちづくりに触れる予定であるため、3年生では軽く触れる程度が良い。 学習の順番は、いろいろな公共交通を知り、その後にくしとだんごを学習すると良い。
- ・ 全市で学習プログラムを展開していく際に、乗車体験を担保できるのか検討が必要。
- ・ ポートルム以外の公共交通の学習プログラムを準備することが望ましい。
- ・ 代表例としてポートルムのみを扱えばよい。
- ・ 全市必須の学習事項とオプションで学習することを明確化することが必要である。
- ・ 現在の PPT の内容を基本としながらワークシートを作成したらよい。

改善案

プログラム名	「富山市のいろいろな乗り物」
学習のねらい	・ 富山市にはいろいろな公共交通があることやポートルムの特徴を知り、公共交通に興味を持つ。
時限数	・ 1 時限
学習内容	・ 昨年度と今年度の実施内容をベースに、内容を絞り込み、児童がワークシートなどで作業をしながら進められる学習プログラムを目指す。 { 富山市のいろいろな公共交通 ポートルムの特徴（富山市の代表的な公共交通として選定） くしとだんごのまちづくり（6年生で学習するため簡易的に）
来年度の予定	・ 五福小学校で実施しブラッシュアップを行い、学習プログラムの完成を図る。 ・ 学習プログラムの完成後、学習パッケージを準備する。

(2) 4年生社会科の学習プログラム

実施結果

) 実施概要

実施日：平成24年10月10日(水)、11日(木)2時限

実施場所：東部小学校

実施者：教員

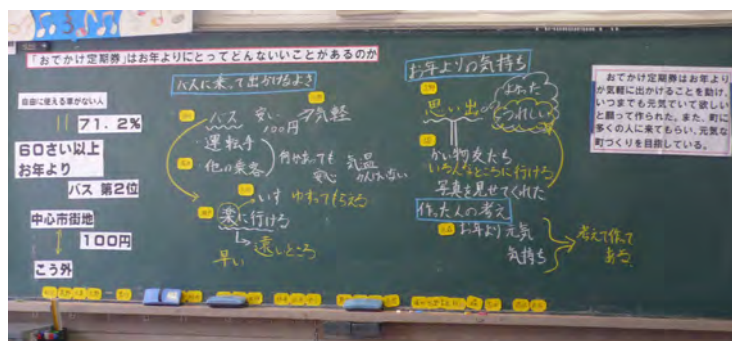
対象校・学年：東部小学校4年生1クラス

学習プログラム：「おでかけ定期券」って何だろう？

) 学習プログラム内容

プログラム名	「『おでかけ定期券』って何だろう？」
学習のねらい	・市が発行している「おでかけ定期券」の目的を調べる活動を通して、バス交通がお年寄りにも使いやすく整備されていることに気付く。
時限数	・2時限
学習内容	<p>学習課題 何のために「おでかけ定期券」があるのだろう</p> <p>1時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おでかけ定期券」について知る。 ・課題について児童パンフレットで調べ学習を行う。 <p>2時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを紹介し合う。 ・課題について話し合い、「おでかけ定期券」について理解を深める。
その他	<p>以下のような授業展開も考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1時間目と2時間目の間に、実際の乗車体験やバスの見学などの体験学習を入れる。 ・2時間目に、富山市交通政策課などからゲストティーチャーを迎え、「おでかけ定期券」の目的についてのお話を直接聞く。

) 授業風景



）児童用パンフレット

「おでかけ定期券」は、 こんなところでも使えます。

富山ライトレール
富山ライトレール(ポートルムとフィーダーバス)は、どの駅、バス停で乗りおいても、1回それぞれ100円で利用できます。

路面電車
市内電車は、どの電停で乗りおいても、1回100円で利用できます。

地鐵電車
富山地方鉄道本線、立山線、不二越・上尾線の市内にある駅と、電鉄富山駅、南富山駅の各区間を1回100円で利用できます。

富山市交通政策課 東福光剛さんのお話
おでかけ定期券は、高齢者の方が自分で気軽に、行きたい所に出かけられることを助け、いつまでも元気でいてほしいと願って作られた券です。また、バスや電車に乗って、中心市街地に多くの人に来てもらうことで、交通機関や中心市街地がにぎわい、元気になるます。

富山市交通政策課

「おでかけ定期券」って何だろう？

「おでかけ定期券」は、富山市に住んでいる65歳以上の人が、市内のいろいろな場所から中心市街地に行くときに、100円でバスや電車に乗れる定期券です。

- 利用できる人**
富山市内に住む65歳以上の人
- 利用できる交通機関**
地鐵路線バス・地鐵電車・市内電車・富山ライトレール(ポートルム、フィーダーバス)・まいどはやバス
- 割引になる時間帯**
9時～17時(おりの時間)

路線バス
富山市内の全ての路線バスで、中心市街地と市民病院へのお出かけが富山市内のどのバス停からでも1回100円で利用できます。

65歳からおとくだね!

外面

何のために、「おでかけ定期券」があるの？

自由に乗を使えない人は、どれくらいいるの？ (出典:平成18年富山市の公共交通に関する意識調査)

自由に乗を使えない人は、29.5%、自由に乗を使える人は、70.5%。

自由に乗が使えないのは、どんな人？

年代別	割合
10～19歳	9.8%
20～29歳	3.7%
30～39歳	2.5%
40～49歳	4.3%
50～59歳	8.5%
60～69歳	21.8%
70～79歳	31.1%
80歳以上	18.3%

60歳以上の人が多いんだ

自由に乗を使えない人は、どうやって出かけるの？ (出典:平成18年富山市の公共交通に関する意識調査)

月～金曜日

交通手段	割合
富山ライトレール	33.7%
バス	38.8%
タクシー	10.1%
おむろ自転車	28.9%
徒歩	9.4%
その他	9.4%

バスや自転車を乗る人が多いんだね

「おでかけ定期券」を使って、どこまで出かけるの？

富山市内のバス路線

どのバス停で乗っても、中心市街地や富山市民病院まで100円なんだよ

広いはいいで、使えるんだね

「おでかけ定期券」を使っている人は、どう思っているの？

わしの家は、中心市街地から遠いんだけど、中心市街地まで100円で行って大助かりや。

バスや電車などいろいろな交通機関で使えるから、出かけたかったときに、気軽に行って便利だわ。

「おでかけ定期券」を持つようになってから、出かける回数が増えて、楽しみがふえたわ。そしたら、元気が出てきて、家族に「わかった」って言われるのよ。

中面

）新聞掲載記事

10月12日(金) 北日本新聞

公共交通機関の
適切な利用法学ぶ

富山市が東部小で学習会

富山市の交通環境学習が11日、同市東部小学校（古木繁行校長）で開かれ、4年生約30人が公共交通機関の役割について理解を深めた。

環境保全や社会の仕組みを学び、自家用車と公共交通を適切に利用できる大人になってもらおうと実施。65歳以上の高齢者



公共交通機関の役割について学ぶ子どもたち

を対象に中心市街地に出掛ける際のバスや電車の料金を割り引く「おでかけ定期券」をテーマに授業を行った。

子どもたちは、おでかけ定期券の利点について考え「料金が安くなるので気軽に外出できる」「家族や友人と出掛ける機会が増え、思い出がたくさん作れる」などと意見を発表した。

10月12日(金) 富山新聞

富山市東部小の児童が意見を発表する



公共交通の大切さ学ぶ

富山市東部小

富山市の交通環境学習は11日、同市東部小で開かれ、4年生34人が市が発行する「おでかけ定期券」の役割を理解し、公共交通の大切さを学んだ。

児童は事前授業で、高齢者のバス利用状況や定期券の特徴を学んできた。この日はバス利用の利点を考え、市が市が発行する「おでかけ定期券」の役割を交通政策課の担当者から定期券を発行する目的などを聞いた。

富山市モビリティ・マネジメント教育推進

卒業の一環として行われ、12月には五福小で授業が行われる。

生徒が清掃奉仕

富山・大泉中

富山市大泉中の清掃ボランティアは11日、学校近くのいたち川沿道で行われ、生徒80人がごみを拾った。写真

評価

）児童への意識変化アンケート結果

学習プログラム実施後、全児童に対してアンケートを実施した。以下の全学習ステップにおいて、6割以上の児童が「とても好きになった・とても思う」、「好きになった・思う」と回答しており、学習効果が見られる。

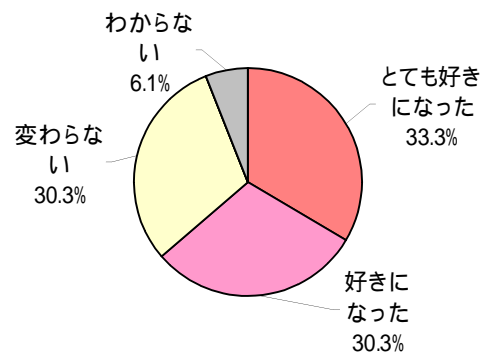
学習ステップ1: 公共交通を好きになる

問: 授業を受けて、バス、電車、ポートラムやセントラムを好きになりましたか？

N= 33

項目	件数	割合
とても好きになった	11	33.3%
好きになった	10	30.3%
変わらない	10	30.3%
きれいになった	0	0.0%
すごくきれいになった	0	0.0%
わからない	2	6.1%
無回答	0	0.0%
合計	33	100.0%

63.6%



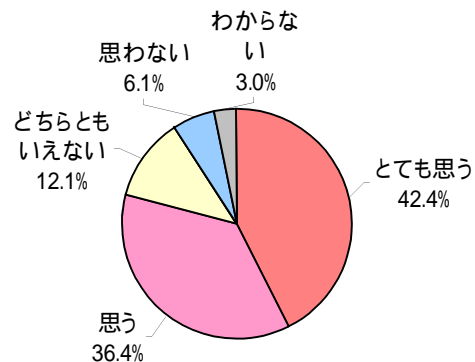
学習ステップ2: 公共交通を利用したいと思う

問: 授業を受けて、バス、電車、ポートラムやセントラムに乗りたいと思いませんか？

N= 33

項目	件数	割合
とても思う	14	42.4%
思う	12	36.4%
どちらともいえない	4	12.1%
あまり思わない	0	0.0%
思わない	2	6.1%
わからない	1	3.0%
無回答	0	0.0%
合計	33	100.0%

78.8%



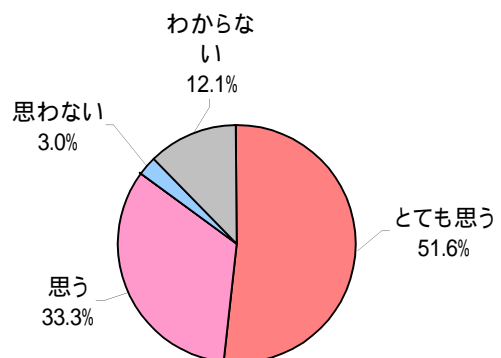
学習ステップ3: 環境や社会のことを考え、公共交通の大切さを理解する

問: 授業を受けて、あなたの住むまちのバス、電車、ポートラムやセントラムは、大切だと思いませんか？

N= 33

項目	件数	割合
とても思う	17	51.6%
思う	11	33.3%
どちらともいえない	0	0.0%
あまり思わない	0	0.0%
思わない	1	3.0%
わからない	4	12.1%
無回答	0	0.0%
合計	33	100.0%

84.9%



）検討部会でのご意見と改善案【協議事項】

検討部会でのご意見

- ・4年生の総合的な学習の時間のテーマは福祉の場合が多い。交通に焦点を合わせると、授業を進めていくことは難しい。福祉の観点での学習内容が必要である。
- ・「町を元気にする」ということが児童には理解が難しい。児童は、中心市街地が衰退している現状が認識できていない。児童は、郊外のショッピングセンター「ファボーレ」に頻繁に訪れているが、中心市街地の西町周辺に訪れた経験は少ない。
- ・4年生で福祉と交通・まちづくりの2つをテーマとすることは難しい。4年生では福祉をテーマとすることがふさわしい。5年生になると福祉の観点よりもまちづくりの観点がふさわしい。来年度は総合的な学習の時間における学習プログラムとして、5年生を対象とした交通・まちづくりをテーマにした学習プログラムを作成することが望ましい。そうすると、4年生では「おでかけ定期券」をつくった3つの理由についての、まちづくりについての内容は、そこまでしっかり児童に理解をさせる必要はなくなる。
- ・「何のために『おでかけ定期券』があるのだろう」が1,2時限を通しての学習課題であったが、学習内容が多いため、学習課題の内容を絞る。1時限目の学習課題は「『おでかけ定期券』って何だろう」、2時限目の学習課題は「『おでかけ定期券』はお年寄りにとってどんないいことがあるのだろうか」に変更する。
- ・総合的な学習の時間の学習プログラムとの関連付けを、説明する文章を学習指導案に追加する。
- ・ゲストティーチャーである富山市職員の話した内容の原稿を活用し、教員用の補助教材として用意することで、ゲストティーチャーを招かなくても授業を実施できる。

改善案

- ・4年生では福祉をメインに、5年生ではまちづくりをメインにした総合的な学習の時間の学習プログラムを確立する。来年度に5年生の学習プログラムを企画・実施する。
- ・学習課題を1時限目は「『おでかけ定期券』って何だろう」とし、2時限目は「『おでかけ定期券』はお年寄りにとってどんないいことがあるのだろうか」に変更する。
- ・4年生で理解が難しくても、5年生でも再度学習するため、おでかけ定期券がある理由 利益増加の観点、福祉の観点、まちづくりの観点について全て触れる。

(3) 3年生、4年生社会科学習プログラムの副読本掲載に向けた検討【協議事項】

検討経緯

打ち合わせ：

7月5日(木) 劔田先生(検討部会)、桑谷先生(富山市教育センター)、事務局

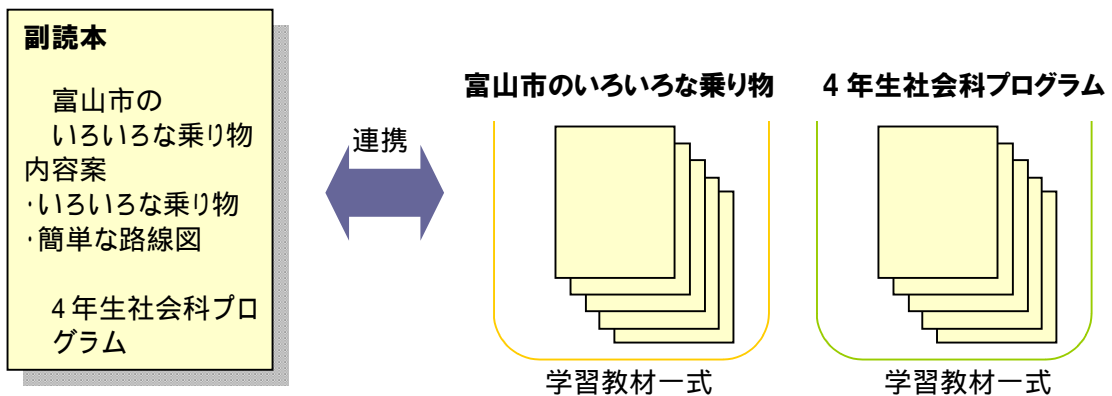
社会科副読本編集委員会への趣旨説明：

8月6日(月) 編集会議にてモビリティ・マネジメント教育や事業の趣旨を説明

ご意見まとめ

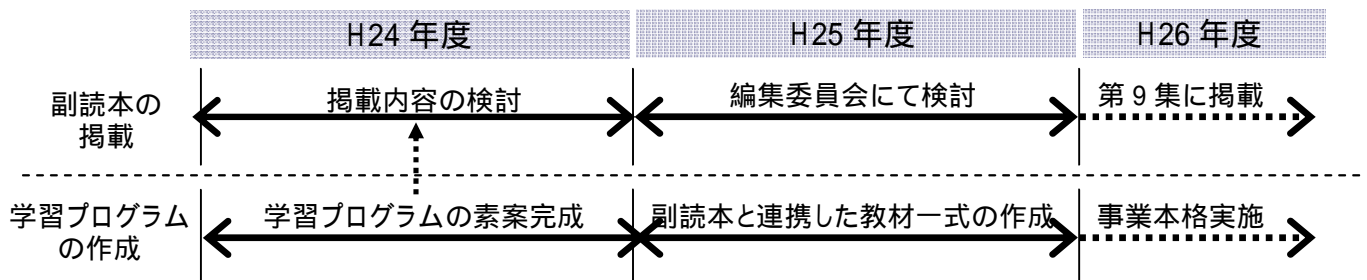
- ・3年生では市の全体を把握することがメインであり、路線図やポータルについて掘り下げて学習することは無理である。
- ・富山市にはいろいろな乗り物があることを学習することがメインである。
- ・子どもたちが見たことがある乗り物を掲載することが大切である。
- ・教員は教科書をベースに使用するため、副読本の使用方法は教員次第である。副読本の指導の手引書のようなものはない。

副読本と学習プログラムの関係



掲載に向けてのスケジュール

- ・3年生と4年生社会科学習プログラムについても、掲載に向けての検討を行う。
- ・平成24年度は、編集委員でもあり検討部会メンバーでもある劔田先生が中心になり紙面内容を検討する。また、副読本に合わせた教材パッケージの内容を検討する。
- ・平成25年度に、平成26年度版第9集の掲載を目指し、掲載内容を検討する。

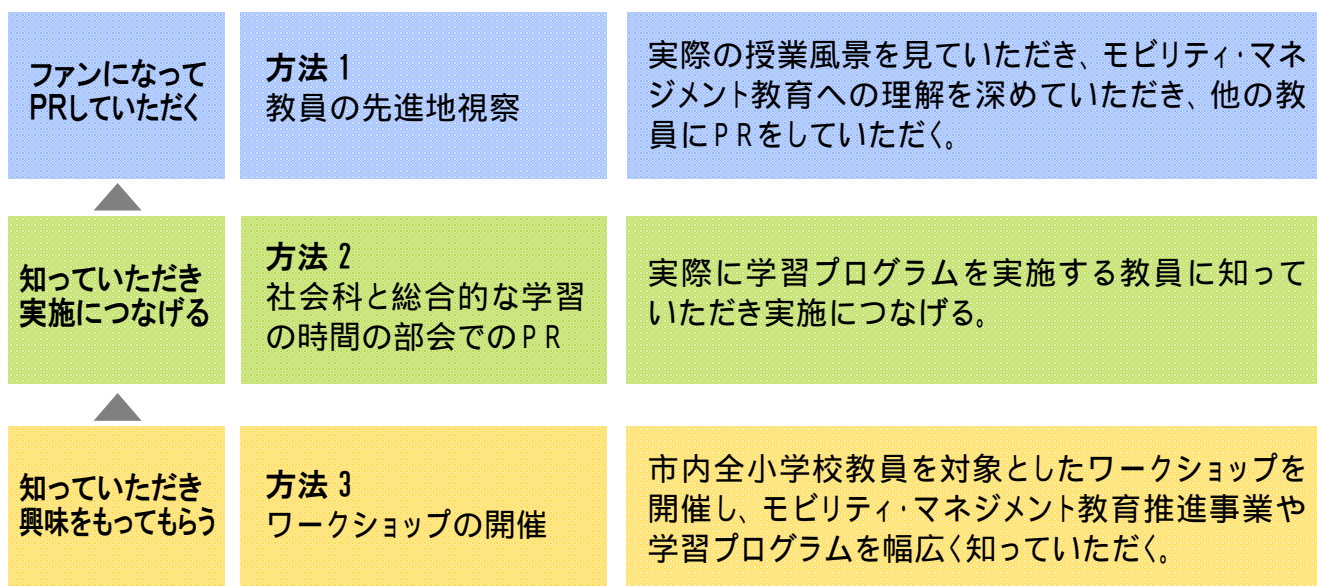


6 . 教員への普及啓発

(1) 普及啓発の方法【協議事項】

富山版モビリティ・マネジメント教育学習プログラムを市内全域で継続的に実施するために、さまざまな方法で教員に事業をPRしていくことが必要である。

来年度以降は、以下の3つの方法で普及啓発に取り組むことを目指す。







普及啓発の3つの方法

(2) 先進地視察結果

金沢市立小立野小学校における金沢版交通環境学習

<p>視察者</p>	<p>藤嶋広樹(検討部会メンバー、富山市立五福小学校教諭) 富山市職員</p>
<p>実施学年</p>	<p>4年生1クラス(26名)</p>
<p>授業実施者</p>	<p>教員 1名 金沢市歩ける環境推進課職員 2名 コンサルタント 2名</p>
<p>授業内容</p>	<p>1限目 金沢市の交通について、交通すごろく 金沢市におけるバスについてスライドを見た後、交通すごろくのゲームを通じて環境や社会に配慮したより良い交通手段の選択方法について考える。</p>  <p>2限目 交通と環境に関する学習 地球温暖化と交通の関係についてスライドを見た後、すごろくゲームで選択した交通手段による二酸化炭素排出量を計算させ、エコ活動として車の利用を控えることが効果的であることを考える。</p>   <p>3限目 標語の作成 1、2限目で学習したことを振り返り、環境・社会を考慮して車利用を控えることの大切さ、バスが環境にやさしい乗り物であることなどを標語にして他者に伝える。</p> 

福知山市立成仁小学校における交通環境学習

視察者	津幡和英(検討部会メンバー、富山市立速星小学校教諭) 富山市職員
実施学年	5年生(65名)
授業実施者	教員 1名 京都府建設交通部交通政策課 2名 福知山市役所市民人権環境部生活交通課 1名 京都交通株式会社 4名 コンサルタント 2名
学習目的	地域を支えるバスや公共交通の役割を知ること、地域のためにできることを考える。
授業内容	<p>バスに関する振りかえり学習(10分間) 普段から利用する交通手段を思い出し、バスが地域のどこを走っているか、またバスの利用状況を学ぶ。(京都府職員による説明)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>車両見学(40分間) バスに関する全体説明の後、班ごとにバス車両、電気自動車、天然ガス車を順番に見学。(京都交通、京都府、福知山市職員による説明)</p> <div style="display: grid; grid-template-columns: 1fr 1fr; gap: 10px;">     </div> <p>振り返り及びまとめ(30分間) 座学・車両見学で学習したことを振り返り、バスが地域を支える重要な乗り物であることを学び、バスや電車を大切にするために各自ができることを発表しあう。</p>

7. 保護者を含めた市民への啓発活動

第七回 日本モビリティ・マネジメント会議 (JCOMM)

第七回 日本モビリティ・マネジメント会議 The 7th Japanese Conference On Mobility Management

2012.8/3 (Fri)-5 (Sun)

富山国際会議場

(3階メインホール他)

〒930-0084 富山市大手町1番2号 <http://www.fcc.co.jp/>

8月4日(土)

時間	項目	概要
モビリティ・マネジメント教育推進事業成果発表		
10:00~10:20	成果発表	富山市立五福小学校でのモビリティ・マネジメント教育の成果を発表する。
大学生によるモビリティ・マネジメント成果発表		
10:20~10:40	街なかメイクアップ サポーターによる報告	富山大学新生を対象に作成した「街なかマップ」を使ったモビリティ・マネジメントの成果を発表する。
レールライフ実践人インタビュー		
10:40~11:00	レールライフ実践人 インタビュー	暮らしの中で公共交通を活用している市民に、公開インタビューを行い、実例を紹介する。
ミニシンポジウム		
11:00~12:00	学識経験者等による シンポジウム	本市の公共交通活性化に向けた取組みについて、学識経験者を交えたシンポジウムにて討議を行い、富山型モビリティ・マネジメントのあり方について意見交換を行う。 コーディネーター：谷口 守氏（筑波大学教授） パネリスト：高山純一氏（金沢大学教授） 神田昌幸氏（富山市副市長）ほか
オープニングセッション		
13:00~13:15	挨拶	主催者挨拶（石田委員長）及び来賓祝辞（最勝寺北陸信越運輸局長）
13:15~14:15	市長特別講演	森市長による特別講演を行う。
JCOMM賞授賞式		
14:15~15:00	JCOMM賞の授与	今年度本市が受賞予定のJCOMMプロジェクト賞ほか各賞（マネジメント賞、デザイン賞、技術賞）の授賞式を行う。
研究発表		
15:00~18:00	口頭・ポスターによるセッション	全国のモビリティ・マネジメントに関する研究について、口頭及びポスターセッションにより発表する。
意見交換会		
18:30~20:00	意見交換会	主催者挨拶（石田委員長） 来賓挨拶（前川北陸地方整備局長）及び開催地挨拶（森富山市長）

8月5日(日): 研究発表

時間	項目	概要
研究発表		
9:00~16:00	口頭・ポスターによるセッション	全国のモビリティ・マネジメントに関する研究について、口頭及びポスターセッションにより発表する。

協議会議事要旨

平成24年度

第2回 富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会 議事録

日時：平成24年11月5日（月）16：00～17：40

場所：富山市役所3階 自治振興会室

委員：

所属	氏名
金沢大学 理工研究域 環境デザイン学系 教授	高山 純一
玉川大学 教育学部 教育学科 教授	寺本 潔
筑波大学 大学院 システム情報系 講師	谷口 綾子
富山市立五福小学校 校長	柳内 誠治
富山市小学校教育研究会 総合的な学習の時間部会 部長	岡田 浩子
富山市小学校教育研究会 社会科部会 部長	戸田 哲彦
富山市教育委員会 学校教育課 主幹指導主事	吉藤 重弘（欠席）
富山市PTA連絡協議会 会長	水野 雅人
国土交通省 北陸信越運輸局 交通環境部 環境課 課長	北角 武史

事務局：

所属	氏名
富山市 都市整備部 交通政策課 課長	大場 一成
富山市 都市整備部 交通政策課 係長	東福 光晴
富山市 都市整備部 交通政策課 主査	室田 知美
交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境対策部長	加藤 信次
交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境対策部 交通環境企画課 課長代理	岡本 英晃
株式会社 計画情報研究所 研究員	北川 真理
株式会社 計画情報研究所 研究員	大西 友世

次 第：

- 1．開会
- 2．富山市挨拶
- 3．議題
 - (1) モビリティ・マネジメント教育推進事業の目的
 - (2) 事業内容と検討スケジュール
 - (3) 事業の収支
 - (4) 学習プログラム確立に向けた考え方
 - (5) 学習プログラムの企画・実施
 - (6) 教員への普及啓発、保護者を含めた市民への啓発活動
- 4．その他
- 5．閉会

1．開会

2．富山市挨拶

大場（富山市 都市整備部 交通政策課 課長）

本日はお忙しいなかご出席いただき、ありがとうございます。日頃より、富山市の行政推進にご協力いただいていることに対して、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。本協議会は、富山市内の小学校において交通環境学習を実施することにより、ひとりひとりが社会や環境に優しい交通手段を見直し、自発的に行動する人間を育てるモビリティ・マネジメント教育について協議するために設置している。富山市では、コンパクトシティを目指した各種施策を実施している。当課では、市民に公共交通の良さをわかりやすく伝えるとともに、利用促進に向けて取り組むモビリティ・マネジメント「とやまレールライフ・プロジェクト」を実施している。平成 24 年 8 月開催の第七回日本モビリティ・マネジメント会議において、五福小学校におけるモビリティ・マネジメント教育の実施について報告させていただいた。なお、平成 23 年度に引き続き、平成 24 年度も交通エコロジー・モビリティ財団からの補助を受けながら学習プログラムの開発を行い、中長期的な公共交通利用促進を図っていきたい。本日は、忌憚ないご意見をいただきたい。よろしく申し上げます。

3. 議題

高山委員長

富山市で開催された第七回日本モビリティ・マネジメント会議において、「とやまレールライフ・プロジェクト」が受賞している。モビリティ・マネジメント教育では、公共交通の利便性を認識して、過度に車に依存しない生活の実現に向けた取り組みが行われている。一番の課題は、本格実施後の継続的な普及である。本日はさまざまなご意見をいただきたい。

(1) モビリティ・マネジメント教育推進事業の目的【報告事項】

事務局（東福）

（資料説明：「平成 24 年度 第 2 回富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会 資料」1 頁）

(2) 事業内容と検討スケジュール【報告事項】

事務局（東福）

（資料説明：「平成 24 年度 第 2 回富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会 資料」1 ~ 4 頁）

寺本委員

平成 24 年度は、ブラッシュアップ年と位置付けられている。総合的な学習の時間と社会科では、学習のねらいに違いがある。社会科の場合は、単元と関連づけることでモビリティ・マネジメント教育実施の必要性が出てくるが、総合的な学習の時間の場合は、年間カリキュラムの内容を各小学校が自由に決めて良いことになっており、モビリティ・マネジメント教育を実施する必要性があまりない。総合的な学習の時間部会でのモビリティ・マネジメント教育実施に対する教員の反応に手ごたえはあるのか。

岡田委員

5 月の総合的な学習の時間部会では、モビリティ・マネジメント教育とは何かを説明していただき、実施する場合の検討を行った。社会科の発展としての実施が考えられる。なおかつ、手軽に実施できるように指導案やワークシートなどの教材一式が用意されていると良い。総合的な学習の時間だけでモビリティ・マネジメント教育を実施する場合、今後の検討が必要である。

寺本委員

モビリティ・マネジメント教育は、まちづくりと関係がある。総合的な学習の時間でまちづくりをテーマとした実施事例はないのか。

岡田委員

総合的な学習の時間において、まちづくりのひとつとして公共交通を取り上げることは可能

である。まちづくりをテーマとした総合的な学習の時間の実施事例があるかは把握していない。

寺本委員

まちづくりは主体性が重要である。この点から、総合的な学習の時間が主体となって、社会科を巻き込んでモビリティ・マネジメント教育を実施していくことは可能である。総合的な学習の時間でまちづくり学習が行われなければ、総合的な学習の時間と社会科がリンクしてモビリティ・マネジメント教育に取り組むことは難しい。

谷口委員

事業内容である「保護者を含めた市民への啓発活動」とやまレールライフ・プロジェクトとタイアップすることになっているが、どのようにタイアップするのか。

また、検討項目として「普及のための仕組みづくりの検討」が挙げられているが、普及のための仕組みをつくることは難しい。既に取り組まれていることがあれば教えてほしい。

事務局（東福）

保護者を含めた市民への啓発活動は、大切なことである。平成 23 年度にとやまレールライフ・プロジェクトのフォーラムと連携した啓発活動を行っている。これ以外にもタイアップ方法として何が考えられるか検討していきたい。

普及のための仕組みづくりとして、校長会や部会での PR は実施している。さらに、HP での教材や情報の提供を考えている。

谷口委員

保護者だけではなく、その他の市民も含めた啓発活動とすると、実施イメージが漠然となるのではないかと心配である。

普及のための仕組みは、校長会や部会での PR などではなく、富山市のマスタープランなどの大きな枠組みのなかにモビリティ・マネジメント教育を位置付けることだと認識している。他市ではどのように仕組みづくりを行っているのか。

高山委員長

金沢市の場合、条例にモビリティ・マネジメント教育の実施を位置付けてはいない。全小学校で自転車安全教室が実施されていることに着目し、それとセットでモビリティ・マネジメント教育を実施することにより、継続的な実施に繋がる仕組みができている。

谷口委員

学習プログラムが完成しても、それを普及させることは難しい。

高山委員長

本格実施後、3～6年生の各学年でステップを踏んで小学校に取り組んでいただくイメージなのか。

事務局（東福）

3～6年生の各学年でモビリティ・マネジメント教育を実施していけるようにバックアップし

ていきたい。

高山委員長

理想は高くても良いが、果たして各小学校がステップを踏んでやりきれぬのか疑問である。また、そのための仕組みづくりが重要である。

柳内委員

平成 25 年度に実施する 5 年生社会科の学習プログラムは、どの小学校で実施するのか。6 年生社会科の学習プログラムは、富山市内のどの小学校でも実施できるものになると考えている。3・4 年生社会科の場合、副読本に掲載することで普及啓発が期待できる。

寺本委員

MM 教育版カレンダーを製作しても、取り組む利点や義務がなければ取り組んでいただけない可能性がある。利点がないと、教員がモビリティ・マネジメント教育に不得手のため、取り組みたがらない。利点として、出前授業や乗車体験、車両基地の見学の他に、ESD のような認定校制度が考えられる。モビリティ・マネジメント教育に年間〇時間以上取り組んだ小学校を認定する仕組みをつくってはどうか。認定されることで、小学校側は自慢になる。

高山委員長

日本モビリティ・マネジメント会議や交通エコロジー・モビリティ財団のなかで認定校制度をつくることは良い。

柳内委員

札幌市の場合、教育委員会の指導の手引きにモビリティ・マネジメント教育を掲載することを目指している。市の教育委員会の手引きに掲載されていれば、教員はモビリティ・マネジメント教育を実施しなけなければならない。

高山委員長

今後、普及のための仕組みづくりについて検討を行う必要がある。

(3) 事業の収支【報告事項】

事務局（東福）

（資料説明：「平成 24 年度 第 2 回富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会 資料」5～7 頁）

岡田委員

（監査報告）

全員

承認

(4) 学習プログラム確立に向けた考え方【協議事項】

事務局（東福）

（資料説明：「平成 24 年度 第 2 回富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会 資料」8
~9 頁）

高山委員長

小学校の場合、社会科と総合的な学習の時間は同一教員が担当しているのか。

岡田委員

社会科と総合的な学習の時間は、同一教員が担当している。

寺本委員

総合的な学習の時間の場合、学年で数人の教員が協力して担当することもある。

高山委員長

どんな先生でも実施できる学習プログラムである必要がある。学習プログラムの教材一式とは、模範例を提供するという認識で良いのか。

寺本委員

学習プログラムの教材一式は、指導案やワークシートなどの模範例である。

谷口委員

学習プログラムの教材一式は、HP からダウンロードして使えると良い。また、同じ HP 上に児童の調べ学習用のサイトのリンク集をつくると良い。

事務局（東福）

教育委員会の HP から学習プログラムの教材一式をダウンロードできるようにする予定である。今後、教育委員会と連携して実現していきたい。

谷口委員

ポータルサイトを製作する場合、ポータルサイトの存在を周知する必要がある。

高山委員長

HP からダウンロードできるデータが PDF だと、教員がダウンロード後に修正できない。修正できるように、パワーポイントやワードのデータで提供してほしい。

学習プログラムの教材一式ができあがっているのは、どの学習プログラムなのか。

事務局（東福）

現時点で学習プログラムの教材一式ができているのは、4 年生総合的な学習の時間における学習プログラムだけである。

(5) 学習プログラムの企画・実施

事務局（東福）

（資料説明：「平成24年度 第2回富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会 資料」10～18頁）

高山委員長

乗車体験は費用がかかる。本格実施の際、学習プログラムに乗車体験も入れるのか。

事務局（東福）

希望する全ての小学校での乗車体験の費用を負担することは難しい。今後、予算の範囲内で乗車体験を実施していきたい。

高山委員長

希望する全ての小学校に乗車体験を提供することが難しいのであれば、乗車体験を疑似体験できるDVDを用意する必要がある。

谷口委員

秦野市や札幌市で実施されているが、乗車体験の実施やDVDを用意しなくても、1回目と2回目の授業の間の週末を利用して各自で乗車してくるよう児童に提案しても良い。乗車体験は費用負担の他に人手も必要とするため、実施するのはハードルが高い。ただし、その際は、乗車体験をしていない児童もついていける学習プログラムにしなければならない。

4年生総合的な学習の時間における児童用パンフレットは、学習内容が全て記載してあるため、調べ学習にならないのではないかと。高齢者や家族に話を聞くという調べ活動があっても良い。

副読本への掲載については事務局案に賛成である。現在の副読本に掲載されている地図は、クルマ社会を前提とした道路地図である。富山市の道路地図にバスやポートラムなどの公共交通を強調した路線図を掲載してほしい。

高山委員長

4年生総合的な学習の時間における児童への意識変化アンケート結果は、学習ステップ3の「とても思う・思う」の割合が高い。

事務局（東福）

4年生総合的な学習の時間の授業は、福祉面を強調した授業であり、公共交通の社会に対する役割が理解しやすい授業であった。

(6) 教員への普及啓発、保護者を含めた市民への啓発活動

事務局（東福）

（資料説明：「平成24年度 第2回富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会 資料」19～22頁）

高山委員長

まずは、教員のみなさまに知っていただくことが必要である。対象となる教員数はどれくらいなのか。

戸田委員

富山市の社会科部会に属している教員は75人である。

高山委員長

教員は、モビリティ・マネジメント教育について認知しているのか。まずは、教員に認知していただくことが必要である。

柳内委員

富山市の教育委員会や校長会が動かない限り、モビリティ・マネジメント教育を普及させることは難しい。

戸田委員

副読本へ掲載し、モビリティ・マネジメント教育を1つの単元として実施すると、既存の学習内容を実施できなくなる。副読本に掲載されている内容を見て、教員はモビリティ・マネジメント教育の目的や何に位置付けられているのかを気にする。社会科部会としては、授業で扱わない部分について補完する形で副読本に掲載することについては可能だという結論を出している。既存の学習内容があるなかで、モビリティ・マネジメント教育も実施する教員の負担を軽減させるものとして、学習プログラムの教材一式があるのだと理解している。しかし、それでも教員のほとんどは、モビリティ・マネジメント教育をどこでどのように扱えば良いのかわからないだろう。

高山委員長

既存の学習内容とモビリティ・マネジメント教育を融合させることはできないのか。

戸田委員

そこまでの検討は部会では行われていない。融合させるのであれば、年間指導計画に位置付けなければならない。新たな学習内容を入れることにより、学習のねらいが複数出てきて、ねらいを明確にした単元構成ができない。

高山委員長

金沢市でも同様の協議が行われた。金沢市の場合、全小学校3年生で導入版の実施を行うことになっている。

戸田委員

富山市は市域が広く、海に近い小学校や山のなかの小学校など65校の立地条件は大きく異なる。市内全域で見るとポータラムに乘車した経験がある児童のいる小学校にはばらつきがあり、クルマ社会である。このような実態のなかで、モビリティ・マネジメント教育に取り組むことは難しい。

寺本委員

資料「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」に3つの課題認識が挙げられている。市民が3つの課題認識を持てれば、モビリティ・マネジメント教育に対して意義を感じることができる。将来の納税者として、現在の課題認識を持つことは大切だが、未来のことを考えた課題認識を持つことも必要である。モビリティ・マネジメント教育は、児童が大人になった時の資質を形成することができる。例えば、公共交通に乗って、公共交通がまちの活性化に繋がることを知り、高齢者や妊婦にインタビューすることによって利用者の気持ちを知る。クルマ社会のなかに児童がいることをつきつけ、児童の生活に公共交通が関係ないことを話したうえで、公共交通がなくなっても良いのかを児童に尋ねる。児童は、公共交通がなくなることを想像もしていないだろう。そうすると、なくなると困る、なくなるとなぜ困るのかという意見が出始める。授業のなかで児童の考えに展開が起こる。このような視点づくりができれば、質の高い富山市民を育てていける。質の高い富山市民を育てていくという点を説明することによって、教育界を説得することができる。とくに、課題認識の「割高な都市管理の行政コスト」について、市民が解決に向けて協力をしないことはおかしい。協力できる市民を育てていく必要がある。

高山委員長

保護者を含めた市民への啓発活動は難しい。モビリティ・マネジメント教育に市民を巻き込むことは難しい問題だが、小学校で授業を行うことで少しずつ広がっていけば、市民も興味を持ち始めるのではないかと。

4. その他

寺本委員

教員向けのワークショップの開催イメージがあれば教えてほしい。

事務局（東福）

専門家である先生の講演や先進地の教員によるモビリティ・マネジメント教育の実施事例を発表していただくことを考えている。

柳内委員

教員は出張扱いにしなければワークショップに参加しない。そのため、土日の開催は難しい。富山市役所内で調整してほしい。

5. 閉会

以上

(2) 第 3 回協議会
協議会資料

平成 2 4 年度
第 3 回富山市モビリティ・マネジメント
教育推進協議会
資 料

平成 2 5 年 2 月 1 9 日
富山市都市整備部交通政策課

目 次

1 . モビリティ・マネジメント教育推進事業の目的	1
2 . 事業内容と検討スケジュール	1
3 . 教員への普及啓発	5
4 . 保護者を含めた市民への啓発活動	7
5 . 4年間の学習ステップ	8
6 . 学習プログラムの企画・実施	9
7 . 今後のスケジュール	24

1. モビリティ・マネジメント教育推進事業の目的

公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを推進するうえで、市民ひとりひとりが、環境や社会について意識を向け、自発的にクルマと公共交通のかしこい利用を考えた交通行動をとることができるよう、小学生という早い段階から公共交通利用について意識醸成を図ることを目的に、小学校で実施可能な富山版モビリティ・マネジメント教育学習プログラム（以下、学習プログラム）を確立・実施を目指す。あわせて保護者を含めた市民に対して啓発活動を展開する一連のモビリティ・マネジメントにも取り組むことで、公共交通の利用促進につなげる。

平成 23 年度から 3 ヶ年は、交通エコロジー・モビリティ財団の支援を受け検討を行い、平成 26 年度からの事業の本格実施を目指す。

2. 事業内容と検討スケジュール

(1) 検討部会の設置

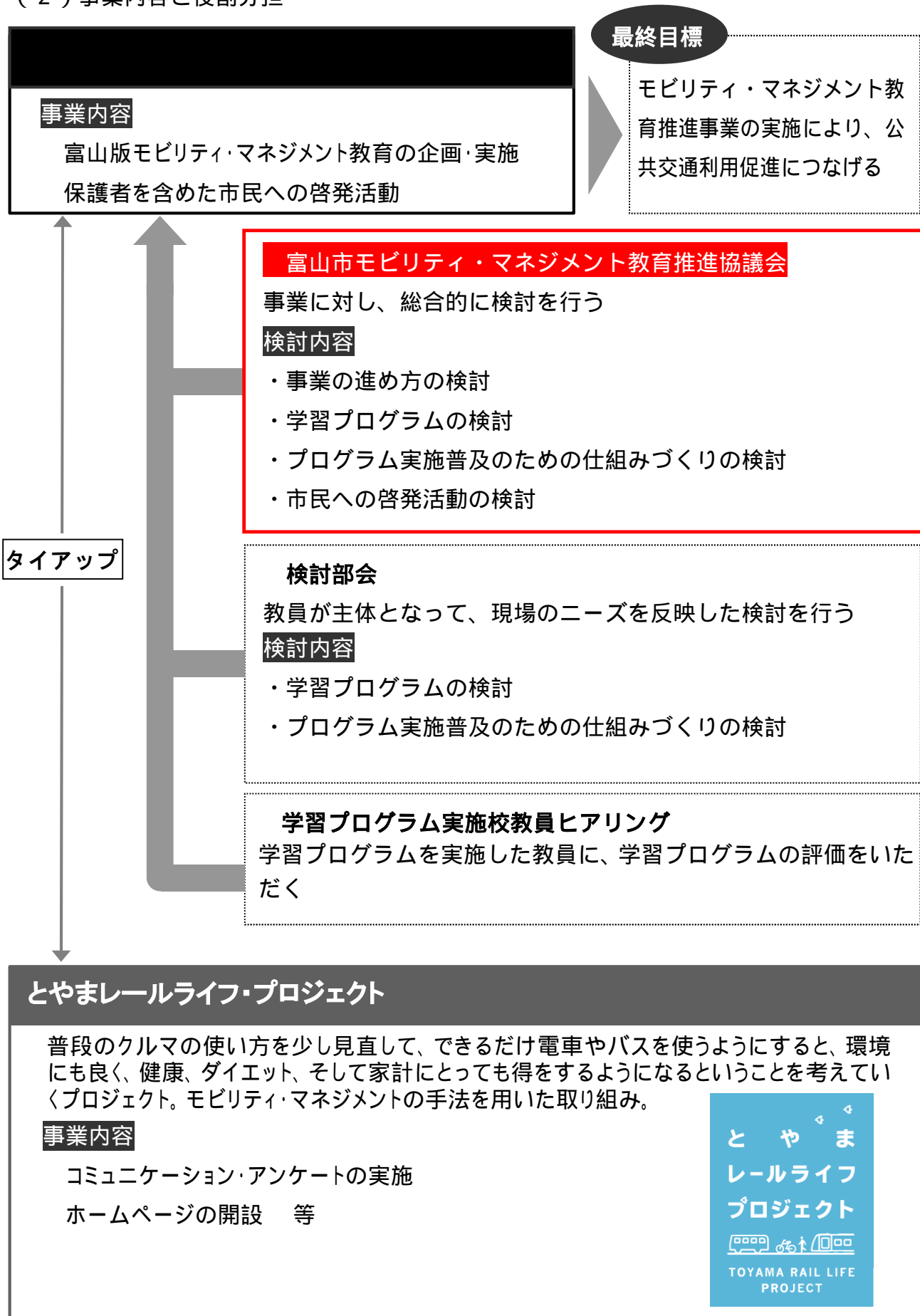
現場のニーズに合った学習プログラムの内容等の検討を目的に、日頃から熱心に小教研活動（社会科部会、総合部会）に取り組んでいる教員の方々から構成される検討部会を平成 23 年度に設置した。

表 検討部会メンバー

小教研	小学校	氏名	担当学年
座長	五福小学校	柳内 誠治	校長
社会科部会	保内小学校	劔田 秀則	3 年
	速星小学校	津幡 和英	4 年
	五福小学校	藤嶋 広樹	6 年
総合部会	呉羽小学校	堀 泰洋	5 年
	東部小学校	渡辺 純恵	-



(2) 事業内容と役割分担



(3) 3カ年の検討内容とステップのイメージ

富山版モビリティ・マネジメント教育を確立し、教員や保護者を含めた市民への普及を目指すため、本事業の検討項目を大きく3つに設定する。

検討項目 1：富山版モビリティ・マネジメント教育学習プログラムの企画・実施

検討項目 2：富山版モビリティ・マネジメント教育学習プログラムの教員への普及啓発

検討項目 3：富山版モビリティ・マネジメントの保護者を含めた市民への啓発活動

それぞれの検討項目について、以下のように3カ年進める。

	平成 23 年度 導入年	平成 24 年度 ブラッシュアップ年	平成 25 年度 確立年
検討項目 1 学習プログラムの 企画・実施	<ul style="list-style-type: none"> ■ 検討 ■ 実施(2プログラム) <ul style="list-style-type: none"> ・ 3年生社会科 ・ 4年生社会科 ■ 実施成果とりまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 検討 ■ 実施(4プログラム) <ul style="list-style-type: none"> ・ 4年生総合 ・ 3年生社会科 ・ 4年生社会科 ・ 6年生社会科 ■ 実施成果とりまとめ ■ 副読本掲載に向けた 検討 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 検討・確立 ■ 実施(6プログラム) <ul style="list-style-type: none"> ・ 3年生社会科 ・ 4年生社会科 ・ 5年生社会科 ・ 6年生社会科 ・ 4年生総合 ・ 5年生総合 ■ 実施成果とりまとめ ■ 教材完成 ■ 副読本掲載に向けた 検討 ■ MM教育版カレンダー の作成
検討項目 2 教員への普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ■ 普及のための仕組み づくりの検討 ■ 公開授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 4年生社会科 (五福小学校) ■ 教員の先進地視察 <ul style="list-style-type: none"> ・ 札幌市 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 普及のための仕組み づくりの検討 ■ 普及啓発活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合的な学習の時間 部会でのPR ・ 社会科部会でのPR ■ 教員の先進地視察 <ul style="list-style-type: none"> ・ 金沢市 ・ 京都府 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 普及のための仕組み づくりを検討・確立 ■ 普及啓発活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合的な学習の時間 部会でのPR ・ 社会科部会でのPR ・ ワークショップの開催 ■ 教員の先進地視 <ul style="list-style-type: none"> ・ 仙台市(予定)
検討項目 3 保護者を含めた 市民への啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> ■ とやまレールライフ・ プロジェクトフォーラ ムとの連携 	<ul style="list-style-type: none"> ■ JCOMMとの連携 	<ul style="list-style-type: none"> ■ とやまレールライフ・ プロジェクトとの連携
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■ 関係機関との調整 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 関係機関との調整 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 関係機関との調整 ■ 支援制度終了後の 実施計画の策定

(4) 平成24年度の取り組み

学習プログラムの教員への普及啓発(5月7日)

総合的な学習の時間の部会にて事業の説明とワークショップの開催

学習プログラムの企画・実施(5月29・30日)

「くしとだんごのまちづくり」(3年生社会科)を五福小学校で実施

第1回検討部会(5月29日)

学習プログラム「くしとだんごのまちづくり」の評価

4年生総合的な学習の時間の学習プログラムの検討

社会科副読本掲載に向けての検討

保護者を含めた市民への普及啓発(8月3~5日)

第7回日本モビリティ・マネジメント会議での発表

学習プログラムの教員への普及啓発(8月6日)

社会科副読本編集委員会にて事業の説明と連携依頼

学習プログラムの企画・実施(10月10・11日)

「『おでかけ定期券』って何だろう?」(4年生総合)を東部小学校で実施

第2回検討部会(10月11日)

学習プログラム「『おでかけ定期券』って何だろう?」の評価

3・6年生社会科の学習プログラムの検討

社会科副読本掲載に向けての検討

第2回協議会(11月5日)

学習プログラム確立に向けた考え方について検討

学習プログラムの内容について検討

教員への普及啓発について検討

学習プログラムの教員への普及啓発(11月12日) 社会科部会にて事業の説明

学習プログラムの教員への普及啓発(11月16日) 校長会にて事業の説明

学習プログラムの企画・実施(12月3日)

「富山の新しいまちづくり~まちを元気にするライトレール~」(6年生社会科)を五福小学校で実施

第3回検討部会(12月3日)

学習プログラム「富山の新しいまちづくり~まちを元気にするライトレール~」の評価

4年生社会科の学習プログラムの検討

社会科副読本掲載に向けての検討

学習プログラムの企画・実施(1月16日)

「富山県の交通の様子」(4年生社会科)を速星小学校で実施

第4回検討部会(1月16日)

学習プログラム「富山県の交通の様子」の評価

3年生社会科の学習プログラムの検討

来年度の進め方について検討

第3回協議会(本日)

学習プログラムの内容について検討

教員への普及啓発について検討

市民への啓発活動について検討

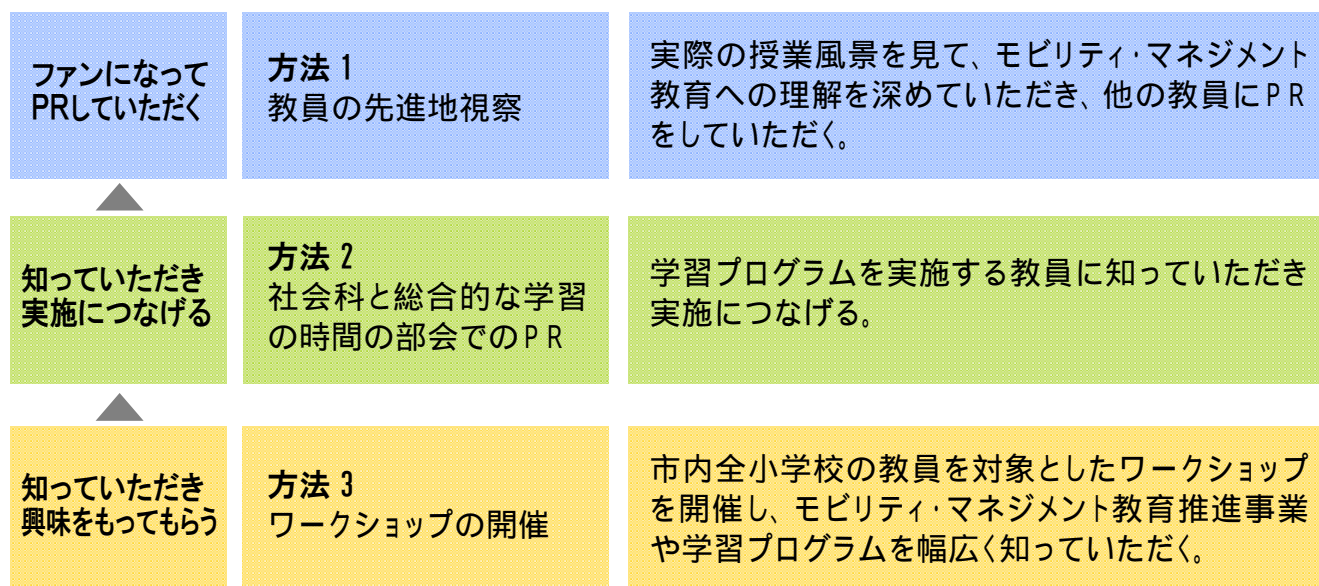
来年度以降のスケジュールについて検討

3 . 教員への普及啓発

(1) 普及啓発の方法

富山版モビリティ・マネジメント教育学習プログラムを市内全域で継続的に実施するために、さまざまな方法で教員に事業をPRする。

来年度以降は、以下の3つの方法で普及啓発に取り組むことを目指す。



普及啓発の3つの方法

(2) 教員の先進地視察

平成24年度は、以下2地域への先進地視察を実施した。平成25年度は1地域への先進地視察を実施する(仙台市を予定)。

- ・金沢市立小立野小学校における金沢版交通環境学習
- ・福知山市立成仁小学校における交通環境学習

(3) 社会科と総合的な学習の時間の部会でのPR

平成24年度に引き続き、平成25年度も各部会において富山版モビリティ・マネジメント教育に関するPRを実施する。

(4) ワークショップの開催

公開授業の開催に合わせたワークショップの開催

平成 24 年度は、公開授業の開催に合わせてワークショップを開催した(計 4 回)。ワークショップには、検討部会のメンバーである教員に加え、公開授業が実施された学年と同じ学年を受け持つ社会科部会の教員数名が参加した。

平成 25 年度についても、公開授業の開催に合わせたワークショップを開催する。



平成 24 年 12 月 3 日(月) 五福小学校



平成 25 年 1 月 16 日(水) 速星小学校

市内全小学校教員を対象としたワークショップの開催 【協議事項】

平成 25 年度は、富山市内における全小学校を対象としたワークショップを開催する。開催内容(案)として、学識経験者や先進的にモビリティ・マネジメント教育に取り組んでいる地域の小学校教員を招いて講演を聞き、参加教員を交えた意見交換会を行うことが考えられる。

(5) その他

富山市教育委員会との連携 【協議事項】

「富山市学校教育指導方針」に富山版モビリティ・マネジメント教育に関する情報を掲載することを目指し、教育委員会との協議を進める。

校長会での P R 【協議事項】

平成 24 年度に引き続き、平成 25 年度は 5 月と 11 月の校長会での P R を実施する。

カレンダーの作成 【協議事項】

現場の教員が富山版モビリティ・マネジメント教育に取り組みやすくするため、平成 25 年度中に E S D カレンダーのモビリティ・マネジメント版のカレンダー(社会科、総合的な学習の時間との関連付けを示した資料)を作成する。

4 . 保護者を含めた市民への啓発活動

(1) とやまレールライフ・プロジェクトとの連携 【協議事項】

来年度 2 月頃に開催予定である「とやまレールライフフォーラム」と連携し、富山版モビリティ・マネジメント教育のPRを実施する。

(2) グランドプラザとの連携 【協議事項】

来年度 8 月頃に、グランドプラザと連携して子どもと保護者を対象としたモビリティ・マネジメント教育に関するイベントを開催する。今後の継続的な開催に向けて、グランドプラザが実施しているイベントとタイアップできる可能性について関係機関と協議を進める。

【参考】グランドプラザイベント例



チャックパーク



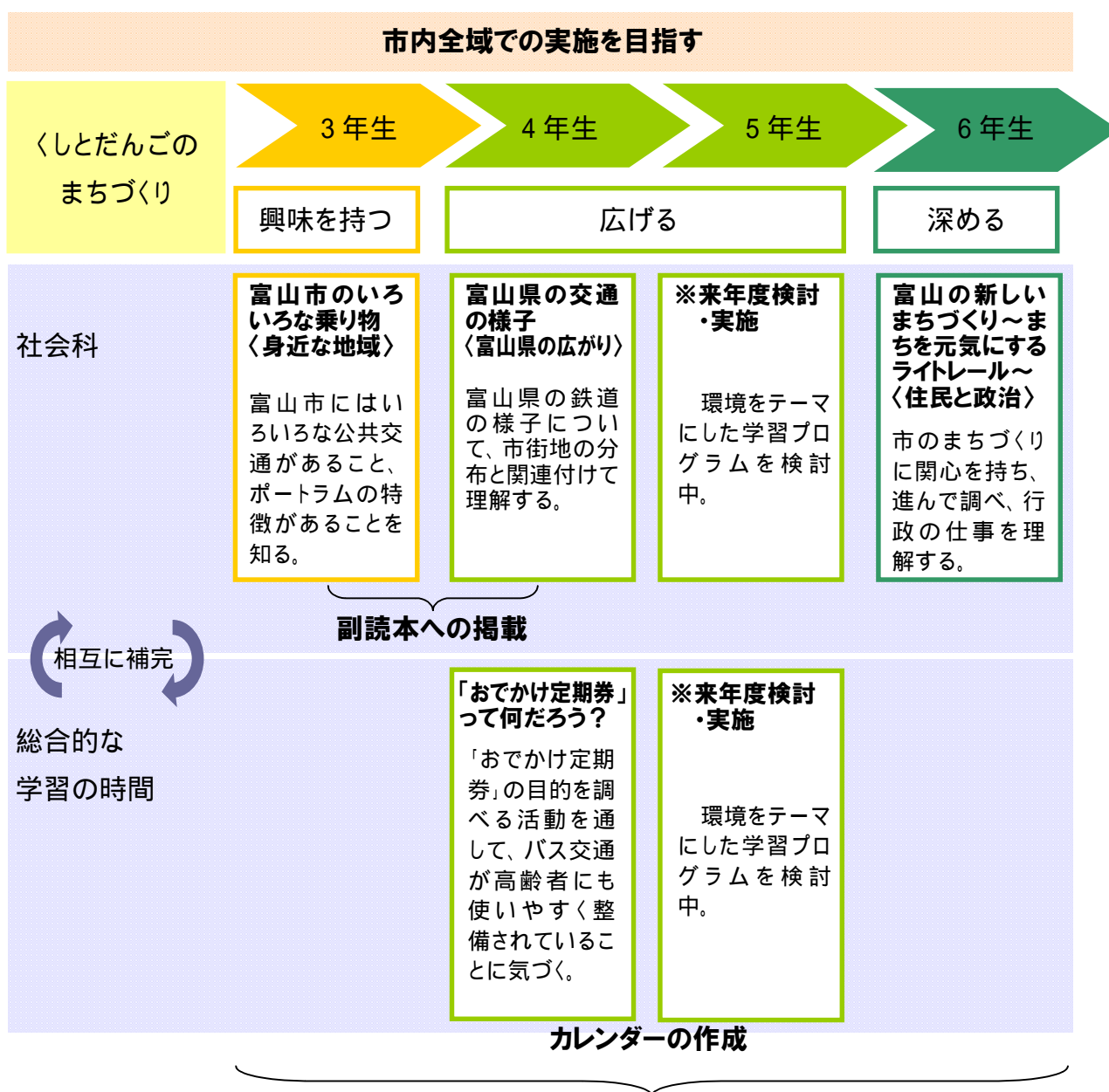
街なかお絵かきプロジェクト

5. 4年間の学習ステップ

モビリティ・マネジメント教育推進事業は、「くしとだんごのまちづくり」の理解を通じた公共交通の利用促進を最終目標としている。

社会科では4つ、総合的な学習の時間では2つの学習プログラムを作成し、3～6年生の4学年においてステップを踏みながら市内全域での実施を目指す。

3・4年生社会科の副読本『わたしたちの富山市』への掲載を目指す。また、ESDカレンダーのモビリティ・マネジメント教育版カレンダーの作成を目指す。



6 . 学習プログラムの企画・実施

(1) 社会科 3年生の学習プログラム

実施結果 前回協議会で報告済み

) 実施概要

実 施 日：平成 24 年 5 月 29 日（火）、30 日（水）3 時間程度

実 施 場 所：五福小学校

実 施 者：教員

対象校・学年：五福小学校 3 年生 2 クラス

学習プログラム：くしとおだんごのまちづくり

) 改善案

学習プログラム：富山市のいろいろな乗り物

学習のねらい：富山市にはいろいろな公共交通があることやポータラムの特徴を知り、公共交通に興味を持つ。

教 科 単 元：社会科 身近な地域

時 間 数：1 時限

授 業 概 要：公共交通と土地利用が結びついていて、富山市にはさまざまな公共交通があることや富山市を代表するポータラムの特徴について知ることにより、自分たちの住む地域や公共交通への愛着が深まることが期待される。

授業の展開例：

	学習活動	指導上の留意点
15分	<p>1. 公共交通と土地利用が結びついていることをおさえる 指示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童用パンフレットの地図と写真を見てみましょう。 <p>発問 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 富山市のようすが分かる地図を見て乗り物はどこを走っていますか？ 市の真ん中や外側、山手や海側などの言葉を使って説明して下さい。 <p>発問 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 富山市にはどんな種類の乗り物が走っていますか。 <p>発問 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なんでこんなにたくさんの種類の乗り物があるのでしょうか。(いつこれらの乗り物を使いますか。) 土地利用と路線図の両方を示した地図が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通は、店や会社の多いところ、住宅の多いところに走っていることや海側や山側にも走っていることに気づくように促す。 ・ 店や会社の多いところ（中心部）にはセントラムやバス、その周辺の住宅の多いところ（郊外 1）には路面電車やバスが走っており、その周辺の田の多いところ（郊外 2）ではバスだけしか走っていないところもあることに気付くように促す。 ・ 中心部に近い程、乗り物に乗ったり降りたりする人が多くなることを児童に伝える。 ・ 乗り降りする人の多さによって、乗り物の大きさを変えていること、遠くに行くため、クルマを運転できない人（高齢者、高校生、子ども、免許を持っていない人など）も行きたい場所に行けるように公共交通が整備されていることをおさえる。
5分	<p>2. くしとだんごのまちづくりについて知る（児童用パンフレットで説明）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 店や会社の多いところや、住宅の多いところを誰でも使える公共交通でつなぎ、車が無くても移動できるまちを目指していることを児童に伝える。
15分	<p>3. ポートラムの特徴を知り興味をもつ 発問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ポートラムについてどのようなことがわかりましたか？（児童用パンフレットで説明後） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童用パンフレット最後のクイズにも回答させる。 ・ ポートラムの乗車する機会に、説明内容を確認するように促してもよい。
10分	<p>4. 富山市のいろいろな乗り物についての感想をノートにまとめる</p>	

今後のスケジュール

- ・ 五福小学校で教員による公開授業を実施。（平成 25 年 5 月実施予定）
- ・ その他、複数の市内小学校で教員による授業を実施予定。（実施時期は未定）

(2) **社会科** 4年生の学習プログラム

実施結果

) 実施概要

実施日：平成25年1月16日(水)1時限

実施場所：速星小学校

実施者：教員

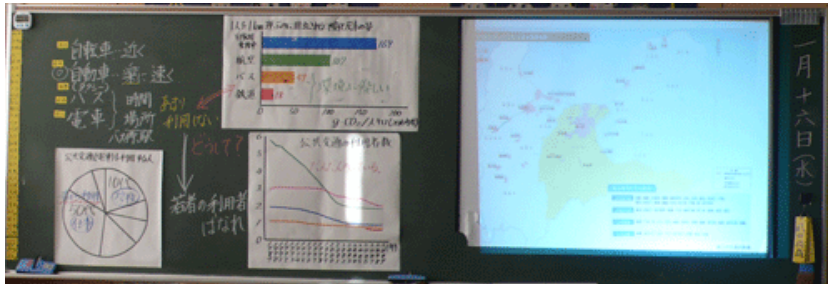
対象校・学年：速星小学校4年生1クラス

学習プログラム：富山県の交通の様子

) 学習プログラム内容

プログラム名	「富山県の交通の様子」
学習のねらい	・ 鉄道の大切さについて考えるとともに、富山県の鉄道の様子について、市街地の分布と関連付けて理解する。
時限数	・ 1時限
学習内容	学習課題 富山県の鉄道はどのように広がっているのだろう。 ・ 乗り物による二酸化炭素排出量の違いや公共交通のひとつである鉄道利用者の年代を知り、公共交通の大切さや問題点について考える。 ・ 高山本線の路線図と市街地を関連付けて考える。 ・ 富山県の鉄道の様子と市街地を関連付けて考える。 (鉄道駅の位置や停車する駅の順番、市街地の場所の情報をもとに、児童用パンフレットに鉄道の運行しているルートを書き入れる作業を実施。) ・ 学習の振り返りを行う。

) 授業風景



) 児童用パンフレット

と やま ろん こ う つ う よ う き

富山県の交通の様子

交通とは？
「人」や「もの」を運ぶための大切な働きです。

公共交通とは？
交通のうち、「電車」や「バス」など、**だれでも利用できる乗り物**のことをいいます。

環境に優しい公共交通（バスや電車）
1人を1km運ぶのに排出される二酸化炭素の量

交通手段	eCO2 1人1kmあたり(2010年基準)
自動車	169
航空	102
バス	49
鉄道	18

公共交通（電車）を利用する人

JR高山本線を利用する人(平日)

年代	割合
70歳以上	5%
60代	13%
50代	27%
40代	15%
30代	11%
20代	9%
10代	20%

公共交通の利用者数

JR高山本線（電車）と市街地（住宅の多いところ）

富山県内の市街地（住宅の多いところ）と主な電車の駅

電車の線路が走っている場所を予想して、路線を書き入れてみよう！

富山県内の主な鉄道

- JR北陸本線** 石川—福井—西高岡—富岡—越中大門—小杉—岡谷—富山—東富山—水橋—津川—東津川—魚津—黒部—生地—西入善—入善—泊—越中富岡
- JR高山本線** 富山—西富山—輪中橋坂—連里—千早—越中八尾—東八尾—菅津—福野—湊谷
- JR越前線** 高岡—二塚—戸出—油田—砺波—東砺波—高徳—福野—東石黒—福光—越中山田—城端
- JR水尾線** 高岡—越中中川—能町—伏木—越中国分—雨晴—島尾—水尾

外面

富山県内の市街地（住宅の多いところ）と主な電車の駅

電車の線路が走っている場所を予想して、路線を書き入れてみよう！

富山県内の主な鉄道

- JR北陸本線** 石川—福井—西高岡—富岡—越中大門—小杉—岡谷—富山—東富山—水橋—津川—東津川—魚津—黒部—生地—西入善—入善—泊—越中富岡
- JR高山本線** 富山—西富山—輪中橋坂—連里—千早—越中八尾—東八尾—菅津—福野—湊谷
- JR越前線** 高岡—二塚—戸出—油田—砺波—東砺波—高徳—福野—東石黒—福光—越中山田—城端
- JR水尾線** 高岡—越中中川—能町—伏木—越中国分—雨晴—島尾—水尾

富山市交通政策課

中面
12

）新聞掲載記事

1月17日(木) 北日本新聞



公共交通の役割に理解
速星小で環境学習

富山市の交通環境学習が16日、同市速星小学校（堀雅恵校長）で開かれ、4年生30人が公共交通機関の役割や二酸化炭素排出量など環境保全について理解を深めた。


自家用車と公共交通を適切に利用できる大人になつてもらうと市内の小学校で開いており4回目。社会科の時間を使って電車の役割を考えた。

子どもたちは、自家用車に比べて電車やバスを使わない理由について「運行する時間が決まっているから」「好きな時に好きな場所に行けない」などと発表。担任の教諭が1人を1キルギ運ぶ際に出る二酸化炭素量を示し、電車の排出量が少ないことを紹介すると「電車は環境に良い」など意見が出た。

県の地図に電車の路線を書き込む実習も実施。子どもたちはペンを走らせながら、県内の各地に駅があり利便性が良いことなどを学んだ。

電車の役割や環境保全について学ぶ子どもたち

1月17日(木)富山新聞



鉄道の役割学ぶ
富山・速星小

富山市の交通環境学習は16日、同市速星小で行われ、4年生30人が県内の鉄道について学び、公共交通の大切さに理解を深めた。

児童は担任とともに、さまざまな乗り物の二酸化炭素の排出量を比較。鉄道が環境に優しい乗り物であることや、県内の主要な駅を線で結びながら、住民の生活を支えていることを学んだ。

社会科の授業の一環として行われ、この日の内容をもとに、同校では県内の市街地についての学習を進める。

意見を発表する児童
— 富山市速星小

評価

）児童への意識変化アンケート結果

学習プログラム実施後、全児童に対してアンケートを実施した。以下の全学習ステップにおいて、7割以上の児童が「とても好きになった・とても思う」、「好きになった・思う」と回答しており、学習効果が見られる。

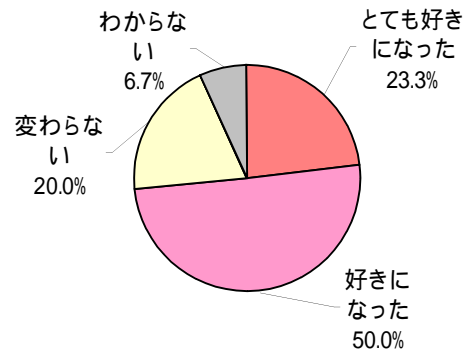
学習ステップ1: 公共交通を好きになる

問: 授業を受けて、バス、電車、ポートラムやセントラムを好きになりましたか？

N= 30

項目	件数	割合
とても好きになった	7	23.3%
好きになった	15	50.0%
変わらない	6	20.0%
きれいになった	0	0.0%
すごくきれいになった	0	0.0%
わからない	2	6.7%
無回答	0	0.0%
合計	30	100.0%

73.3%



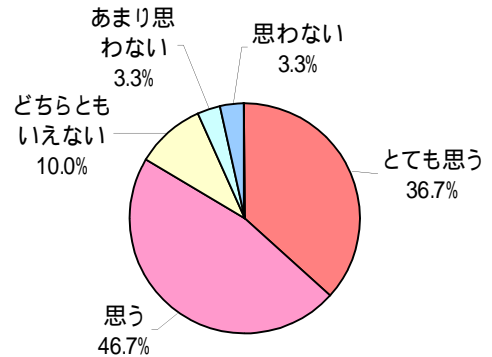
学習ステップ2: 公共交通を利用したいと思う

問: 授業を受けて、バス、電車、ポートラムやセントラムに乗りたいと思いましたか？

N= 30

項目	件数	割合
とても思う	11	36.7%
思う	14	46.7%
どちらともいえない	3	10.0%
あまり思わない	1	3.3%
思わない	1	3.3%
わからない	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	30	100.0%

83.4%



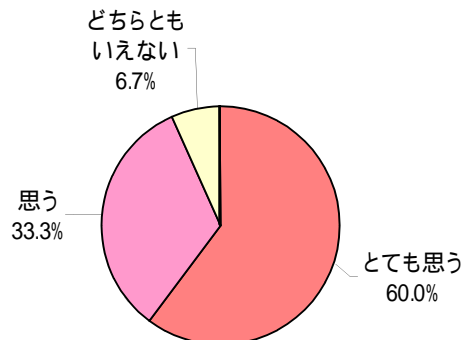
学習ステップ3: 環境や社会のことを考え、公共交通の大切さを理解する

問: 授業を受けて、あなたの住むまちのバス、電車、ポートラムやセントラムは、大切だと思いましたか？

N= 30

項目	件数	割合
とても思う	18	60.0%
思う	10	33.3%
どちらともいえない	2	6.7%
あまり思わない	0	0.0%
思わない	0	0.0%
わからない	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	30	100.0%

93.3%



）検討部会でのご意見と改善案 【協議事項】

検討部会でのご意見

- ・4年生社会科で公共交通を扱うことは、十分可能である。
- ・富山版モビリティ・マネジメント教育の学習内容は、一市民であり、これから大人になっていく児童に学習して欲しい内容である。
- ・「1人を1km運ぶのに排出される二酸化炭素の量」のグラフに対する児童の反応が良かった。
 - ・公共交通の良さを環境に良いという点だけで主張すると、電気自動車の方が良いと考える児童が出てくる。環境面だけではなく、誰でも利用できるという面も主張することが重要である。
- ・授業前半の富山版モビリティ・マネジメント教育の部分と授業後半の社会科の部分は、学習のねらいが明らかに違う。この2つを融合させる場合、社会科を中心に考えることになる。社会科のなかに、どのようにして富山版モビリティ・マネジメント教育の要素を入れ込むかを考えることが必要である。児童は公共交通をあまり使っていないという実態がある。児童用パンフレットの白地図を使って、富山県の鉄道の広がりを学習したうえで、児童が普段から鉄道を利用していない実態を確認する。そのうえで、公共交通の役割を確認すれば、社会科に富山版モビリティ・マネジメント教育の要素を入れ込むことができる。
- ・授業を行う教員の負担を考えると、授業時間は1時限のままとしたい。

改善案

- ・時限数は1時限のままとする。
- ・現在は、前半が富山版モビリティ・マネジメント教育、後半が社会科の学習内容に重きを置いた授業展開となっている。今後、前半・後半ともに社会科の学習内容に重きをおき、要所で富山版モビリティ・マネジメント教育の学習内容を入れ込む授業展開への方向転換を検討する。

今後のスケジュール

- ・市内1校で教員による公開授業を実施。(平成25年12月実施予定、実施校は未定)

(3) 社会科 5年生の学習プログラム

- ・市内1校で教員による公開授業を実施。(実施時期、実施校は未定)

(4) 社会科 6年生の学習プログラム

実施結果

) 実施概要

実施日：平成24年11月29日(木)、30日(金)12月3日(月) 3時限

実施場所：五福小学校

実施者：教員

対象校・学年：五福小学校6年生1クラス

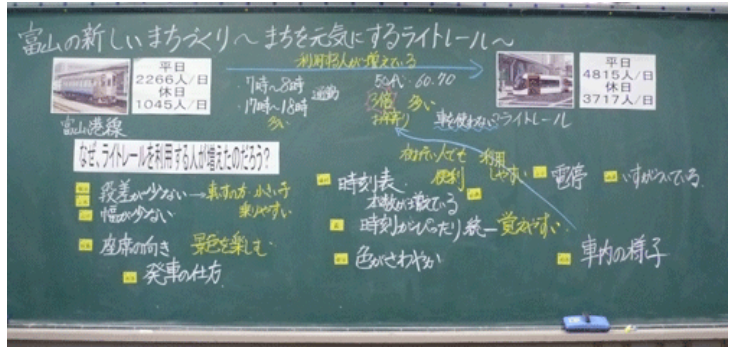
学習プログラム：富山市の新しいまちづくり～まちを元気にするライトレール～

) 学習プログラム内容

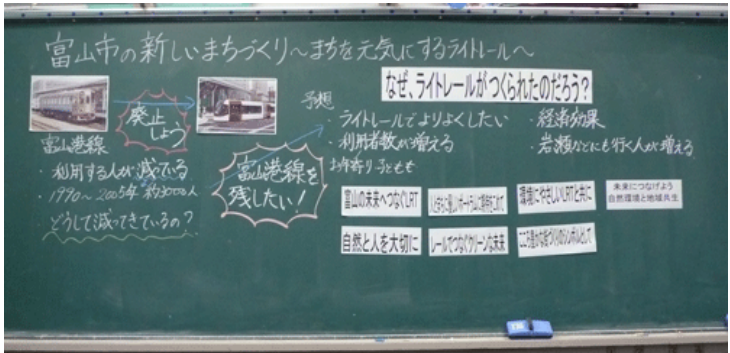
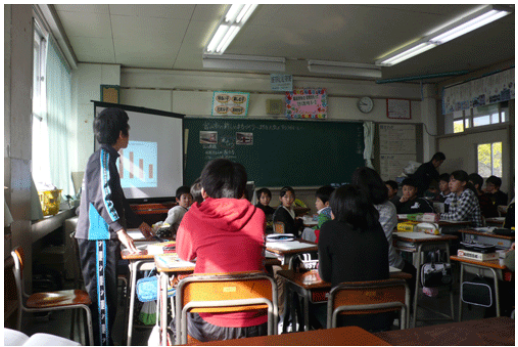
プログラム名	「富山市の新しいまちづくり～まちを元気にするライトレール～」
学習のねらい	・ライトレールと富山港線を比べ、ライトレールの良さに気付く。 ライトレールのつくられた理由や富山市の目指すまちづくりについて、自分なりの考えを持つ。
時限数	・3時限
学習内容	学習課題 なぜ、ライトレールを利用する人が増えたのだろう。 なぜ、ライトレールがつくられたのだろう。 1時間目 ・ライトレールについて知る。 ・ライトレールと富山港線の利用者数を比べ、利用者数が増えた予想を立てる。 ・ライトレールの利用者が増えた理由を調べる。 ・ライトレールについて分かったことをまとめる。 2時間目 ・富山港線の利用者数減少の資料を読み取る。 ・ライトレールがつくられた理由を予想する。 ・ライトレールがつくられた理由について資料を使って調べる。 ・ライトレールがつくられた理由について自分の考えをまとめる。 ○3時間目 ・調べてまとめたことをもとに、話し合う。 ・ライトレールがつくられた理由について、児童用パンフレットに掲載されている交通政策課 東福さんの話を読む。 ・ライトレールを使って、富山市がどんなまちづくりを目指しているのか、自分の考えをまとめる。

) 授業風景

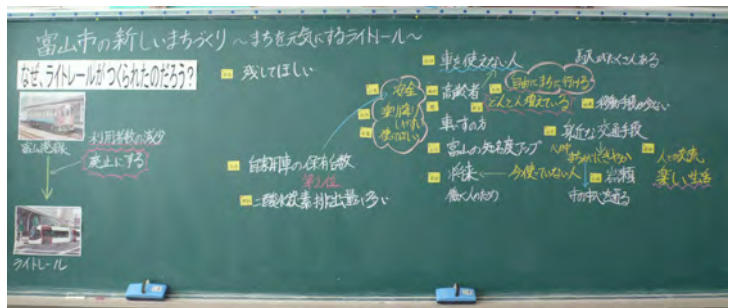
○ 1 時間目



○ 2 時間目



○ 3 時間目



) 児童用パンフレット

なぜ、ライトレールがつくれたのだろう？

世帯あたりの自家用車保有台数

1.72(台)
1世帯あたり

全国第2位
富山県

(自動車保有登録情報調査[平成23年3月末現在])

自家用車保有台数の増加

普通車 は1.4倍に増加(全国平均1.2倍)
軽自動車 は7.6倍に増加(全国平均6.4倍)

富山市の自動車保有台数の推移

	1990年	2010年
普通車	127,276台	174,954台
軽自動車	10,826台	82,570台

(出典:富山市統計課H23国土交通白書H22)

自由に車を使えない人 (出典:平成18年富山市の公共交通に關する調査報告)

自由に使える車がない: 29.5%
自由に使える車がある: 70.5%

自由に車が使えないのは、どんな人？

年代別

- 80才以上: 18.3%
- 70代: 31.1%
- 60代: 21.8%
- 50代: 8.5%
- 40代: 4.3%
- 30代: 2.5%
- 20代: 3.7%
- 10代: 9.8%

*「自由に使える車がない」とは、運転免許がない人や、自分の車をもっていない人を指します。

富山市の65才以上の人口の割合

1970 75 80 85 1990 95 2000 05 10(前)

(出典:東京書籍「新しい社会6下」)

1人を1km進歩のに排出される二酸化炭素の量

自家用乗用車	169
鉄道	102
バス	49
徒歩	18

g-CO2 / 人・km (2010年度) (出典:国土交通省HP)

富山市交通政策課

富山の新しいまちづくり

～まちを元気にするライトレール～

ライトレールは、地域に密着した安全・安心・快適で、環境にやさしい公共交通を自指して、平成18年4月29日に開業しました。

ライトレールが運行している場所

A3 外面

なぜ、ライトレールを利用する人が増えたのだろう？

ライトレールの利用者数(平成24年3月末)

平日 4,815人/日 (開業前2,266人/日)
休日 3,717人/日 (開業前1,045人/日)

時間帯別利用者数の変化(平日)

年代別利用者数の変化(平日)

富山港線とライトレールを比較してみよう

	JR(富山港線)	ライトレール
電停		
車両		

	JR(富山港線)	ライトレール																																																																																											
運賃	運賃箱、切符券売機	カードリーダー、バスの販売・積み直し機																																																																																											
車内の様子																																																																																													
乗降口																																																																																													
時刻表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>富山駅発</th> <th>平日</th> <th>(平成18年1月)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>6時</td><td>00 19</td><td>52</td></tr> <tr><td>7時</td><td></td><td>30</td></tr> <tr><td>8時</td><td>01</td><td>34</td></tr> <tr><td>9時</td><td></td><td>58</td></tr> <tr><td>10時</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11時</td><td>11</td><td></td></tr> <tr><td>12時</td><td></td><td>57</td></tr> <tr><td>13時</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14時</td><td>04</td><td></td></tr> <tr><td>15時</td><td>08</td><td></td></tr> <tr><td>16時</td><td>14</td><td>38</td></tr> <tr><td>17時</td><td>16</td><td>54</td></tr> <tr><td>18時</td><td></td><td>26</td></tr> <tr><td>19時</td><td>11</td><td></td></tr> <tr><td>20時</td><td>08</td><td></td></tr> <tr><td>21時</td><td></td><td>23</td></tr> </tbody> </table>	富山駅発	平日	(平成18年1月)	6時	00 19	52	7時		30	8時	01	34	9時		58	10時			11時	11		12時		57	13時			14時	04		15時	08		16時	14	38	17時	16	54	18時		26	19時	11		20時	08		21時		23	<table border="1"> <thead> <tr> <th>富山駅北発</th> <th>平日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>5時</td><td>57</td></tr> <tr><td>6時</td><td>35 53</td></tr> <tr><td>7時</td><td>14 24 35 45 55</td></tr> <tr><td>8時</td><td>05 15 25 35 45 57</td></tr> <tr><td>9時</td><td>06 14 30 45</td></tr> <tr><td>10時</td><td>00 15 30 45</td></tr> <tr><td>11時</td><td>00 15 30 45</td></tr> <tr><td>12時</td><td>00 15 30 45</td></tr> <tr><td>13時</td><td>00 15 30 45</td></tr> <tr><td>14時</td><td>00 15 30 45</td></tr> <tr><td>15時</td><td>00 15 30 45</td></tr> <tr><td>16時</td><td>00 15 30 45</td></tr> <tr><td>17時</td><td>00 15 30 45</td></tr> <tr><td>18時</td><td>00 15 30 45</td></tr> <tr><td>19時</td><td>00 15 30 45</td></tr> <tr><td>20時</td><td>00 15 45</td></tr> <tr><td>21時</td><td>15 45</td></tr> <tr><td>22時</td><td>15 45</td></tr> <tr><td>23時</td><td>15</td></tr> </tbody> </table>	富山駅北発	平日	5時	57	6時	35 53	7時	14 24 35 45 55	8時	05 15 25 35 45 57	9時	06 14 30 45	10時	00 15 30 45	11時	00 15 30 45	12時	00 15 30 45	13時	00 15 30 45	14時	00 15 30 45	15時	00 15 30 45	16時	00 15 30 45	17時	00 15 30 45	18時	00 15 30 45	19時	00 15 30 45	20時	00 15 45	21時	15 45	22時	15 45	23時	15
富山駅発	平日	(平成18年1月)																																																																																											
6時	00 19	52																																																																																											
7時		30																																																																																											
8時	01	34																																																																																											
9時		58																																																																																											
10時																																																																																													
11時	11																																																																																												
12時		57																																																																																											
13時																																																																																													
14時	04																																																																																												
15時	08																																																																																												
16時	14	38																																																																																											
17時	16	54																																																																																											
18時		26																																																																																											
19時	11																																																																																												
20時	08																																																																																												
21時		23																																																																																											
富山駅北発	平日																																																																																												
5時	57																																																																																												
6時	35 53																																																																																												
7時	14 24 35 45 55																																																																																												
8時	05 15 25 35 45 57																																																																																												
9時	06 14 30 45																																																																																												
10時	00 15 30 45																																																																																												
11時	00 15 30 45																																																																																												
12時	00 15 30 45																																																																																												
13時	00 15 30 45																																																																																												
14時	00 15 30 45																																																																																												
15時	00 15 30 45																																																																																												
16時	00 15 30 45																																																																																												
17時	00 15 30 45																																																																																												
18時	00 15 30 45																																																																																												
19時	00 15 30 45																																																																																												
20時	00 15 45																																																																																												
21時	15 45																																																																																												
22時	15 45																																																																																												
23時	15																																																																																												

(出典:「富山ライトレールの誕生」)
※×の列車は、途中止まりです。
※数字は乗客数です。(出典:富山ライトレールHP)

A3 中面

富山市の「くしとだんごのまちづくり」

富山市は住む所や買い物をする所がいろいろな場所にちらばっているため、車がないと移動するのが不便です。そこで富山市では、家や店などが集中する場所（**おだんご**）を公共交通（**くし**）でつなぐ「くしとだんごのまちづくり」に取り組んでいます。ちらばったまちを集中した場所（**おだんご**）に変えて、公共交通を使う人を増やし、公共交通（**くし**）を使いやすくすることで、車を使わなくても移動できるようにしたいと考えています。

いくつものおだんごがくしによってつながっています。

おだんご
店が密集する駅や中心街などが集まっている場所

くし
おだんご同士をつなげる電車やバスなどの乗り場

富山市が目指しているまち

1時間 1回 使えろ

おだんご

こう変えたい

おだんご

1時間 4回 使えろ

公共交通の便利な地域に住む人を増やす

現在 約3割

将来 約4割

公共交通利用率に新たな目標を設定し、さらに公共交通が便利になった地域に住む人

富山市交通政策課 東福光晴さんのお話

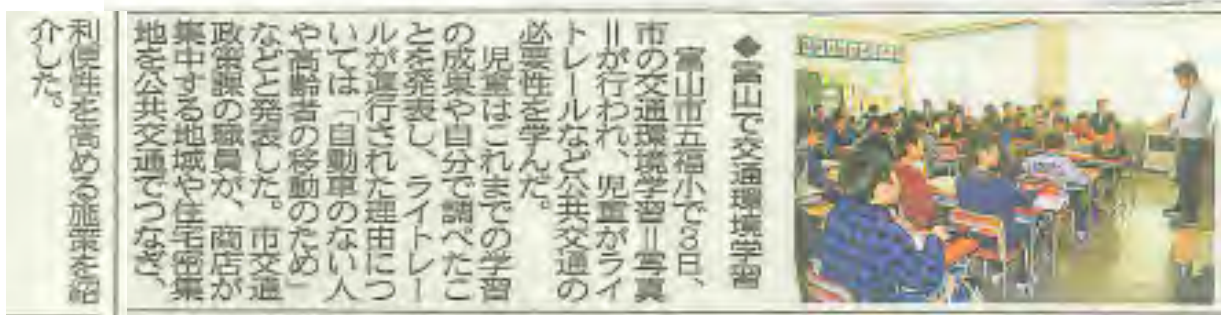
公共交通を便利にすると、高齢者や体の不自由な人など車が使えない人でも、気軽に移動できるようになります。また、車の代わりに公共交通を利用すると二酸化炭素の排出量が削減されます。富山市は、「くしとだんごのまちづくり」に取り組むことで、人と場所に優しいまちを目指しています。

富山市交通政策課

A4 片面

）新聞掲載記事

12月4日(火) 富山新聞



評価

）児童への意識変化アンケート結果

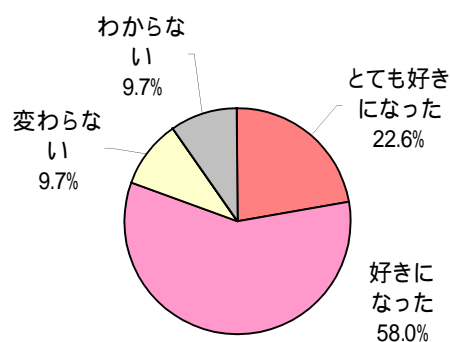
学習プログラム実施後、全児童に対してアンケートを実施した。以下の全学習ステップにおいて、7割以上の児童が「とても好きになった・とても思う」、「好きになった・思う」と回答しており、学習効果が見られる。

学習ステップ1: 公共交通を好きになる

問: 授業を受けて、バス、電車、ポートラムやセントラムを好きになりましたか？

N= 31		
項目	件数	割合
とても好きになった	7	22.6%
好きになった	18	58.0%
変わらない	3	9.7%
きれいになった	0	0.0%
すごくきれいになった	0	0.0%
わからない	3	9.7%
無回答	0	0.0%
合計	31	100.0%

80.6%

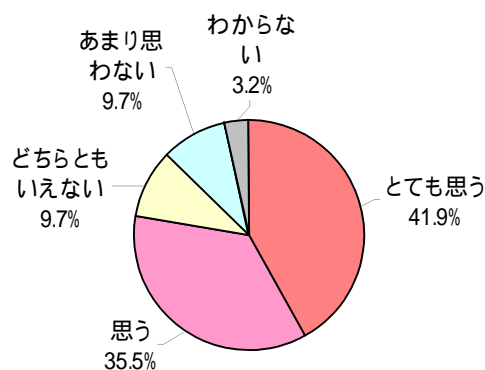


学習ステップ2: 公共交通を利用したいと思う

問: 授業を受けて、バス、電車、ポートラムやセントラムに乗りたいと思いましたか？

N= 31		
項目	件数	割合
とても思う	13	41.9%
思う	11	35.5%
どちらともいえない	3	9.7%
あまり思わない	3	9.7%
思わない	0	0.0%
わからない	1	3.2%
無回答	0	0.0%
合計	31	100.0%

77.4%

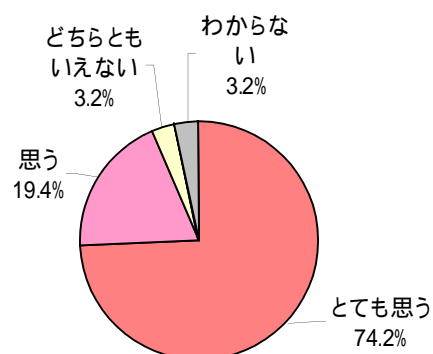


学習ステップ3: 環境や社会のことを考え、公共交通の大切さを理解する

問: 授業を受けて、あなたの住むまちのバス、電車、ポートラムやセントラムは、大切だと思いましたか？

N= 31		
項目	件数	割合
とても思う	23	74.2%
思う	6	19.4%
どちらともいえない	1	3.2%
あまり思わない	0	0.0%
思わない	0	0.0%
わからない	1	3.2%
無回答	0	0.0%
合計	31	100.0%

93.6%



）検討部会でのご意見と改善案 【協議事項】

検討部会でのご意見

- ・多くの教員に取り組んでいただくために、時間数を短くする必要がある。
- ・社会科では、「社会的な思考判断」が重要となる。この場合、対象が公共交通とは限らない。まちづくりなど、もっと広い視点での思考判断となる。
- ・今回の「わたしたちの願いを実現する政治」の単元をライトレールに関する学習と置き換えることは良い。
- ・現在の単元構成だと、児童は住民の願いに関する部分を読み取りづらい。
- ・「まちが元気になる」というのは良い課題である。
- ・社会科の教科書に掲載されている単元構成で授業を行うことで、社会科と富山版モビリティ・マネジメント教育の目的を擦り合わせることができ、「人々の願い」の部分についても含めることができる。全体の時間数を2時限にし、1時限目になぜライトレールがつけられたのかを児童に考えさせる。そして、2時限目にライトレールによってまちがどのように変化したのかを児童に考えさせる。教科書にあるまちの変化に関する資料に、児童用パンフレットを使って説明を加えれば、ライトレールによるまちの変化と、富山市のまちづくりの方針が一致する。
- ・今回、授業前にライトレールへの乗車体験があった児童は少数であった。そのため、五福小学校以外の小学校で今回の授業を実施しても、同様のレベルまでは児童の意見を引き出すことは可能である。

改善案

- ・多くの教員に取り組んでいただくために、時限数を短くする。
- ・社会科の教科書に掲載されている単元構成をもとに、社会科と富山版モビリティ・マネジメント教育の目的を擦り合わせた学習プログラムの内容となるように再検討する。

今後のスケジュール

- ・五福小学校で教員による公開授業を実施。(平成25年12月実施予定)

(5) **総合** 4年生の学習プログラム

実施結果 前回協議会で報告済み

○実施概要

実施日：平成24年10月10日(水)、11日(木)2時限

実施場所：東部小学校

実施者：教員

対象校・学年：東部小学校4年生1クラス

学習プログラム：「おでかけ定期券」って何だろう？

今後のスケジュール

- ・市内1校で教員による公開授業を実施。(平成25年10月実施予定、実施校は未定)

(6) **総合** 5年生の学習プログラム

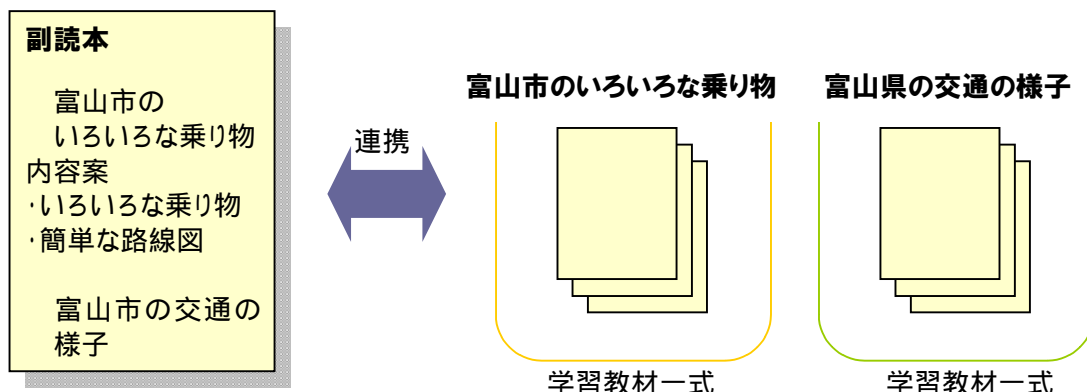
- ・市内1校で教員による公開授業を実施。(実施時期、実施校は未定)
- ・検討部会メンバーである教員を中心に、「環境」をテーマとした学習プログラムを検討中。

(7) まとめ

教科	学年	学習プログラム	平成24年度 【ブラッシュアップ】	平成25年度 【確立】
社会科	3年生	富山市の いろいろな乗り物	・公開授業を実施 (五福小学校) ・学習プログラムの再企画	・公開授業を実施 (五福小学校) ・授業を実施(市内数校)
	4年生	富山県の 交通の様子	・公開授業を実施 (速星小学校) ・学習プログラムの再企画	・公開授業を実施 (市内1校)
	5年生	(未定) 環境をテーマとした学 習プログラムを検討中		・学習プログラムの企画 ・公開授業を実施 (市内1校)
	6年生	富山市の 新しいまちづくり	・公開授業を実施 (五福小学校) ・学習プログラムの再企画	・公開授業を実施 (市内1校)
総合的な 学習の時間	4年生	「おでかけ定期券」 って何だろう？	・公開授業を実施 (東部小学校) ・学習プログラムの再企画	・公開授業を実施 (市内1校)
	5年生	(未定) 環境をテーマとした学 習プログラムを検討中		・学習プログラムの企画 ・公開授業を実施 (市内1校)

(8) 3 年生、4 年生社会科学学習プログラムの副読本掲載に向けた検討

副読本と学習プログラムの関係

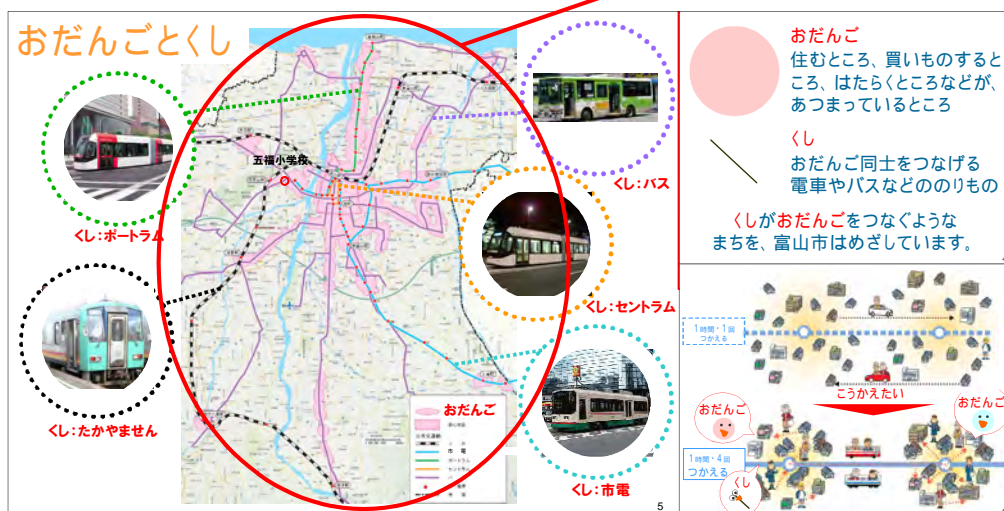


副読本への掲載内容 【協議事項】

現在の掲載案(下図)をもとに、社会科の3・4年生の学習プログラムの内容を踏まえて、掲載内容を確定させる。

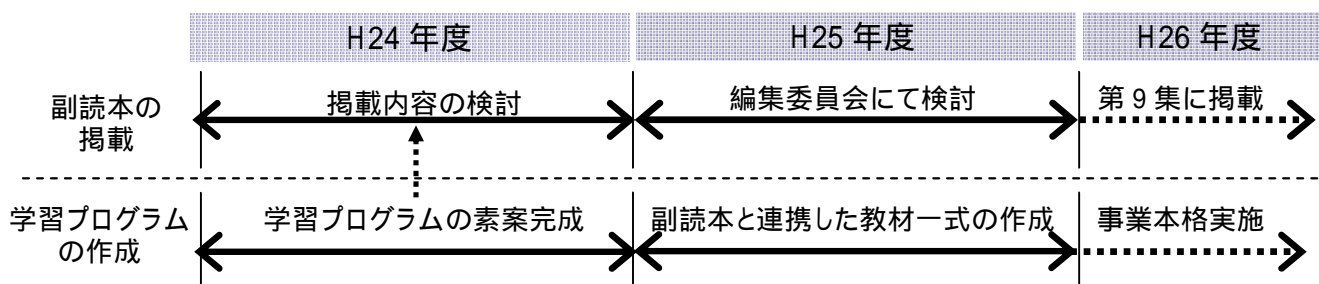
平成24年度に引き続き平成25年度も、編集委員でもあり検討部会メンバーでもある 劔田先生が中心になり紙面内容を検討していただく。

土地利用図に公共交通路線図を入れた地図に変更



掲載に向けてのスケジュール

平成25年度中に、平成26年度版第9集への掲載を目指して掲載内容を確定させる。副読本への掲載に合わせ、社会科の3・4年生の学習プログラムについても完成させる。



7. 今後のスケジュール

	平成 24 年度			平成 25 年度											
	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
学習 プログラムの企画・実施				準備	● 実施 (社会科 3 年生)	準備	● 実施 時期未定 (社会科 5 年生)	● 実施 (総合 4 年生)	● 実施 (社会科 6 年生)	● 実施 (社会科 4 年生)					
社会科 副読本掲載				掲載内容 の検討											
教員への 普及啓発				校長会 公開授業、WS	カレンダー の内容検討	校長会 公開授業、WS	● 全市教員WS	● 先進地視察	校長会 公開授業、WS	● 公開授業、WS	● 公開授業、WS	● 公開授業、WS	● 公開授業、WS	● 公開授業、WS	● 公開授業、WS
市民への 啓発								● グランドプラザと連携した イベント実施						● とやまレールライフ フォーラム	
検討部会	●				●					●		●	●		
協議会		●								●					●

学習プログラムの企画・実施 一覧表

教科	学年	プログラム名	実施校名	実施日	プログラム内容	授業実施により発生した課題	
社会	3	くしとおだんごのまちづくり	富山市立五福小学校 (藤井岳人 先生)	H24.5.29 H24.5.30	富山市の「くしとおだんごのまちづくり」について、2クラス合同で、座学を1時限行い、富山駅北やライトレールの車両基地へ移動後、ポートラムの乗車体験とライトレールの車両基地見学を2時間程度実施した。	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートラムが身近でない地域もあるため、ポートラム以外の公共交通（鉄道やバス）を使った学習プログラムの開発が必要。 ・「くしとだんごのまちづくり」は、6年生の学習プログラムで学習するため、3年生では軽く触れる程度とする。 ・PPT 資料は児童の頭に残らないので、ワークシートがあるとよい。 	
		富山市のいろいろな乗り物	富山市立五福小学校にて実施予定	実施時期未定	学習のねらい：富山市にはいろいろな公共交通があることや「ポートラム」の特徴を知り、公共交通に興味をもつ。 学習の内容：「ポートラム」以外のいろいろな乗物について学習し、公共交通と土地利用が結びついていることを理解する。また、乗車体験を全市的に実施することは費用負担も大きいことから、「ポートラム」の乗車体験は省略し、その特徴のみを学習する。	-	
	4	富山県の交通の様子	富山市立速星小学校 (津幡和英 先生)	H25.1.16	学習のねらい：鉄道の大切さについて考えるとともに、富山県の鉄道の様子を市街地の分布に関連付けて理解する。 学習の内容：高山本線の路線図や富山県全体の鉄道の様子から、駅の位置と市街地の結びつきを考える。乗り物別の二酸化炭素排出量について学習し、自動車に比べて鉄道は環境にやさしいことを理解する。高山本線利用者の年代について学習し、主に通勤通学者の利用が多いことなどを理解し、鉄道が人々の生活を支えていることを理解する。鉄道駅の位置や停車する駅の順番、市街地の場所の情報をもとに、富山県の地図に鉄道が走っているルートを書き入れる作業を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・時限数は現在のまま1時限とする。 ・前半のMM、後半の社会科のねらいが違う2つの学習を融合させるため、社会科を中心として要所でMMを取り上げる授業展開を検討していく必要がある。 	
	5	「環境」をテーマとした内容を検討中					
	6	富山市の新しいまちづくり ～まちを元気にするライトレール～	富山市立五福小学校 (藤嶋広樹 先生)	H24.11.29 H24.11.30 H24.12.3	学習のねらい：ライトレールと富山港線を比べ、ライトレールの良さに気付く。 ライトレールが誕生した理由や富山市の目指しているまちづくりについて自分なりの考えを持つ。 学習の内容：(1時限目) なぜライトレールの利用者数が増えたのか予想をたて、その理由について考える。ライトレールについて、わかったことをまとめる。 (2時限目) ライトレールが誕生した理由について資料を使って調べ、自分の考えをまとめる。 (3時限目) 児童用パンフレットに掲載した「交通政策課 東福光晴さんのお話」を読む。富山市がどんなまちづくりを目指しているか、自分の考えをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・時限数が多い。時限数を短くしたほうが取り組みやすい。 ・社会科の教科書に掲載されている単元構成をもとに、社会科の単元目標とMMの目的を擦り合わせた内容に改善する必要がある。 	
	総合	4	「おでかけ定期券」って何だろう？	富山市立東部小学校 (舟川宗吾 先生)	H24.10.10 H24.10.11	学習のねらい：富山市が発行する「おでかけ定期券」の目的を調べ、バス交通がお年寄りにも使いやすく整備されていることに気付く。 学習の内容：(1時限目) 「おでかけ定期券」について学習し、課題についてパンフレットで調べる。 (2時限目) 1時限目で調べたことを紹介しあう。課題について話し合い、「おでかけ定期券」について理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生で、福祉と交通・まちづくりの2つをテーマとすることは難しい。4年生で「福祉」を扱い、5年生で「交通・まちづくり」について扱う。ただし、おでかけ定期券のある理由 利益増加の観点、福祉の観点、まちづくりの観点については軽くでも全てに触れる。 ・学習内容が多いため、内容を絞る必要がある。
5		「環境」をテーマとした内容を検討中					

協議会議事要旨

平成24年度

第3回 富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会 議事録

日時：平成24年2月19日（火）15：30～17：00

場所：富山市役所3階 自治振興会室

委員：

所属	氏名
金沢大学 理工研究域 環境デザイン学系 教授	高山 純一
玉川大学 教育学部 教育学科 教授	寺本 潔
筑波大学 大学院 システム情報系 講師	谷口 綾子（欠席）
富山市立五福小学校 校長	柳内 誠治
富山市小学校教育研究会 総合的な学習の時間部会 部長	岡田 浩子
富山市小学校教育研究会 社会科部会 部長	戸田 哲彦
富山市教育委員会 学校教育課 主幹指導主事	吉藤 重弘
富山市PTA連絡協議会 会長	水野 雅人
国土交通省 北陸信越運輸局 交通環境部 環境課 課長	北角 武史（欠席）

事務局：

所属	氏名
富山市 都市整備部 交通政策課 課長	大場 一成
富山市 都市整備部 交通政策課 係長	東福 光晴
富山市 都市整備部 交通政策課 主査	室田 知美
交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境対策部 交通環境企画課 課長代理	岡本 英晃
株式会社 計画情報研究所 主任研究員	米田 亮
株式会社 計画情報研究所 研究員	大西 友世

次 第：

- 1．開会
- 2．富山市挨拶
- 3．議題
 - (1) モビリティ・マネジメント教育推進事業の普及啓発
 - (2) 学習プログラムの企画・実施
- 4．その他
- 5．閉会

1．開会

2．富山市挨拶

大場（富山市 都市整備部 交通政策課 課長）

本日はお忙しいなかご出席いただき、ありがとうございます。日頃より、富山市の行政推進にご協力いただいていることに対して、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。本協議会は、富山市内の小学校において交通環境学習を実施することにより、ひとりひとりが社会や環境に優しい交通手段を見直し、自発的に行動する人間を育てるモビリティ・マネジメント教育について協議するために設置している。平成 24 年度は、委員の皆様方からのご意見をいただきながら、3・4・6 年生を対象とした公開授業を実施してきた。検討部会の先生方をはじめとする多くの先生方にご尽力をいただきながら、平成 26 年度からの富山市内での富山市モビリティ・マネジメント教育の実施に向けて学習プログラムの開発に取り組んでいる。本日は、主に富山市モビリティ・マネジメント教育の普及啓発方法について忌憚ないご意見をいただきたい。よろしく申し上げます。

3．議題

高山委員長

本事業は、平成 23 年度から取り組みを始め、平成 24 年度はブラッシュアップ年、平成 25 年度は確立年と位置付けられている。平成 26 年度からの富山市モビリティ・マネジメント教育の本格実施に向けて、教員の方々に取り組んでいただくためには、取り組まなければならないという意識を持っていただくことが必要となる。平成 26 年度になった時点で、全ての学習プログラムを完璧に用意することは難しい。作成できた学習プログラムを使ってスタートし、時間をかけて完成させていけば良い。本日はよろしく申し上げます。

(1) モビリティ・マネジメント教育推進事業の普及啓発【協議事項】

事務局（東福）

（資料説明：「平成 24 年度 第 3 回富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会 資料」1～7 頁）

市内全小学校教員を対象としたワークショップの開催

寺本委員

市内全小学校教員を対象としたワークショップの開催について、想定している開催内容を教えてほしい。

事務局（東福）

夏休み期間中である 7～8 月の開催を予定している。開催方法としては、教育委員会の研修として開催することが考えられるが、難しいようであれば富山市が主催者となって開催することも考えている。

吉藤委員

富山市内には、65 校の小学校があり、1,200 人弱の教員がいる。

高山委員長

ワークショップの開催目的を何にするかを検討する必要がある。富山市モビリティ・マネジメント教育について周知を行うことが目的であれば、できるだけ多くの市内小学校の教員に集まっていただくことが 1 つの開催方法となる。

寺本委員

さまざまな自治体で、年 1 回は市内全小学校が対象となる研修や研究発表の場を設けている。富山市ではそのような取り組みはないのか。

吉藤委員

富山市の場合、小教研の部会や地区単位で教員が集まる研修は行われているが、市内全小学校を対象とした研修は実施されていない。

寺本委員

富山市教育委員会主催の研修としても市内全小学校を対象とした研修は実施されていないのか。

吉藤委員

富山市教育委員会主催の研修としても実施していない。富山市教育センターという施設はあるが、大勢の人が集まる場所はない。

柳内委員

富山市教育委員会や富山市学校教育課等とのワークショップの開催に関する協議はどこまで進んでいるのか。

事務局（東福）

富山市教育委員会からは、富山市教育委員会が主催者となって市内全小学校の教員を対象とした研修を開催することは難しいと言われている。富山市教育委員会からは、まずは小教研の各部会が主催者となってワークショップを開催してはどうかというアドバイスをいただいた。

柳内委員

小教研の各部会が主催者となってワークショップを開催することは難しいだろう。富山市が主催者となってワークショップを開催し、各小学校の校長先生を通じて教員の参加を出張扱いにさせていただくことが考えられる。

事務局（東福）

富山市が主催者となった場合、多くの教員に参加していただけるかどうかは課題となる。より多くの教員に参加していただける方法についてアドバイスをいただきたい。

寺本委員

ESD 教育のキーコンセプトは、「より良い社会づくり」である。富山市モビリティ・マネジメント教育は、富山市民のライフスタイルをどのように変化させていけば、より良い将来の富山市をつくっていくことができるのかという内容であり、ESD 教育に繋がる。富山市モビリティ・マネジメント教育は、「良識ある富山大人づくり」を目指している。単なる交通政策ではなく、全ての分野に関わるものである。このような点を PR することで、教員の興味・共感を得ることが必要である。

高山委員長

富山市モビリティ・マネジメント教育は、富山の売薬に例えると漢方のようなものである。即効性はないが、10～20 年後という時間をおいて効果が現れる。

戸田委員

富山市モビリティ・マネジメント教育が目指しているのは、児童が大人になってライフスタイルを選ぶときに環境等の視点を持って選ぶことができる大人を育てることである。

市内全小学校を対象としたワークショップの開催は時期尚早であるように感じる。いくつかのステップを踏んでいく必要がある。社会科としては、まずは副読本への掲載を予定している。学習プログラムを作成しても、活用されなければ意味がない。活用されるためには、教員が教育目的を理解したうえで、児童に噛み砕いて教育していくことが大前提となる。20 年後の富山市のビジョンを示してほしい。たとえば、富山市として 20 年後には車社会を脱皮したまちを目指すという明確なビジョンがあれば、教員は富山市モビリティ・マネジメント教育に対して意欲がわく。富山市モビリティ・マネジメント教育が何に結びついているのかを明確にしなければ、教員は力を入れて取り組むという気持ちにはならない。

寺本委員

富山市教育委員会の教育ビジョンを端的に教えてほしい。富山市モビリティ・マネジメント教育に関連する部分はあるのか。

吉藤委員

富山市モビリティ・マネジメント教育はESD教育の考え方に近いと感じている。ESD教育と関連づけて推進していくことが考えられる。

寺本委員

平成24年11月に堀川小学校でESD教育の公開授業が実施されている。授業内容のなかに、富山市モビリティ・マネジメント教育に関係する内容は含まれていなかったのか。

事務局（東福）

平成24年11月の公開授業では、市内電車を取り上げた授業を実施している。平成25年度の富山市モビリティ・マネジメント教育の公開授業実施校の1校として堀川小学校を考えている。堀川小学校の校長先生からは、ESD教育と関連づけて富山市モビリティ・マネジメント教育を実施できる可能性があるというご意見をいただいた。

寺本委員

堀川小学校は、教育界では先進的な取り組みを実施している小学校として全国的に有名である。堀川小学校に富山市モビリティ・マネジメント教育に取り組んでいただければ、一定のお墨付きをいただいたことになる。

高山委員長

協議事項の内容については、具体的な内容まで決定されていない部分もある。協議事項として挙げられている内容について、実施の方向で進めていただき、具体的な内容について平成25年度の協議会で協議を行いたい。

高山委員長

富山市内の小学校において、どれくらいの教員が富山市モビリティ・マネジメント教育を認知しているのか。

事務局（東福）

検討部会の教員を中心に、ごくわずかな教員しか富山市モビリティ・マネジメント教育を認知していない。

寺本委員

まずは、広く多くの教員に富山市モビリティ・マネジメント教育について認知していただくことが必要である。

富山市モビリティ・マネジメント教育は、交通政策に限った内容ではない。このままでは、20年後の地方都市は大きな問題を抱えることになる。高齢人口の増加と若年人口の減少の時代がくる。高齢者は、若年者に頼らなければ移動の足を確保することが難しくなる。ESD教

育では「世代間の公平」を掲げているが、20年後の地方都市では「世代間の不公平」が生まれてしまう。もっと危機感を煽らなければ、教員を巻き込むことはできない。児童だけではなく、大人である市民も動かなければならない。具体的な学習内容としては、資料 P18 の児童用パンフレットに掲載している「富山市の 65 才以上の人口の割合グラフ」は 2010 年までのデータとなっているが、もっと将来の推計人口のデータまで掲載し、将来の地方都市が抱える問題を児童に伝えるべきである。そうすることで、公共交通の大切さが見えてくる。

水野委員

児童が公共交通機関を利用していないことは、保護者にも責任がある。ライトレールは特殊な成功例である。1 時間に 4 本も運行されているのであれば利用する。しかし、沿線に住んでいなければ利用できない。20 年後の富山市をイメージしたとき、高齢者になった自分がどのように移動の足を確保するか考えてみたい。教育も大切だが、市民の足を確保するためのハード整備もしっかりと行ってほしい。

高山委員長

富山市は全国的にも進んだまちづくりを行っている模範都市である。しかし、メリハリがきいたまちづくりを行っていかなければ富山市の財政はもたない。ハード整備とソフト施策を組み合わせたまちづくりを行うことが必要である。

各委員の皆様から、現在のスケジュールでは難しいというご意見をいただいた。今後のスケジュールについては事務局で再度検討していただきたい。平成 25 年度中に全て完璧に用意できなかったとしても、平成 26 年度にはスタートさせる。

寺本委員

これまで、事業を進めてきたなかで富山市モビリティ・マネジメント教育のファンになった先生は生まれているのか。

柳内委員

平成 24 年度に公開授業開催後のワークショップの際、小教研の社会科部会から参加した先生のなかに自分も実施したいという先生がいた。その先生には児童用パンフレットの印刷物を提供して授業で使用していただいた。

寺本委員

そのような先生方の熱意が報われるために、他の先生が目につくような新聞や広報等のツールを使って、市民に先生方が取り組んでいる内容を情報発信する必要がある。

事務局（東福）

平成 24 年度は、富山市のテレビ広報番組である「とやま情報局」で「かしこく使おう！公共交通」というテーマの番組が製作・放映された。そのなかで、五福小学校での公開授業の風景が放映され、市民からの反響もあった。

寺本委員

熱意ある教員が3名いれば、富山市モビリティ・マネジメント教育は普及していく。

高山委員長

富山市モビリティ・マネジメント教育を普及させていくためには、継続的な行政のバックアップ体制が必要である。

カレンダーの作成

岡田委員

平成25年度は、カレンダーを作成することになっている。社会科は全小学校で共通の学習内容が決まっているため、カレンダーを作成することは可能である。しかし、総合的な学習の時間の場合、各小学校によって学習内容が異なる。学年によって取り扱われることが多いテーマはあるが、作成内容について検討が必要である。

(2) 学習プログラムの企画・実施【報告事項】

事務局（東福）

（資料説明：「平成24年度 第3回富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会 資料」8～24頁）

～『富山市の交通とくらし～富山市のおでかけバスって知ってる？』

ダイジェスト版DVDの放映～

柳内委員

平成25年度中に社会科5年生の学習プログラムを確立させることは難しい。社会科3・4・6年生の学習プログラムについては、公開授業後のワークショップを踏まえて、学習プログラムの再検討を行い、再度公開授業を実施して確立させるという流れで進めてきている。社会科5年生の学習プログラムは、平成25年度に初めて公開授業を実施するため、公開授業後にワークショップを行って修正を加えても再度公開授業を実施する時間は無い。また、学習プログラムの検討は、検討部会のメンバーである教員が各自1つの学習プログラムを担当して進めている。検討部会のメンバーには社会科の教員は3名しかいないため、社会科5年生の学習プログラムを主体的に検討する担当教員を検討部会メンバーから出すことは難しい。総合的な学習の時間5年生の学習プログラムについては、検討部会のメンバーとして総合的な学習の時間の教員が2名いるため検討は可能である。しかし、公開授業を1回しか実施できないため、課題を残す形となる。

岡田委員

総合的な学習の時間5年生の学習プログラムについて、検討期間が1年と限られているため、

公開授業実施後のワークショップではなく公開授業前にワークショップを開催してほしい。

高山委員長

平成 25 年度中に全て完璧に用意することは難しい。全てそろっていない場合であっても、平成 26 年度からスタートすれば良い。その後、少しずつ完成に向けて作業をすすめるというスケジュールとすることが望ましい。そのためには、富山市の継続的なバックアップが必要である。

事務局（大場）

平成 25 年度中に全てのものを完璧に用意することは難しいと理解している。そのため、平成 26 年度は、完成しているものだけでまずはスタートさせたい。

柳内委員

検討部会では、検討結果である学習プログラムが富山市教育センターの HP からアップされるという認識でいる。富山市教育センターとの協議はどこまで進んでいるのか。

事務局（東福）

富山市教育センターの HP から学習プログラムの電子データをアップすることは、ほぼ確定事項である。今後、具体的な方法について協議を行っていく。

戸田委員

国税局の HP には、トップ画面に「税の学習コーナー」というバナーが設置されており、専用ページが開設されている。富山市教育センターの HP に富山市モビリティ・マネジメント教育のバナーを設置し、リンク先を富山市の HP 内とする方法もある。

柳内委員

現在、作成中の学習プログラムについても暫定版として HP にアップしてほしい。

寺本委員

少しずつでも情報発信を行っていくことは重要である。暫定版でも HP 等を通じてどんどん情報を発信していくべきである。情報が発信されていれば、口コミで広がっていく可能性がある。

事務局（大場）

準備でき次第、交通政策課の HP に学習プログラムをアップする。

4. その他

(1) 事業終了後の検討体制

事務局（東福）

本事業は平成 25 年度で終了となるが、その後も学習プログラムの見直し等が必要になってくる。その際、富山市職員だけで見直しを行うことは難しく、教員の方々の協力が必要になる。事業終了後も、協議を継続させるための組織が必要ではないかと感じている。

高山委員長

事業終了後の組織についても、平成 25 年度中に検討を進めたい。

(2) 今後のスケジュール

事務局 (東福)

平成 25 年度の協議会は、9 月頃の開催を予定している。よろしく申し上げます。

5 . 閉会

以上

7. 検討部会

(1) 第1回検討部会

○議事要旨

第1回富山市モビリティ・マネジメント教育推進事業 検討部会 議事要旨

日 時：平成24年5月29日(火) 15:30～17:20

場 所：五福小学校 会議室

出席者：

所属	氏名
五福小学校 校長、実践校	柳内 誠治
五福小学校 教諭、実施校	藤井 広樹
保内小学校 教諭、小教研 社会科部会	劔田 秀則
速星小学校 教諭、小教研 社会科部会	津幡 和英
五福小学校 教諭、小教研 社会科部会	藤嶋 広樹
呉羽小学校 教諭、小教研 総合部会	堀 泰洋
東部小学校 教諭、小教研 総合部会	渡辺 純恵

事務局：

所属	氏名
富山市 都市整備部 交通政策課 主査	東福 光晴
富山市 都市整備部 交通政策課 主査	室田 知美
株式会社 計画情報研究所 研究員	北川 真理
株式会社 計画情報研究所 研究員	大西 友世

次 第：

1．協議事項

- (1) 学習プログラム「くしとだんごのまちづくり」
- (2) 総合的な学習の時間の学習プログラム
- (3) その他

2．今後のスケジュール

1．協議事項

(1) 学習プログラム「くしとだんごのまちづくり」

実施校教員ヒアリング

- ・今回の授業は、児童にとって半分以上は話を聞くものだった。3年生の児童にとって、話を聞くだけの授業はつらい。
- ・「くしとだんごのまちづくり」において、「くし」「だんご」の意味や役割を伝えつつもりだったが、半数の児童が理解しきれていない感触があったが、授業後の感想文を読むと、「みんなが便利に住むことが大事」「思いやりが大切」などの意見がいくつか見られ、考えが及んでいたのではと感じる。
- ・児童に「くしとだんごのまちづくり」を行う必要性について、より考えさせるためには、PPTの前半部分の内容をしっかりと伝える必要がある。

3年生と6年生での学習内容の範囲

) 3年生社会科での学習内容

公共交通についてのみ学習したらよいというご意見

- ・中高大生には、公共交通の利用を直接呼びかけることが有効だが、小学生に対して市の施策をぶつけることは難しい。3年生では、なんで公共交通は便利なのだろう、富山市の移動は便利だね、というレベルが理解の範囲だろう。また、体験がないと利用意欲は伴わないだろう。(剣田)
- ・3年生の社会科では、見たものを比べて、なぜそうなったのか理由を考える学習を行う。最初は、学校や学校周辺から始め、富山市全域まで広げ、富山市の多様性を学習する。そのなかで、土地利用の違いから疑問を持ち、考えることが社会科のねらいである。なぜその工夫をしているのか、だから工夫をしているんだということを考えることが落としどころである。この発問は、3年生だけではなく、6年生まで何度も必要である。(剣田)
- ・これから富山のまちがこうなる、という未来の話は3年生には難しく、空想の話になってしま

う。過去と現在を理解することはできる。(劔田)

富山のまちには、いろいろな公共交通があり便利だということが落としどころとして考えられる。

くしとだんごのまちづくりと公共交通両方を学習したらよいというご意見

- ・富山市の公共交通を一通り知って、富山市全体としてくしとだんごのまちづくりをしていることを学習する学習プログラムの順番にしてはどうか。(堀)
- ・「くしとだんごのまちづくり」について、6年生でも学習するのであれば、トピック的に3年生は知識だけでも触れておけば良い。3年生では、知識として富山市にはいろいろな交通機関があり、いろいろな場所に行けそうだと、いうところが限界だろう。(渡辺)
- ・現在のPPTにある、くしとだんごのまちづくり全てを学習することは3年生では難しいため、説明量を減らすと良い。(藤嶋)

6年生でもくしとだんごのまちづくりに触れるため、3年生では軽く触れると良い。学習の順番は、いろいろな公共交通を知り、その後にくしとだんごを学習すると良い。

その他のご意見

- ・3年生の社会科では、昔と今の暮らしを比べている副読本「3かわってきた人々の暮らし」という単元がある。現在交通機関は取り扱っていないが、富山港線とポートラムを比べることが考えられる。3年生は、必ず富山市科学博物館に見学に行くように、ポートラムに必ず乗車することになると良い。(劔田)

) 6年生社会科での学習内容

- ・6年生では、「1わたしたちの願いを実現する政治」で行政の役割について学習するため、くしとだんごのまちづくりを学習することは可能だろう。(劔田)
- 6年生で、今年度くしとだんごのまちづくりについて学習プログラムを実施し、再度3年生と6年生の学習内容の分担の検討を行う。

全市でのプログラム実施

全市的に必須で学習する内容について

- ・全市的に実施するための「スタンダード」の定義が必要である。何人かの先生が言っている児童の体験がスタンダードなのか。私は、ポートラムなどの乗り物を題材にして、くしとだんごのまちづくりを理解させることだと認識している。(堀)
- ・3年生の社会科で学習する場合、単元の前半や後半だと児童の体験がともなうことを求められる。そのため、単元の最後にまとめとして、さまざまな交通機関があり、それは「くしとだんごのまちづくり」の取り組みであるということを学習する流れが妥当である。パッケージ化できるのは、富山市全体にさまざまな交通機関があるというレベルである。その後の、各地域に

近い公共交通機関について詳しく学習する部分は、パッケージ化できない。(堀)
全市必須の学習事項とオプションで学習することを明確化することが必要。

乗車体験が必要

- ・概念を教えることはできるが、児童には体験が必要である。体験をどのように補うのが重要である。体験がないと利用意欲が沸かない。(劔田)
- ・乗車体験がないのであれば、公共交通の学習は必要ない。(柳内)
全市で学習プログラムを展開していく際に、乗車体験を担保できるのか検討が必要。

小学校に身近な公共交通を学習することが必要

- ・PPTの資料は良くできているが、八尾でポートラムをメインに扱う本プログラムを行うこと難しい。八尾だと、JR線か循環バスが比較的児童にとって近い存在だが、いずれも馴染みが薄い。(劔田)
- ・身近な公共交通を扱うことが必要である。例えば、JR線を扱う場合は、高山線の増便について紹介することが考えられる。(劔田)
- ・速星小学校でも、ポートラムは身近ではない。高山線、路線バス、コミュニティバスなど、公共交通ごとのデータやワークシートがあればよい。(津幡)
- ・いろいろな公共交通についてそれぞれ学習できるプログラムがあるとよい。(藤嶋)
ポートラム以外の公共交通の学習プログラムを準備することが望ましい。

代表例としてポートラムのみを扱えばよい

- ・副読本「1わたしたちのまち、みんなのまち」の「(3)富山市をたんけんしよう」の乗り物の学習のなかで、代表例としてポートラムについて学習したら良い。(堀)
- ・社会科の副読本として取り上げるのであれば、ポートラムひとつでよい。各小学校が授業で、自分達の地域ではどうかということ考えることが可能である。(渡辺)

教材

- ・PPTの資料は良くできていた。3年生に話を聞かせるためには、写真やイラストが多く、児童が参加できるクイズが盛り込まれていた点は有効であった。
- ・PPTは、児童を引き付ける魅力があり、わかりやすい。しかし、説明のスピードが速くなりがちであり、板書と違って授業後にその日の授業の流れが視覚的に残らない。そのため、PPTを使って説明した場合、児童はその日の学習を振り返ることが難しい。
- ・PPTは児童の頭に残らないので、ワークシートがあるとよい。(津幡)
- ・いろいろな公共交通の学習プログラムとワークシート、くしとだんとのまちづくりの学習プログラムをワークシートがあればよい。ワークシートには、学習のポイントになるような写真や

図を掲載するとよい。(渡辺)

- ・速星小学校でも、ポータルは身近ではない。高山線、路線バス、コミュニティバスなど、公共交通ごとのデータやワークシートがあればよい。(津幡)(再掲)
- ・現在のPPTにある、くしとだんごのまちづくり全てを学習することは3年生では難しいため、説明量を減らすと良い。(藤嶋)(再掲)

現在のPPTの内容を基本としながらワークシートを作成する。

その他

- ・3年生対象のくしとおんだんごのまちづくりの学習プログラムは、来年度も実施して検討を重ねたらよい。(柳内)

(2) 総合的な学習の時間の学習プログラム

- ・低学年は、グラフや写真を提示しても、体験が伴わなければ身近な問題として捉えることが難しい。今回の4年生で実施する総合的な学習の時間の学習プログラムでは、シニアシミュレーションという福祉の学習と連動させる。モビリティ・マネジメント教育に取り組むひとつのきっかけとして位置づけている。各小学校の実情に合わせて、活用いただけるパッケージプログラムにしたい。学習の最後の落としどころとして、「くしとだんごのまちづくり」に触れることも検討している。
- ・体験学習については、各小学校の判断で実施していただければよいと考えている。

(3) 今年度実施する4年生社会科の学習プログラム

- ・富山市は山間部やまちなかなど、さまざまな特徴を持った地域が存在する。今年度、速星小学校でおでかけ定期券を題材とした昨年度実施学習プログラムである「富山の交通と暮らし」を実施するか検討中である。速星小学校のある婦中町では、ファボーレを中心にして郊外型のまちが構築され続けている。これは、「くしとだんごのまちづくり」と反している。このような地域で「くしとだんごのまちづくり」を学習する場合、居住者に便利な点、不便な点についてインタビューを行い、便利だがクルマがないと移動できないという現状に対し、解決策を考えるという学習の流れが考えられる。(津幡)
- ・例えば住民アンケートを実施して、クルマがないと不便だということを感じるプログラムも考えられる。(剣田)

(4) その他

- ・副読本の編集委員会には、本事業の経緯と今後の流れは伝えてある。6月8日に今年度の第1回会合が開かれ、今年度のスケジュールについて協議する。まずは、富山市都市整備部交

通政策課と富山市教育委員会で話を詰めてほしい。(劔田)

2 . 今後のスケジュール

- ・ 8 月 3 日 (金) ~ 5 日 (日) に富山市で日本モビリティ・マネジメント会議が開催される。3 日の 10 : 00 ~ 12 : 00 に、開催地企画として、本事業について報告する時間を設ける予定である。

以上

3年生社会科の学習プログラム素案

プログラム名

富山市のいろいろな乗り物

学習のねらい

富山市にはいろいろな公共交通があることやポートルムの特徴的を知り、公共交通に興味を持つ。

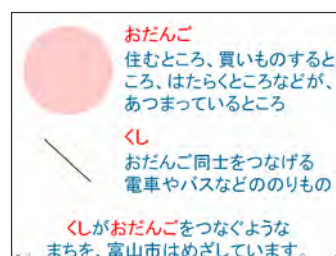
時限数

1～2時限

学習内容

今年度の実施内容をベースに、内容を絞り込み、児童がワークシートなどで作業をしながら進められる学習プログラムを目指す。

- ・ 富山市の公共交通
- ・ ポートルムの特徴（富山市の代表的な公共交通として選定）
- ・ くしとだんごのまちづくり（6年生で学習するため簡易的に）



今後の検討スケジュール

- ・ 今年度に検討、来年度に実施・ブラッシュアップを行い、学習プログラムの完成を図る。
- ・ 来年度の完成に合わせ、教材パッケージ一式も準備する。

前回検討部会でのご意見のまとめ（参考）

- ・ 富山のまちには、いろいろな公共交通があり便利だということが落としどころとして考えられる。
- ・ 6年生でもくしとだんごのまちづくりに触れるため、3年生では軽く触れると良い。学習の順番は、いろいろな公共交通を知り、その後にくしとだんごを学習すると良い。
- ・ 全市で学習プログラムを展開していく際に、乗車体験を担保できるのか検討が必要。
- ・ ポートルム以外の公共交通の学習プログラムを準備することが望ましい。
- ・ 代表例としてポートルムのみを扱えばよい。
- ・ 全市必須の学習事項とオプションで学習することを明確化することが必要。
- ・ 現在のPPTの内容を基本としながらワークシートを作成する。

3 年生と 4 年生社会科学習プログラムの副読本掲載に向けて

打ち合わせ：

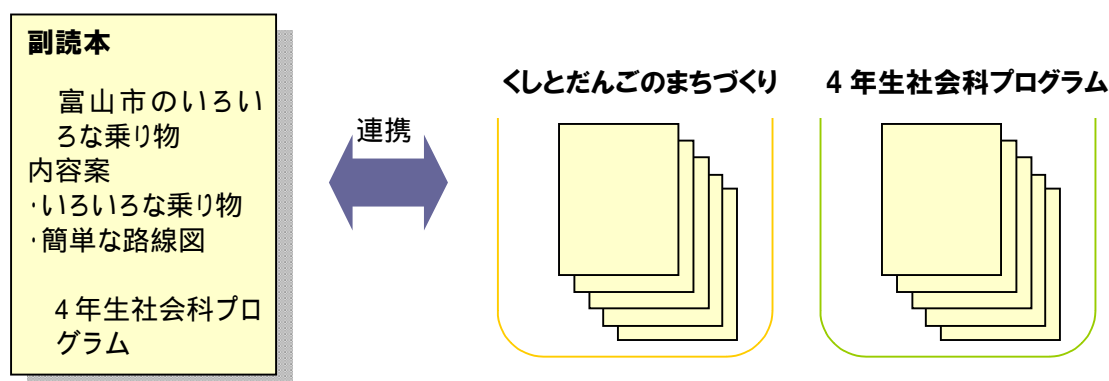
7月5日（木） 劔田先生（検討部会） 桑谷先生（富山市教育センター） 事務局
編集委員会への趣旨説明：

8月6日（月） 編集会議にてモビリティ・マネジメント教育や事業の趣旨を説明

ご意見まとめ

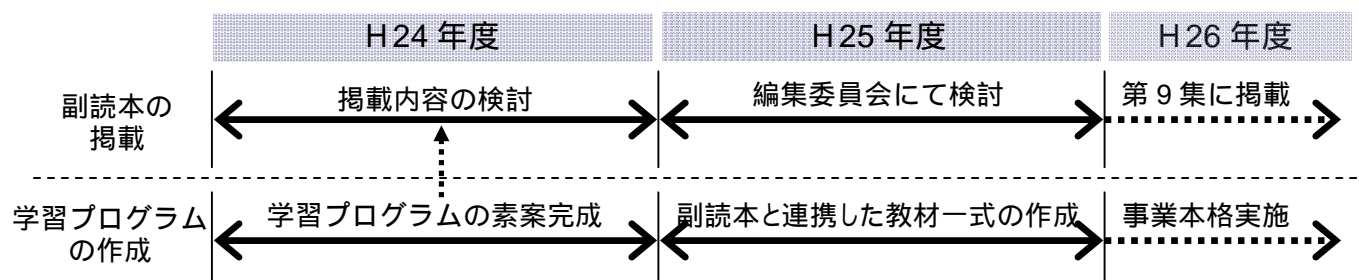
- ・3年生では市の全体を把握することがメインであり、路線図やポータルについて掘り下げて学習することは無理である。
- ・富山市にはいろいろな乗り物あることを学習することがメインである。
- ・子どもたちが見たことがある乗り物を掲載することが大切である。
- ・教員は教科書をベースに使用するため、副読本の使用方法は教員次第である。副読本の指導の手引書のようなものはない。

副読本と学習プログラムの関係



掲載に向けてのスケジュール

- ・3年生と4年生社会科学習プログラムについても、掲載に向けての検討を行う。
- ・平成24年度は、劔田先生が中心になり掲載内容を検討する。その際、事務局も協力する。また、副読本に合わせた教材パッケージの内容を検討する。
- ・平成25年度に、平成26年度版第9集の掲載を目指し、掲載内容を検討する。



議事要旨

平成 24 年度第 2 回富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会検討部会 議事要旨

日 時：平成 24 年 10 月 11 日（木）14：50～16：30

場 所：富山市立東部小学校 音楽室

出席者：

所属	氏名
五福小学校 校長	柳内 誠治
呉羽小学校 教諭、小教研 総合部会	堀 泰洋
東部小学校 教諭、小教研 総合部会	渡辺 純恵
五福小学校 教諭、小教研 社会科部会	藤嶋 広樹

(オブザーバー)

所属	氏名
東部小学校 校長	古木 繁行
東部小学校 教諭	舟川 宗吾

事務局：

所属	氏名
富山市 都市整備部 交通政策課 課長	大場 一成
富山市 都市整備部 交通政策課 主幹	窪池 成人
富山市 都市整備部 交通政策課 主査	東福 光晴
富山市 都市整備部 交通政策課 主査	室田 知美
富山市 都市整備部 交通政策課 主任	中田 真優
株式会社 計画情報研究所 研究員	北川 真理
株式会社 計画情報研究所 研究員	大西 友世

次 第：

1．協議事項

- (1) 4年生総合的な学習の時間の学習プログラムについて
- (2) 6年生社会科の学習プログラム(案)について
- (3) 3年生社会科の学習プログラム(案)について
- (4) 5年生の学習プログラムについて
- (5) 3年生・4年生社会科プログラムの副読本掲載に向けて

2．報告事項

- (1) 第七回日本モビリティ・マネジメント会議について
- (2) 先進地視察について

3．今後のスケジュール

- (1) 検討部会開催予定
- (2) 推進協議会開催予定

1．協議事項

- (1) 4年生総合的な学習の時間の学習プログラムについて

授業概要

- ・4年生総合的な学習の時間における学習プログラム『「おでかけ定期券」ってなんだろう』を実施。
- ・学習のねらいは、『富山市が発行している「おでかけ定期券」の目的を調べる活動を通して、バス交通が高齢者にも使いやすく整備されていることに気付く』とする。
- ・時間数は2時限で構成されており、既に1時限目が終了。本日の公開授業は、2時限目にあたる。

授業実施によって発生した課題とその対応

1) 学習のテーマ「福祉」「交通・まちづくり」

- ・東部小学校4年生はディケアセンター等で高齢者と交流している。今回の授業の導入は「高齢者について、もっと詳しくなろう」とした。今後の福祉の活動に活かしていける学習プログラムだと使いやすい。交通に焦点を合わせると、授業を進めていくことは難しい。(舟川)
- ・ゲストティーチャー - の富山市東福氏の話には、福祉と交通の両方の内容が盛り込まれていた。児童は、中心市街地が衰退している現状が認識できていない。そのため、「おでかけ定期券」をつくった理由3点のうち、「街の活性化」を理解することが難しい。福祉とまちづくりの両面で授業を行わなければ、児童は「おでかけ定期券」を作った理由3点全てを理解できない。児童に中心市街地の現状を理解させる必要がある。(古木)

- ・富山市東福氏の話（「おでかけ定期券」をつくった3つの理由）は、あったらよい。東福氏の話した内容も、教員の学習教材パッケージに入れたい。今日も、東福氏のお話で授業が終わったが、最後にまとめとして東福氏の話の内容があればよい。（渡辺）
- ・高齢者について学習をしているため、高齢者目線の意見がほとんどであった。おでかけ定期券のある理由は、利益増加の観点から、福祉の観点から、まちづくりの観点からとなっており、児童の意見を類型化したかったが、できなかった。の観点については、さらに掘り下げることが必要である。「町を元気にする」ということが児童には理解が難しい。児童は、郊外のショッピングセンター「ファボーレ」に頻繁に訪れているが、中心市街地の西町周辺に訪れた経験は少ない。去年、授業のなかでクラスの半数の児童が中心市街地を訪れたが、児童が中心市街地について、どのように感じているかは分からない。（舟川）
- ・4年生の学習プログラムのテーマに交通・まちづくりを入れる場合、児童用パンフレットの外面左側「こんなところでも使えます」を外面右側に簡略化して配置し、空いたスペースで中心市街地の衰退状況の内容を掲載することが考えられる。
- ・4年生で福祉と交通・まちづくりの2つをテーマとすることは難しい。4年生では福祉をテーマがふさわしい。5年生になると福祉の観点よりもまちづくりの観点がふさわしい。来年度は総合的学習の時間における学習プログラムとして、5年生を対象とした交通・まちづくりをテーマにした学習プログラムを作成することが望ましい。そうすると、4年生では「おでかけ定期券」をつくった3つの理由についての、まちづくりについての内容は、そこまでしっかり児童に理解をさせる必要はなくなる。（渡辺）

2) 学習課題の設定

- ・昨日1時限目を実施してみて児童の様子から、「何のために『おでかけ定期券』があるのだろう」が1,2時限を通しての学習課題であったが、学習内容が多いため、学習課題の内容を絞る。1時限目の学習課題は「『おでかけ定期券』って何だろう」、2時限目の学習課題は「『おでかけ定期券』はお年寄りにとってどんないいことがあるのだろうか」に変更する。（渡辺、堀）

3) 授業時間数

- ・時限数を3時限に延長させることも考えられるが、3時限だと間延びするため、2時限が適当である。備考に、乗車体験を盛り込むことも可能だと記載したい。（渡辺）
- ・乗車体験など、パッケージのなかでどこまで学習プログラムとして規定するのが問題である。現場の教員が判断できるようにしておけばよい。（堀）
- ・授業者としては、授業最後にもう少し児童の意見を発表する時間を設けたい。時間が足りなかった。（舟川）
- ・今日の授業の児童の発言から、2時限で児童の意見を発表する時間を設けることはできると感じた。（渡辺）

4) 関連付け

- ・総合的な学習の時間の学習プログラムとの関連付けを、説明する文章を学習指導案に追加する。(渡辺)

5) 授業の実施方法

- ・授業の実施方法として、「a. 児童中心の調べ学習」、「b. 教員による一問一答方式」が混合している。児童にとって、教員の説明を聞く行為と、ワークシートに記入する行為を同時に行うことは難しい。今後、a、b の2つのケースを想定して、ワークシートの内容と授業の実施方法を再検討する。(渡辺、堀)

6) ゲストティーチャーの話の扱い

- ・東福氏の話した原稿を頂き、教員用の補助教材として用意したい。この補助教材があれば、ゲストティーチャーを招かなくとも授業を実施できる。(渡辺)

7) 児童用パンフレット

○情報量

- ・児童用パンフレットは既に情報量が多い。児童用パンフレットに交通とまちづくりの内容も加えることで、テーマがぼやけてしまうことが心配である。(藤嶋)
- ・児童用パンフレットの既存の中面情報は、全て必要である。(渡辺)

○掲載方法

- ・4年生にとって、児童用パンフレット内のデータを読み取ることが難しい。特に、児童用パンフレット中面の右下の地図は、児童にとって料金面でのルールの理解が難しく、地図上の距離感や自宅からの位置感覚がつかみづらい。また、児童は身近な場所でなければ、イメージを持ちにくい。まちなかと郊外の意味も理解が難しい。改良を検討する必要がある。(渡辺、舟川)

○教員への教材の配布

- ・児童用パンフレットを、学校でカラー印刷することは厳しい。来年度の予算で、ある程度の部数を印刷してほしい。(渡辺)
- ・学校教育課と教育センターに相談したら、市の教育委員会のウェブから自由にダウンロードすることができるだろう。(古木)

8) 5.6年生の学習プログラムについて

- ・5年生の社会科でのモビリティ・マネジメント教育は難しそうである。総合的な学習の時間での実施がより適している。(堀)

(2) 6年生社会科の学習プログラム(案)について

授業概要(藤嶋)

- ・6年生社会科では「わたしたちの願いを実現する政治」の単元において、教科書でライトレールが取り上げられている。教科書の掲載内容を参考として、学習プログラムの開発を行った。
- ・学習目標としては、富山市のまちづくりについて興味を持ち、まちづくりは、市民の願いと政治の動きが反映されていることを知り、政治は市民の生活の安定と向上のために大切な働きをしていることを理解させる。
- ・この単元にあてることのできる時間は8~9時限である。今回の指導案は8時限としているため、時間内におさまっている。

教科書との連携

- ・ライトレールが教科書に掲載されている影響は大きく、モビリティ・マネジメント教育を実践しやすい。教員が教科書の内容を膨らませることができるように、グラフなどの補足資料があるとよい。(堀)
 - ・今後、教科書にライトレールに関する掲載が無くなったとしても、グラフなどの必要な資料があれば授業を実施できる。授業の詳細な内容については11月中旬までには作成する。(藤嶋)
- ### 学習プログラム内容

- ・単元の最後に、「くしとだんごのまちづくり」に話を持っていく。児童がコンパクトシティについて知ることは可能であり、知る意義もあるため授業に入れたい。(藤嶋)
- ・政治のひとつとして、くしとだんごのまちづくりがある。モビリティ・マネジメントメインの学習プログラムは難しいだろう。(柳内)

学習プログラムのパッケージ化

- ・学習プログラムのスタンダード化を考えた場合、乗車体験や出前講座は難しい。(柳内)
- ・総合的な学習の時間では、時限数を2時限としてスタンダード化を意識した学習パッケージを作成している。今後、学習パッケージに板書例も用意する予定である。社会科では、どのようなものを学習パッケージとして作成するのか。単元のどこに、今回のモビリティ・マネジメント学習プログラムを入れ込むのかを示し、そのなかで該当する単元で学習のねらいや、教員が気をつけること、児童が行うことを示した指導案をつけるなどのパッケージを作成したらよい。(渡辺)
- ・教科書の掲載内容を膨らませる材料として、学習パッケージのなかに児童用パンフレットなどの教材があると良い。(堀)
- ・今回の指導案は、私が授業を実施する内容である。スタンダード化を意識して、学習パッケージとしての指導案の内容を再検討する。(藤嶋)

富山市役所の既存の出前授業の活用

- ・富山市役所の既存の出前授業は、12月の議会中の実施は難しい。(東福)

今後の予定

- ・今後、授業実施まで検討部会は開催しない。個別に教員との打ち合わせを行いながら授業実施までの準備を進める。(東福)

(3) 3年生社会科の学習プログラム(案)について

- ・平成25年度中での完成に向けて、学習パッケージを準備する。(北川)
- ・平成25年度の公開授業は、五福小学校3年生で教員が実施する。(柳内)
- ・授業時間は1時限で良い。(渡辺)
- ・今年度、クイズとマナーの部分の学習プログラムを児童に実施した。クイズの受けは大変よく、児童は実際にライトレールに乗車する際にクイズの内容を確認していた。(渡辺)
- ・社会科副読本に、資料にもある富山市の公共交通の路線が入った地図と公共交通の写真があるとすごくよい。また、その地図にピンクの部分がだんごでくしが公共交通であり、くしのひとつがライトレールだという説明があるとよい。(渡辺)
- ・私は、授業でパワーポイントを使用することに抵抗はない。しかし、富山市ではあまり授業にパワーポイントは使用されていない。(渡辺)
- ・教員が授業する際には、パワーポイントに加えて、拡大印刷した資料や児童配布用の資料があると良い。(渡辺)

(4) 5年生の学習プログラムについて

- ・平成23年度実施の寺本先生の授業を参考として、総合的な学習の時間と社会科で4年生を対象とした学習プログラムを検討している。5年生を対象とした学習プログラムも用意する必要がある。4年生・5年生の2年間、継続して総合的な学習の時間でモビリティ・マネジメントの取り組みを行うことで効果が高くなる。平成25年度は5年生の学習プログラムを実施したい。(東福)
- ・5年生の総合的な学習の時間のテーマは「環境」を扱う学校が多い。本日の公開授業の学習プログラムの場合、4年生は総合的な学習の時間のテーマが「福祉」のため、関連付けが行いやすい。しかし、5年生ではテーマが異なるため関連付けが難しく、今回とは別の学習プログラムを用意する必要がある。(渡辺)
- ・5年生社会科ではモビリティ・マネジメント教育と関連付けられる単元がない。そのため、5年生は総合的な学習の時間で、学習プログラムを作成することが考えられる。(堀)

(5) 3年生・4年生社会科プログラムの副読本掲載に向けて

- ・副読本に、「くしとだんごのまちづくり」のスライド内容を掲載すると、3年生の授業で取り

扱いやすい。また、4年生でも県のなかの代表市として富山市を扱う際に、副読本を活用する
場合がある。(渡辺)

- ・副読本は富山市全体の交通を取り扱うため、ポータルのみを重視することは難しい。副読本の活用方法は各教員に一任されている。平成26年度の副読本への掲載を予定している。(東福)
- ・副読本編集委員の教員の中には、市の政策である「くしとおだんごのまちづくり」を副読本に掲載することは難しいと感じていることが想定される。まずは富山市の交通について副読本に掲載したい。(東福)
- ・社会科副読本に、資料にもある富山市の公共交通の路線が入った地図と公共交通の写真があるとすごくよい。また、その地図にピンクの部分がだんごでくしが公共交通であり、くしのひとつがライトレールだという説明があるとよい。(渡辺)(再掲)
- ・副読本のページ増加も検討されているため、ページが増加すれば「くしとだんごのまちづくり」について掲載できる可能性がある。(北川)
- ・保内小学校の剣田先生が副読本編集委員であるため、副読本編集委員会との窓口となっている。今後、副読本編集委員会との協議結果を検討部会で報告していきたい。(東福)

2. 報告事項

(1) 第七回日本モビリティ・マネジメント会議について(東福)

- ・富山市独自の資料であるポータルや、児童の振り返りシートに記入されていた感想に対して、会場の反響が大きかった。
- ・今後とも他地域と情報交換を続けていく予定である。

(2) 先進地視察について

金沢市立小立野小学校における金沢版交通環境学習

- ・児童はゲームに対して意欲的に取り組んでいた。ゲーム終了後、児童が金沢の交通について発言する場面が見受けられた。学習のまとめとして標語を作成していたが、他の方法も考えられる。(藤嶋)
- ・今回の授業は、総合的な学習の時間のなかで、社会科と関連付けして実施されている。(北川)
- ・平成24年度で本格実施3年目である。導入版学習プログラムと発展版学習プログラムが整備されており、導入版学習プログラムは市内全小学校3年生で実施されている。市内全小学校3年生を対象として実施されている自転車安全教室を活用することで、全小学校での実施を実現している。自転車安全教室の開催場所への送迎に貸切にした路線バスが使われており、その車両を活用してバスの乗車体験を実施している。発展版学習プログラムは、平成24年度は3校で実施されており、教員の口コミで評判が広がっている。金沢市はモビリティ・マネジメントの推進と自転車交通安全教室を実施している課が同じであるため、関連した実施が実現

した。(北川)

福知山市立成仁小学校における交通環境学習

- ・行政職員によるパワーポイントを使用した学習と、地元バス会社による車両見学とワークシートを用いた授業であり、担当教員は授業進行にほぼ参加していなかった。児童が事前に総合的な学習の時間(福祉)の一環として、バスを使って移動し、福祉施設の見学を実施していたため、児童の感想にも「バスはお年寄りにも使い勝手がよい」という内容が見られた。行政職員によるバスの解説は、普段バスに乗車した経験のある児童が全体の半分以下であるため、児童にとって難しいという印象を受けた。また、体育館で授業を実施しているため、児童から積極的に手が挙がらず、児童が授業に参加しにくい場面が見られた。(東福)

3. 今後のスケジュール

(1) 検討部会開催予定

- ・第3回 12月3日(月) 富山市立五福小学校
「社会科の学習プログラム(6年生)」実施後
- ・第4回 25年1月 富山市立速星小学校
「社会科の学習プログラム(4年生)」実施後

(2) 推進協議会開催予定

- ・第2回 11月5日(月)16:00~ 富山市役所
- ・第3回 25年2月

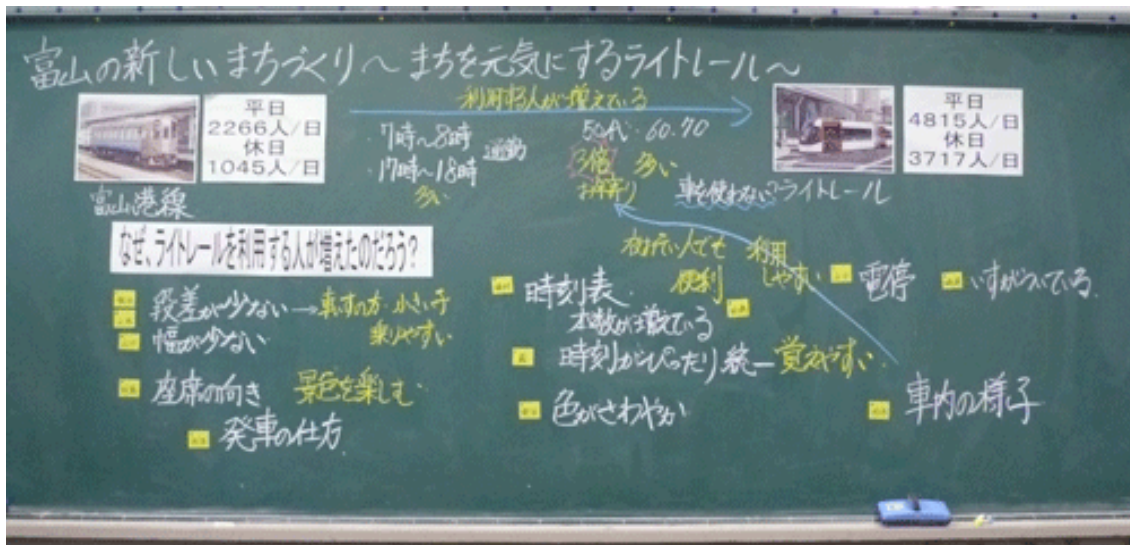
以上

6年生社会科 学習プログラム

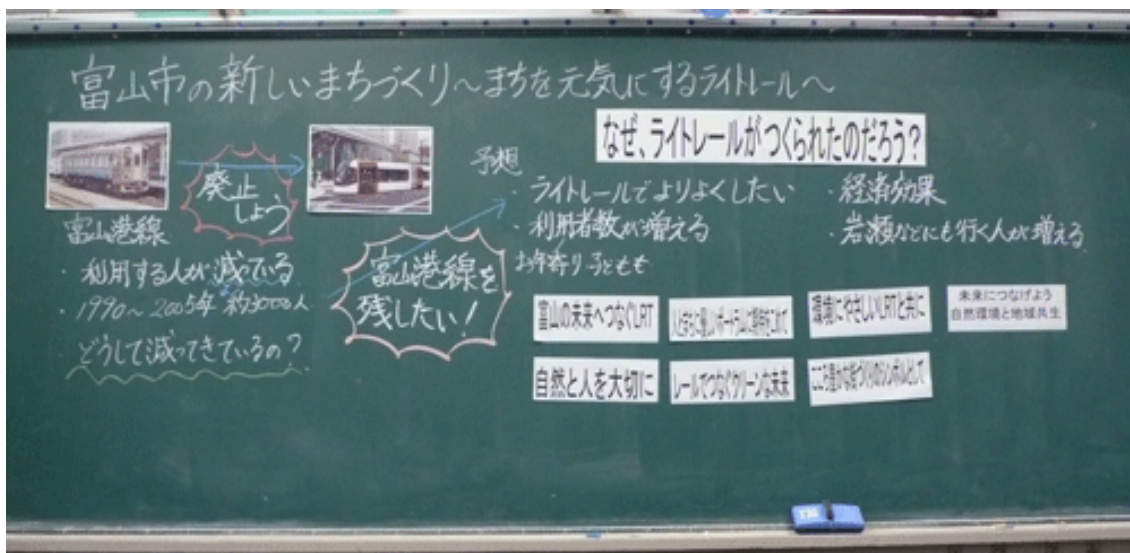
「富山の新しいまちづくり～まちを元気にするライトレール～」

1・2時間目の実施結果(板書)

1時間目：11月29日(木)9:30～10:15



2時間目：11月30日(金)9:30～10:15



3時間目：本日

平成24年度 第2回 富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会
玉川大学 教育学部 教育学科 教授 寺本潔委員の発言

協議会 開催日時：平成24年11月5日(月)16:00~17:40

モビリティ・マネジメントを実施する意義

- ・資料「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」に3つの課題認識が挙げられている。市民が3つの課題認識を持てれば、モビリティ・マネジメント教育に対して意義を感じることができる。
- ・将来の納税者として、未来のことを考えた課題認識を持つことが必要である。モビリティ・マネジメント教育は、児童が大人になった時の資質を形成することができる。

例：公共交通に乗って、公共交通がまちの活性化に繋がることを知る。

高齢者や妊婦にインタビューすることによって利用者の気持ちを知る。

クルマ社会のなかに児童がいることをつきつけ、児童の生活に公共交通が関係ないことを話す。

公共交通がなくなっても良いのかを児童に尋ねる。そうすると、なくなると困る、なくなるとなぜ困るのかという意見が出始める。

授業のなかで児童の考えに展開が起こる。(視点づくり)

- ・視点づくりができれば、質の高い富山市民を育てていける。とくに、課題認識の「割高な都市管理の行政コスト」について、市民が解決に向けて協力をしないことはおかしい。協力できる市民を育てていく必要がある。

公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり

<課題認識>

- ① 車を自由に使えない市民にとって、極めて生活しづらい街
- ② 割高な都市管理の行政コスト
- ③ 中心市街地の空洞化による都市全体の活力低下と魅力の喪失

↓

今後の人口減少と超高齢化により、問題はさらに深刻化する恐れ

富山市のまちづくりの基本方針

<概念図>

富山市が目指すお団子と串の都市構造

串：一定水準以上のサービスレベルの公共交通

お団子：串で結ばれた徒歩圏

議事要旨

平成 24 年度第 3 回富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会検討部会 議事要旨

日 時：平成 24 年 12 月 3 日（月）14：40～16：40

場 所：富山市立五福小学校 会議室

出席者：

所属	氏名
五福小学校 校長、実践校	柳内 誠治
保内小学校 教諭、小教研 社会科部会	劔田 秀則
速星小学校 教諭、小教研 社会科部会	津幡 和英
五福小学校 教諭、小教研 社会科部会	藤嶋 広樹
呉羽小学校 教諭、小教研 総合部会	堀 泰洋
東部小学校 教諭、小教研 総合部会	渡辺 純恵

(オブザーバー)

所属	氏名
豊田小学校 教諭、小教研 社会科部会	八木 道子
宮野小学校 教諭、小教研 社会科部会	柳田 和文
奥田小学校 教諭、小教研 社会科部会	近藤 言
神通碧小学校 教諭、小教研 理科部会	吉田 貴弘

事務局：

所属	氏名
富山市 都市整備部 交通政策課 係長	東福 光晴
富山市 都市整備部 交通政策課 主査	室田 知美
株式会社 計画情報研究所 主任研究員	米田 亮
株式会社 計画情報研究所 研究員	大西 友世

次 第：

1．協議事項

- (1) 6年生社会科の学習プログラムについて
- (2) 4年生社会科の学習プログラム(案)について
- (3) その他

2．今後のスケジュール

- (1) 検討部会開催予定
- (2) 推進協議会開催予定

1．協議事項

(1) 6年生社会科の学習プログラムについて

授業概要

- ・6年生社会科の時間における学習プログラム「富山市の新しいまちづくり～まちを元気にするライトレール～」を実施。
- ・学習のねらいは、「ライトレールを使った富山市の新しいまちづくりについて関心をもって調べ、これからの富山市について自分なりの考えをもつことができる」とする。
- ・単元は9時間で構成されており、ライトレールに関する時間数は3時限で、既に1時限目、2時限目が終了。本日の公開授業は、3時限目にあたる。

学習の目的

- ・社会科として本単元で、児童は社会の一員として何ができるのか、何をしなければならないのかを学習することになる。(剣田)
- ・社会科と富山版モビリティ・マネジメント教育の両方の目的を実現することが難しい。(剣田)

授業実施によって発生した課題とその対応

1) 公共交通としてライトレールだけを取り上げる

- ・ライトレールを取り上げる場合、ライトレールが運行していない地域にある小学校の児童は、なぜ中心部だけ便利な乗り物が運行されているのかという卑屈な気持ちを持つ可能性がある。(八木)
- ・社会科の評価として、「社会的事象についての知識・理解」、「観察・資料活用の技能・表現」、「社会的な思考判断」などがある。社会科では、「社会的な思考判断」が重要となる。ライトレールを1つの材料として社会について知り、自分の地域ではどうなのかを考えることで「社会的な思考判断」を行うことができる。この場合、対象が公共交通とは限らない。まちづくりなど、もっと広い視点での思考判断となる。(剣田)

2) 「人々の願い」に関する部分を含める

- ・学習指導要領によると、本単元で国民生活には国や地方公共団体などの働きが反映されていることを学習することになっている。そのため、地方公共団体である富山市の働きが国民生活にどのように反映されているかを知ることが授業のポイントとなる。学習指導要領には、「社会福祉については、高齢者や障害者などの福祉政策、地域の開発については道路の建設、地域の再開発、公共施設の建設を取り上げることが考えられる」と書かれている。これらの内容は、現在の単元構成で達成されている。また、学習指導要領には、「地域の人々や国民の願い、計画や実施までの期間や課程、規模や予算などを取り上げて具体的に調べるようにする」と書かれている。そのため、人々の願いに関する部分も含める必要がある。(津幡)
- ・単元名は「わたしたちの願いを実現する政治」である。この単元をライトレールに関する学習と置き換えることは良い。しかし、現在の単元構成だと、児童は住民の願いに関する部分を読み取りづらい。住民の願いに関する部分を加えれば、現在の単元構成で良い。例えば、富山港線周辺に住んでいた方々がなくなると困るという願いを持っていて、ライトレールとしての運行に繋がったことを加えることが考えられる。(剣田)
- ・児童にとって、人々の願いがどのように実現しているのかがわかりにくい。最初に税の仕組みについて説明し、その後にライトレールを紹介することが考えられる。(柳田)
- ・児童は、ゲストティーチャーの富山市東福氏から、人々のどのような願いがどんなふう to 実現したかの話を聞けると思っていた。しかし、富山市が自分たちの仕事としてライトレールをつくったとしか伝わってこない話の内容であった。人々からどのような願いがあったのかを話のなかに入れると良い。(近藤)

3) 「まちが元気になる」に関する部分を含める

- ・児童は、両親とともにクルマが中心の生活をおくっている。くしとだんごのまちづくりは、まちが郊外化していることが前提となっている。まずは、まちが郊外化した理由を説明する必要がある。そのうえで、このままクルマが中心の生活が続けば、将来の自分たちはどうなるのかを児童に考えさせる。(吉田)
- ・まちなかが元気にならないと税収が上がらない。税収が上がらないと郊外に税金を使うことが難しくなる。富山市は、このような大きなお金の流れを児童に理解して欲しいと考えている。しかし、郊外の小学校の場合、児童の自分たちの地域に対するイメージを下げる危険性があるため、大きなお金の流れを児童に説明しなくても良い。(吉田)
- ・くしとだんごのまちづくりが、まちなかの活性化に繋がることを説明したいのであれば、ライトレールやセントラム開業によってまちなかへの来街者がどれくらい増えたのかを示すグラフがあると良い。来街者の増加と世帯あたりの自家用車保有台数のデータを同一グラフ内で表現すると児童はより多くのことを読み取ることができる。(柳田)
- ・「まちが元気になる」というのは良い課題である。まちなかに住んでいる人、まちなかに訪

れる人、訪れる人を迎える人といった、多様な立場の方の願いを読み取れる資料があれば、児童は富山市がくしとだんごのまちづくりに込めた思いを知ることができる。(柳田)

4) 授業時間数

- ・時間数が多いと、誰も取り組まない。短くする必要がある。(津幡)

5) ゲストティーチャーの話の扱い

- ・富山市内の全小学校での実施を考えた場合、富山市東福氏にゲストティーチャーとして来ていただくことは難しい。東福氏が来なくても授業が実施できるように、児童用パンフレットのなかの「東福光晴さんのお話」部分を再検討する必要がある。

6) 学習プログラム修正の方向性

- ・社会科の教科書に掲載されている単元構成で授業を行うことで、社会科と富山版モビリティ・マネジメント教育の目的を擦り合わせることができ、「人々の願い」の部分についても含めることができる。教科書「見どころ その1」には、市民の願いによってライトレールがつくられたことが説明されている。また、教科書「見どころ その3」には、富山市がどのような意図があってライトレールをつくったのかが説明されている。私なら、全体の時間数を2時限にする。1時限目に、教科書「見どころ その1」と児童用パンフレット(A3)「自由に車を使えない人」などを使って、なぜライトレールがつくられたのかを児童に考えさせる。児童用パンフレット「富山港線とライトレールの時刻表」は、まさに市民の願いを実現している部分である。そして、2時限目に、児童用パンフレット(A3)「ライトレールの利用者数」や「富山市の65才以上の人口の割合」などを使って、ライトレールによってまちがどのように変化したのかを児童に考えさせる。教科書「板書計画」では、まちの変化として、通勤や通学の利便性向上による「利用客増」や、観光施設の整備による「観光客増」、公共交通の整備による「交通渋滞の緩和」が挙げられている。これに、児童用パンフレット(A4)の「くしとだんごのまちづくり」を使って説明を加えれば、ライトレールによるまちの変化と、富山市のまちづくりの方針が一致する。(渡辺)
- ・単元構成としては、渡辺先生の提案したもので良い。しかし、これに「公共交通利用促進」を入れようとするとなってしまう。(刃田)
- ・前回の富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会において、寺本委員からモビリティ・マネジメントを実施する意義として、「公共交通利用促進」という狭い視点ではなく、「未来のことを考えた課題認識を持てる市民の育成」という広い視点で考えるべきだという話があった。そのため、必ずしも「公共交通利用促進」に関する直接的な内容が入ってなくても良いと考えられる。(大西)

7) 児童用パンフレット

- ・児童用パンフレット(A4)の右下にある「公共交通の便利な地域に住む人を増加」のグラフは、富山市の意向であって、市民の意向ではない。児童用パンフレット(A4)の左下に

ある「富山市が目指しているまち」はイメージ図であるため掲載しても良いが、具体的な目標値を出した「公共交通の便利な地域に住む人を増加」のグラフは掲載しなくても良い。(剣田)

- ・利用客増や観光客増だけではなく、交通渋滞の緩和に関するグラフも児童用パンフレットに掲載してあると良い。(八木)
- ・富山市は、ライトレールの開業によって渋滞が緩和されたというデータを把握していない。利用客増や観光客増についてのデータはある。(米田)
- ・将来的に、児童用パンフレットなどの教材をHPからダウンロードできるようにする。(東福)

8) 授業中に出された児童の意見

- ・今回、授業前にライトレールへの乗車体験があった児童は少数であった。そのため、五福小学校以外の小学校で今回の授業を実施しても、同様のレベルまでは児童の意見を引き出すことは可能である。(藤嶋)

(2) 4年生社会科の学習プログラム(案)について

授業概要 (津幡)

- ・4年生社会科では、「富山県の広がり」の「富山県の交通」で学習プログラムの開発を行った。
- ・学習目標としては、鉄道の大切さについて考えるとともに、富山県の鉄道の様子について、主な都市の分布と関連づけて理解させる。
- ・社会科と富山版モビリティ・マネジメント教育の2つの目的を実現することに努めた。「1. 鉄道の大切さについて考える」は富山版モビリティ・マネジメント教育、「2. 高山本線の敷設図と人口分布の様子を関連付けて考える」「3. 富山県の鉄道の様子を人口分布と関連づけて考える」は社会科の目的を重視している。最後の「4. 学習のふりかえり」は、社会科と富山版モビリティ・マネジメント教育の両方が対象となる。

学習プログラムの内容

- ・6年生社会科の学習プログラムと逆のアプローチとなっており、おもしろい。地図上の人口分布を見ながら、鉄道が運行している場所を想定することで、だんごがくしで繋がれる。児童用パンフレットの材料として、6年生社会科の児童用パンフレット(A4)左上の地図をもう少し簡単にすれば利用できる。(渡辺)
- ・児童の作業用として、市街地と地名が入っている地図を用意することを考えている。(津幡)
- ・「1人を1km運ぶために排出される二酸化炭素量の比較」のグラフは、4年生にとって理解が難しい可能性はある。しかし、本単元は本来なら4年生の12月に扱う部分であり、どこの小学校でも環境教育が行われていることから、児童に理解してもらえないのではないかと考えている。(津幡)

- ・公開授業に参加する先生方に対して、事前に学習指導案の送付を行って欲しい。(柳内)
今後の予定
- ・今後、授業実施まで検討部会は開催しない。個別に教員と打合せを行いながら授業実施までの準備を進める。(東福)

(3) その他

4年生総合的な学習の時間の学習プログラムについて

- ・平成25年3月末までに、学習プログラムの修正案を作成する。(渡辺)
- 3年生・4年生社会科プログラムの副読本掲載に向けて
- ・副読本編集委員会には、検討部会での議論の内容や進捗に関する報告を行っている。平成26年度版の副読本に掲載する予定であるが、掲載内容は未定である。(劔田)

2. 今後のスケジュール

(1) 検討部会開催予定

- ・第4回 25年1月16日(水) 富山市立速星小学校
「社会科の学習プログラム(4年生)」実施後
小教研 社会科部会 4年生担任の先生数人にも出席していただく。

(2) 推進協議会開催予定

- ・第3回 25年2月

以上

(4) 第 4 回検討部会

検討部会資料

2013/1/16
計画情報研究所

3 年生社会科 学習プログラム

富山市のいろいろな乗り物

学習のねらい

富山市にはいろいろな公共交通があることやポータラムの特徴を知り、公共交通に興味を持つ。

対象学年

3 年生

教科単元

社会科 身近な地域

時間数

1 時限

準備物

児童用パンフレット

○×クイズ解答用の教員資料

授業概要

公共交通と土地利用が結びついていて、富山市にはさまざまな公共交通があることや富山市を代表するポータラムの特徴について知ることにより、自分たちの住む地域や公共交通への愛着が深まることが期待される。

授業の展開例

	学習活動	指導上の留意点
15分	<p>1.公共交通と土地利用が結びついていることをおさえる</p> <p>指示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童用パンフレットの地図と写真を見てみましょう。 <p>発問 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富山市のようすが分かる地図を見て乗り物はどこを走っていますか？市の真ん中や外側、山手や海側などの言葉を使って説明して下さい。 <p>発問 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富山市にはどんな種類の乗り物が走っていますか。 <p>発問 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんでこんなにたくさんの種類の乗り物があるのでしょうか。(いつこれらの乗り物を使いますか。) <p>土地利用と路線図の両方を示した地図が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通は、店や会社の多いところ、住宅の多いところに走っていることや海側や山側にも走っていることに気づくように促す。 ・店や会社の多いところ（中心部）にはセントラムやバス、その周辺の住宅の多いところ（郊外 1）には路面電車やバスが走っており、その周辺の田の多いところ（郊外 2）ではバスだけしか走っていないところもあることに気づくように促す。 ・中心部に近い程、乗り物に乗ったり降りたりする人が多くなることを児童に伝える。 ・乗り降りする人の多さによって、乗り物の大きさを変えていること、遠くに行くため、クルマを運転できない人（高齢者、高校生、子ども、免許を持っていない人など）も行きたい場所に行けるように公共交通が整備されていることをおさえる。
5分	<p>2.くしとだんごのまちづくりについて知る（児童用パンフレットで説明）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・店や会社の多いところや、住宅の多いところを誰でも使える公共交通でつなぎ、車が無くても移動できるまちを目指していることを児童に伝える。
15分	<p>3.ポートラムの特徴を知り興味をもつ</p> <p>発問</p> <p>ポートラムについてどのようなことがわかりましたか？（児童用パンフレットで説明後）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童用パンフレット最後のクイズにも回答させる。 ・ポートラムの乗車する機会に、説明内容を確認するように促してもよい。
10分	<p>4.富山市のいろいろな乗り物についての感想をノートにまとめる</p>	

クイズ1 ○

だんさ が ない



ポータルムの入り口の高さとのり場の高さと同じだから、
車イスの人やベビーカーをおす人でもかたんんにのる
ことができます。

テレビ媒体を活用したMM啓発



テレビ広報番組 「とやま情報局」



放送日 毎月 最終日曜日 午前11時45分から正午まで(15分)

北日本放送の平島亜由美アナウンサーを進行役に、市長をはじめ市の職員が富山市の事業やイベントについて、映像やグラフなどを織り交ぜながら、お話しします。

1月27日(日曜日)は、

「かしこく使おう公共交通」をテーマに放送します。

車はとても便利なものです。

しかし、環境や健康のためには、車に頼りすぎず、公共交通機関を適度に使うことも大切です。

「公共交通をかしこく利用する暮らし」について、考えてみませんか。



1月9日(水) 五福小学校にて収録の様子

議事要旨

平成 24 年度第 4 回富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会検討部会 議事要旨

日 時：平成 25 年 1 月 16 日（水）15：40～17：00

場 所：富山市立速星小学校 図書室

出席者：

所属	氏名
五福小学校 校長、実践校	柳内 誠治
速星小学校 教諭、小教研 社会科部会	津幡 和英
五福小学校 教諭、小教研 社会科部会	藤嶋 広樹
呉羽小学校 教諭、小教研 総合部会	堀 泰洋

(オブザーバー)

所属	氏名
上滝小学校 教諭、小教研 社会科部会	今田 久貴
長岡小学校 教諭、小教研 社会科部会	飯田 敬一
堀川南小学校 教諭、小教研 社会科部会	田中 梨沙
堀川小学校 教諭、E S D実践校	石田 和義

事務局：

所属	氏名
富山市 都市整備部 交通政策課 課長	大場 一成
富山市 都市整備部 交通政策課 係長	東福 光晴
富山市 都市整備部 交通政策課 主査	室田 知美
株式会社 計画情報研究所 研究員	大西 友世
株式会社 計画情報研究所	出口 努

次 第：

1．協議事項

- (1) 4年生社会科の学習プログラムについて
- (2) 3年生社会科の学習プログラム(案)について
- (3) 教員に児童用パンフレットを使っていた方法について

2．報告事項

- ・テレビ広報番組「とやま情報局」出演について

3．今後のスケジュール

- (1) 検討部会開催予定
- (2) 推進協議会開催予定

1．協議事項

- (1) 4年生社会科の学習プログラムについて

授業概要

- ・4年生社会科の時間における学習プログラム「富山県の広がり」を実施した。
- ・学習のねらいは、「鉄道の大切さについて考えるとともに、富山県の鉄道の様子について、市街地の分布と関連付けて理解することができる」とする。
- ・単元は8時間で構成されており、モビリティ・マネジメントに関する時間数は1時限で7時限目にあたる。授業では、富山県の広がりに触れるために鉄道を取り上げて学習を行った。8時限目には、道路や空港を取り上げて総合的に富山県の交通について学習を深める予定である。
- ・本時は、大きく2本立ての授業内容とした。前半では、富山版モビリティ・マネジメント教育を中心として公共交通の大切さや問題点を学習する。後半では、社会科における富山県の交通の広がりをテーマに鉄道がどのような場所を走っているのかを学習した。

授業実施によって発生した課題とその対応

1) 社会科と富山版モビリティ・マネジメント教育の融合

- ・前半の富山版モビリティ・マネジメント教育の部分と後半の社会科の部分の繋がりを持たせることが難しい。(津幡)
- ・前半の富山版モビリティ・マネジメント教育の部分については、「1人を1km運ぶのに排出される二酸化炭素の量」のグラフに対する児童の反応が良かった。このグラフを使って、児童に公共交通の良さを伝えることができれば富山版モビリティ・マネジメント教育の目的は達成できるのではないか。社会科と富山版モビリティ・マネジメントとの繋がりを持たせる必要性は感じるが、具体的な方法までは思い浮かばない。(飯田)

- ・4年生社会科で公共交通を扱うことは、十分可能である。その際、利用者へのインタビューなどの体験学習を通じて児童が自分と他人の考えを比較して考える学習方法が有効である。(石田)
- ・富山版モビリティ・マネジメント教育の学習内容は、一市民であり、これから大人になっていく児童に学習して欲しい内容である。前半の富山版モビリティ・マネジメント教育の部分と後半の社会科の部分の繋がりを持たせる必要はあるが難しい。(田中)
- ・児童用パンフレットの白地図を使って、児童に鉄道路線を書かせる内容は良かった。富山県の伝統工芸と鉄道網を関連付けて学習する方法も考えられる。富山県の伝統工芸を知っていただくために現地に来ていただく、そのための移動手段として鉄道という流れとなる。(今田)
- ・前半の富山版モビリティ・マネジメント教育の部分と後半の社会科の部分は、学習のねらいが明らかに違う。この2つを融合させる場合、社会科を中心に考えることになる。社会科のなかには、どのようにして富山版モビリティ・マネジメント教育の要素を入れ込むかを考えることが必要である。児童は公共交通をあまり使っていないという実態がある。児童用パンフレットの白地図を使って、富山県の鉄道の広がりやを学習したうえで、児童が普段から鉄道を利用していない実態を確認する。そのうえで、公共交通の役割を確認すれば、社会科に富山版モビリティ・マネジメント教育の要素を入れ込むことができる。汎用性を持たせるために、発問内容や公共交通の役割を確認するためにどのような資料を提示するかなどの検討は必要である。(堀)
- ・児童用パンフレットに掲載した3つのグラフについて、繋がりを考える必要がある。「環境に優しい公共交通」のグラフは、児童の反応が良かったので使用すれば良いと思う。しかし、「公共交通を利用する人」と「公共交通の利用者数」の2つのグラフは、児童にとって読み取ることが難しかったように感じる。児童用パンフレットへの掲載は「環境に優しい公共交通」のグラフだけでも良いのではないか。(東福)
- ・公共交通の良さを環境に良いという点だけで主張すると、電気自動車の方が良いと考える児童が出てくる。環境面だけではなく、誰でも利用できるという面も主張する必要がある。(柳内)

2) 授業時間数

- ・教員が手軽に取り組めることを目指し、授業時間数は1時限とした。しかし、前半の富山版モビリティ・マネジメント教育に関する部分が広がりすぎたため、後半の社会科に関する部分に時間を割くことができなかった。社会科の授業で、富山市と高岡市の人口が多いという点を学習しているため、人口が多い都市を中心に放射線状に鉄道が都市と繋いでいるという内容まで授業を行いたかったが時間が足りなかった。時間配分と内容を吟味する必要がある。(津幡)
- ・学習内容について、堀先生からご指摘があったような方向転換を考えなければ、1時限で実施することは難しい。本来であれば、本単元は12月に実施する内容である。12月は教員にとって時間の無い時期であるため、現在の1時限以上の授業にはしたくない。(津幡)

3) 複数の学年における富山版モビリティ・マネジメント教育への取り組み

- ・各学年で富山版モビリティ・マネジメント教育に取り組み、学習を積み重ねていくことには意義がある。(藤嶋)
- ・「くしとだんごのまちづくり」について3年生で富山市を取り上げて簡単に学習し、4年生でも富山県を取り上げて学習することで富山市だけでなく富山県でも「くしとだんごのまち」になっていることを知ることができ、理解が深まる。(柳内)

4) 今後の予定

- ・4年生を対象とした社会科の学習プログラムについて、今回の授業結果を踏まえた改定を加え、平成25年度にもう一度授業を行う。(柳内)

(2) 3年生社会科の学習プログラム(案)について

1) 学習プログラムと児童用パンフレットの構成

- ・児童用パンフレットの構成はこれで良い。良いものが出来上がると思う。(堀)
- ・現在の学習プログラムと児童用パンフレットの構成で進めていただいて良い。(柳内)

2) 今後の予定

- ・平成25年度の5月に3年生を対象として五福小学校で公開授業を実施する。これに加えて、検討部会の委員となっている教員が在籍している全小学校でも3年生を対象として授業を実施していただけるようお願いする。(柳内)

(3) 教員に児童用パンフレットを使っていただく方法について

- ・平成25年度中にインターネット上のHPから児童用パンフレットをダウンロードできるように準備を行う。各教員が必要に応じて、HPからダウンロードしたデータを各小学校で印刷して授業で使用する。(柳内)
- ・児童用パンフレットの存在を教員にPRすることが重要である。どんなに良いものを製作しても、存在を知っていただかなくては授業で使用していただけない。(津幡)
- ・富山版モビリティ・マネジメント教育を推進するには、各小学校に推進役の先生が必要である。富山市の小学校の先生は真面目な方が多いため、教務主任の先生が取り組んで欲しいと言えば取り組むと思う。4月に開催される教務主任の会議で富山版モビリティ・マネジメント教育の紹介をして、取り組んで欲しいとお願いしてはどうか。お願いするだけでなく、3月の教務主任の会議で実施成果を報告して欲しいとお願いすることが必要である。そうすることで、教務主任の先生は取り組まなければならないという気持ちになる。(堀)

2. 報告事項

- ・1月27日(日)のテレビ広報番組「とやま情報局」において、「かしこく使おう公共交通」をテーマに1月9日に五福小学校で行われた授業風景が放送される。お時間のある方は是非見ていただきたい。(東福)

3. 今後のスケジュール

(1) 検討部会開催予定

- ・平成25年度 第1回

平成25年5月頃 「社会科の学習プログラム(3年生)」実施後

- ・平成25年5月の検討部会前に、富山市と私で組織づくりと年間スケジュールについて打合せをしたい。開催時期は、平成25年度の各教員の担当学年が決定する4月が望ましい。(柳内)

(2) 推進協議会開催予定

- ・第3回 25年2月19日(火)15:30~

以上